

モクレポ



○約100年ぶりに発見された新種のクマノザクラ。
画像提供：森林総合研究所

令和5年4月
No.19

特集

- 「第3回木材利用促進本部」の開催
- 森林シューセキ！事例報告会
- 気候変動に関する政府間パネル(IPCC) 第6次評価報告書統合報告書の公表

このレポートは、木材需給、木材価格、木材産業の動向等に関するデータを集約・整理し、毎月定期的に公表するものです。林業・木材産業関係者の事業活動に役立てていただくことを目指しています。

【利用上の注意】

1. 原則として毎月中旬に公表。公表日の5営業日前に入手可能なデータを反映しています。
2. 内容については、必要に応じて項目の追加・削除などの変更を行うことがあります。
3. 調査方法の見直しに伴い、データが接続しない場合があります。

CONTENTS 令和5年4月号

特集	1 「第3回木材利用促進本部」の開催	…1
	2 森林シューセキ！事例報告会	…3
	3 気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第6次評価報告書統合報告書の公表	…4
01	基礎的指標	
	1 新設住宅着工戸数	…5
	2 新設住宅着工床面積 <参考>非居住用建築物着工床面積	…8
	3 木材産業の業況	…12
	4 USドル及びユーロ為替相場	…13
	5 米国民間新設住宅着工戸数、日本向けコンテナ運賃	…14
6 中国の木材輸入量、EUにおける建設活動水準	…15	
02	木材価格情報	
	1 スギ・ヒノキ原木の主要市場価格	…16
2 木材価格（農林水産統計）	…18	
03	木材需給情報	
	1 需要量、供給量、自給率の動向	…27
	2 製材工場の原木入荷、製品生産等の動向	…30
	3 合板工場の原木入荷、製品生産等の動向	…31
	4 チップ工場の原木入荷、製品生産等の動向	…32
	5 燃料材（国内生産）利用量、紙品種別生産高	…33
	6 素材生産量	…34
7 木材生産の産出額	…35	
04	林産物輸出入情報	
	1 林産物輸出額	…36
	2 木材輸出額	…37
	3 木材輸入額	…38
	4 木材輸入量	…40
5 製材・構造用集成材・合板の輸入平均単価	…45	
05	特用林産情報	
	1 特用林産物の国内生産量	…46
	2 特用林産物の産出額	…47
	3 特用林産物の輸出入量	…48
	4 特用林産物の輸出額	…49
	5 中国からのしいたけ菌糸輸入量	…52
6 きのご類の卸売量・価格	…53	
06	セミナー・イベント情報	
4月中旬以降の開催情報	…54	
お知らせ	森林の売買に関する情報 ～山を買いきたいという話があったときには～	…55
	森林由来J-クレジット創出者向けハンドブックの公表について	…57
	消費税のインボイス制度（適格請求書等保存方式）が令和5年10月1日から始まります！	…58
	林業信用保証のご案内	…62
	ウッド・チェンジ ロゴマーク活用のご案内	…63
緑の募金	…64	

特集-1 「第3回木材利用促進本部」の開催

- 2023年3月30日、都市（まち）の木造化推進法（※）に基づく第3回木材利用促進本部（本部長：農林水産大臣）を開催。
- この会合では、「令和4年度建築物における木材の利用の促進に向けた措置の実施状況の取りまとめ」を決定。

（※）脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律

■ 第3回木材利用促進本部(2023年3月30日開催)

<出席者>

野村農林水産大臣(本部長)
角田農林水産大臣政務官
柘植総務副大臣
築文部科学副大臣
中谷経済産業副大臣
清水国土交通大臣政務官
小林環境副大臣



令和4年度建築物における木材の利用の促進に向けた措置の実施状況の取りまとめを決定するとともに、出席者から各省の取組を報告。



これまでの開催状況はこちら

■ 令和4年度建築物における木材の利用の促進に向けた措置の実施状況の取りまとめ

建築物一般での木材利用促進に向けた取組

- 全都道府県と94%の市町村が、木材利用方針を策定。
2021年10月策定の新基本方針を踏まえ、33都道府県及び213市区町村が改定(2022年12月末時点)。
- 国が実施する補助事業等の一元的な案内窓口として、木材利用促進本部事務局に「建築物の木造化・木質化支援事業コンシェルジュ」を2023年2月に開設。
- 建築物木材利用促進協定について、2023年3月15日時点で、国10件、地方公共団体60件の協定が締結。
協定に基づき、計732件の建築物の木造化・木質化(約15,100m³の木材使用、計9,600t-CO₂の炭素を貯蔵)、木造に係る人材育成、情報発信等の取組が進展。

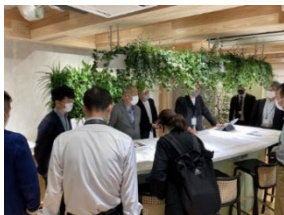


コンシェルジュの詳細はこちら



協定制度の詳細はこちら

<建築物木材利用促進協定取組事例>



左 [協定締結者] (学)立命館 × 大分県
: 教学棟完成イメージ

右 [協定締結者] (一社)日本木造耐火建築協会 × 農林水産省
国土交通省
: KITOKI完成見学セミナーの様子

○木材利用促進月間(10月)を中心とした普及啓発の取組(全国で285件の実施を国として把握)。

木材利用優良施設等コンクールに文部科学大臣賞を新設、ウッドデザイン賞に経済産業大臣賞、国土交通大臣賞及び環境大臣賞を新設するなど、表彰制度を充実。



ウッドデザイン賞の詳細はこちら



左 農林水産大臣による木材利用促進月間の周知(2022年9月30日定例会見)

中 木づかいシンポジウム2022(2022年10月7日開催)



木材利用優良施設等コンクールの詳細はこちら

○木造建築物の設計及び施工に係る技術の普及の促進、住宅における木材の利用の促進、規制の在り方の検討、建築用木材の適切かつ安定的な供給の確保といった建築物への木材利用促進のための環境整備を実施。

○建築物への木材利用の状況に関しては

✓2021年における建築用材等について、総需要量は前年比2,957千m³増加、国内生産量は同1,712千m³増加、自給率48%。

✓2022年に着工した建築物の木造率(床面積ベース)は、低層住宅で82.3%であるのに対して、低層非住宅建築物では14.0%、中高層建築物では住宅・非住宅ともに0.1%以下。

✓2022年に着工した中高層木造建築物の床面積は、前年比4,600m²増加。過去10年間でみると、概ね増加傾向で推移。

国が整備する公共建築物における木材の利用の目標の達成状況

○令和3年度に国が整備した、積極的に木造化を促進するとされている低層の公共建築物のうち、木造化された公共建築物は75棟あり、施設が必要とする機能等の観点から木造化が困難であったものを除くとその木造化率は97%。

＜国が整備した公共建築物での木材利用推進状況＞

整備及び使用実績	単位	R2年度	R3年度
基本方針において積極的に木造化を促進するとされている公共建築物等 ^{注1}	棟数[A]	154	94
	延べ面積(m ²)	15,905	13,477
うち、木造化された公共建築物	棟数[B]	132	75
	延べ面積(m ²)	13,861	10,760
うち、各省各庁において木造化になじまない等と判断された公共建築物	棟数	22	19
(B/A)		85.7%	79.8%
内装等が木質化された公共建築物 ^{注2}	棟数	220	177
木材の使用量 ^{注3}	m ³	5,286	5,546
各省各庁において木造化になじまない等と判断された公共建築物	棟数	22	19
うち、施設が必要とする機能等の観点から木造化が困難であったもの ^{注4}	棟数[C]	16	17
	棟数	6	2
木造化率(B/(A-C))		95.7%	97.4%

注1: 旧基本方針において積極的に木造化を促進するとされている低層の公共建築物。

注2: 木造化された公共建築物の棟数は除いたもので集計。

注3: 当該年度に完成した公共建築物において、木造化及び木質化による木材使用量。また、木造化を図った公共建築物の内、使用量が不明なものは0.22m³/m²で換算。内装等に木材を使用した公共建築物で、使用量が不明なものについての木材使用量は未計上。

注4: 林野庁・国土交通省の検証チームが、各省各庁において木造化になじまないと判断された施設について、各省各庁にヒアリングを行い、木造化しなかった理由等について検証をした結果。

＜木造化した公共建築物の事例＞



法務省 熊本刑務所職員宿舎(熊本県)



農林水産省 東北森林管理局 森林技術・支援センター / 中里森林事務所(青森県)



環境省 奄美群島国立公園 奄美世界遺産センター(鹿児島県)



財務省 麻薬探知犬訓練センター 羽田犬舎(東京都)

＜内装等の木質化を行った公共建築物の事例＞



参議院 参議院別館(東京都) [玄関広庭]



国土交通省 道の駅たちばな 情報施設棟(福岡県) [壁、天井、床]

公共建築物における木材の利用の促進に向けた国の取組

○技術基準類の整備、公共建築物の木造化・木質化に対する支援、木材利用促進に関する講習会等を開催するなど、公共建築物における木材の利用促進に向けた取組を実施。

○令和3年度に着工した低層(3階建て以下)の公共建築物(注)の木造率(床面積ベース)は、29.4%。●
2010年の法制定以降上昇傾向で推移。

令和3年度の
公共建築物
の木造率の
試算結果は
こちら



注: 国、地方公共団体、地方公共団体の関係機関及び独立行政法人等が整備する全ての建築物並びに民間事業者が建築する教育施設、医療、福祉施設等の建築物を「公共建築物」として試算。

「令和4年度 建築物における木材の利用の促進に向けた措置の実施状況の取りまとめ」の詳細は、次のURLをご覧ください。

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/riyou/koukyou/kentikubutusoti.html>



特集-2 森林シューセキ！事例報告会

- 2023年2月21日に「森林シューセキ！事例報告会」を開催。
- 全国から9団体が先進事例を報告。「森林境界推計図」を作成する取組、集積計画の全員同意を効率的に取得する方法など、森林環境譲与税の効果的な活用や森林経営管理制度の円滑な運用に関する知見・ノウハウを共有。

発表団体・内容

■ 境界明確化・施業集約化部門

- 白神森林組合：衛星電波による測位機器(RTK-GNSS)を活用した境界明確化の取組
- 北信州森林組合：公図を中心とする境界案の作成
- 徳島県神山町：境界明確化の成果を地籍調査に活用する手法

■ 森林経営管理制度部門

- 福井県福井市：公図や航空レーザ計測成果等から「森林境界推計図」を作成する取組
- (一社)南予森林管理推進センター：市町が意向調査の結果を事業体に提供する仕組み
- (一社)やましごと工房：集積計画の全員同意を効率的に取得する手法
- 石川県金沢市：意向調査と森林位置図の確認を同時に行う手法

■ 森林環境譲与税部門

- 千葉県(浦安市、山武市)：県による自治体間連携創出
- 兵庫県宍粟市：森林環境譲与税の各事業への配分基準

《参加者からの感想》

- ✓ それぞれの地域の特性や実情に応じて、最新の技術を活用しながら取組を進めている姿勢が印象に残った。
- ✓ 境界明確化に関する取組事例が多く発表され、参考になった。
- ✓ 協議会や森林組合など、関係者間の横の連携が取れている地域で取組を進めることができていると感じた。



発表会場の様子

「森林シューセキ！事例報告会」当日の発表資料は、次のURLをご覧ください。

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/keieikanri/sinrinkeieikanriseido.html#3.3>



お知らせ 森林環境譲与税・森林経営管理制度のパンフレットが完成

国民の皆様や森林所有者の方々に制度を広く知っていただくため、2種のパンフレットを作成しました

各パンフレットは、林野庁HPからダウンロードできます。

(森林環境譲与税パンフレット)

https://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/kankyousei/kankyousei_jouyousei.html#t4



(森林経営管理制度パンフレット)

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/keieikanri/sinrinkeieikanriseido.html#1>



《一般向け》
森林環境譲与税パンフレット



《所有者向け》
森林経営管理制度パンフレット

気候変動に関する政府間パネル(IPCC) 第6次評価報告書統合報告書の公表

- IPCCは2023年3月20日に、第6次評価報告として公表してきた3つの作業部会(※1) 報告書と3つの特別報告書(※2)の主な知見を取りまとめた統合報告書を公表。
- 既に確認されている温暖化の影響や、即時の追加的な温室効果ガス排出削減の必要性を指摘し、そのために活用可能な方策や技術等を提示。

(※1) 自然科学的根拠、影響・適応・脆弱性、気候変動の緩和 (※2) 1.5°C特別報告書、土地特別報告書、海洋・雪氷圏特別報告書

気候変動に関する政府間パネル(IPCC)とは

- 1988年に世界気象機関(WMO)及び国連環境計画(UNEP)により設立された政府間組織。5～7年毎にその間の気候変動に関する科学的知見の評価をまとめた「IPCC評価報告書」を公表。
- IPCC評価報告書は、各国が承認・採択した最新の科学的知見として、UNFCCC(国連気候変動枠組条約)をはじめとする国際交渉や国内政策のための基礎情報として世界中の政策決定者が引用。

第6次評価報告書統合報告書の概要 (記述は要約。原文は統合報告書の政策決定者向け要約(SPM)の{}内に示す章を参照)

【温暖化は進行】

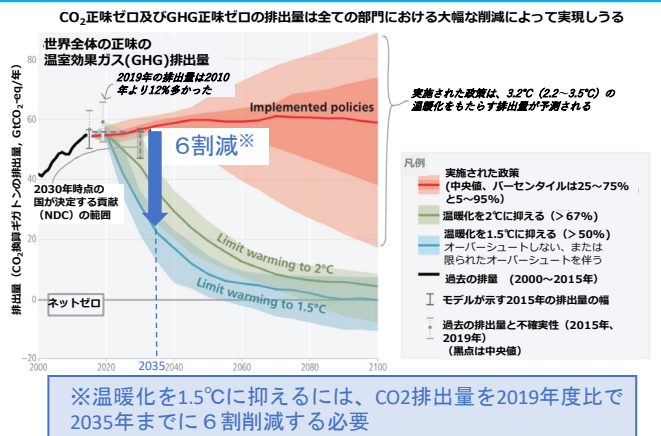
地球温暖化が人間活動の影響で起きていることは疑う余地がなく、世界の平均気温は工業化以前と比べて既に1.1°C上昇。これにより、自然環境や人々の生活に悪影響がもたらされ、一部の生態系と地域では適応の限界に到達。{A.1、A.2、A.4}

【追加的な排出削減が必要】

2020年以降、各国が計画した政策を実施した場合、右図赤線の温室効果ガス排出量が予測。温暖化を1.5°C(青線)又は2.0°C(緑線)に抑える排出量を実現するためには、全ての部門で急速、大幅、即時の温室効果ガス排出削減が必要。{図SPM.5、B.6}

【この10年間の対策が重要】

この10年間の活動は、現在から数千年先まで影響。この間の緩和(温室効果ガス排出削減と吸収の対策)と適応の対策は、将来的な悪影響を軽減し、多くの副次的な便益(コベネフィット:相乗効果)をもたらす。{C.1、C.2}



(統合報告書 図SPM.5より一部改変)

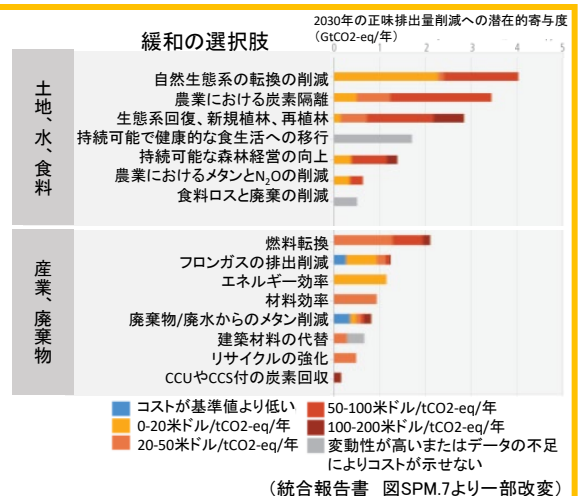
第6次評価報告書統合報告書の森林分野の主な記述

【森林を活用した対策は緩和・適応の両面で有益】

2019年時点の世界の温室効果ガス排出量のうち、22%が農業、林業及びその他の土地利用(AFOLU)分野から排出。このAFOLU分野の排出を削減する対策の多くは、緩和と適応の両方に効果があり、なかでも生態系回復・新規植林・再植林や持続可能な森林経営の向上は低コストで寄与度の高い選択肢。{A.1.4、C.3.5、図SPM.7}

【森林分野の緩和策は現時点で活用可能】

森林管理の向上による二酸化炭素の排出削減は、現時点で技術的に実施でき、多くの地域で展開が期待できる緩和策。木材製品など持続可能に調達された農林産物は、他の温室効果ガス排出量の多い製品の代わりに使用できる。{A.4.2、C.3.5、図SPM.7}



(統合報告書 図SPM.7より一部改変)

IPCC及び第6次評価報告書統合報告書の詳細は、次のURLをご覧ください。
農水省HP : https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/b_kankyo/230320.html
IPCCのHP(英文) : <https://www.ipcc.ch/report/ar6/syr/>



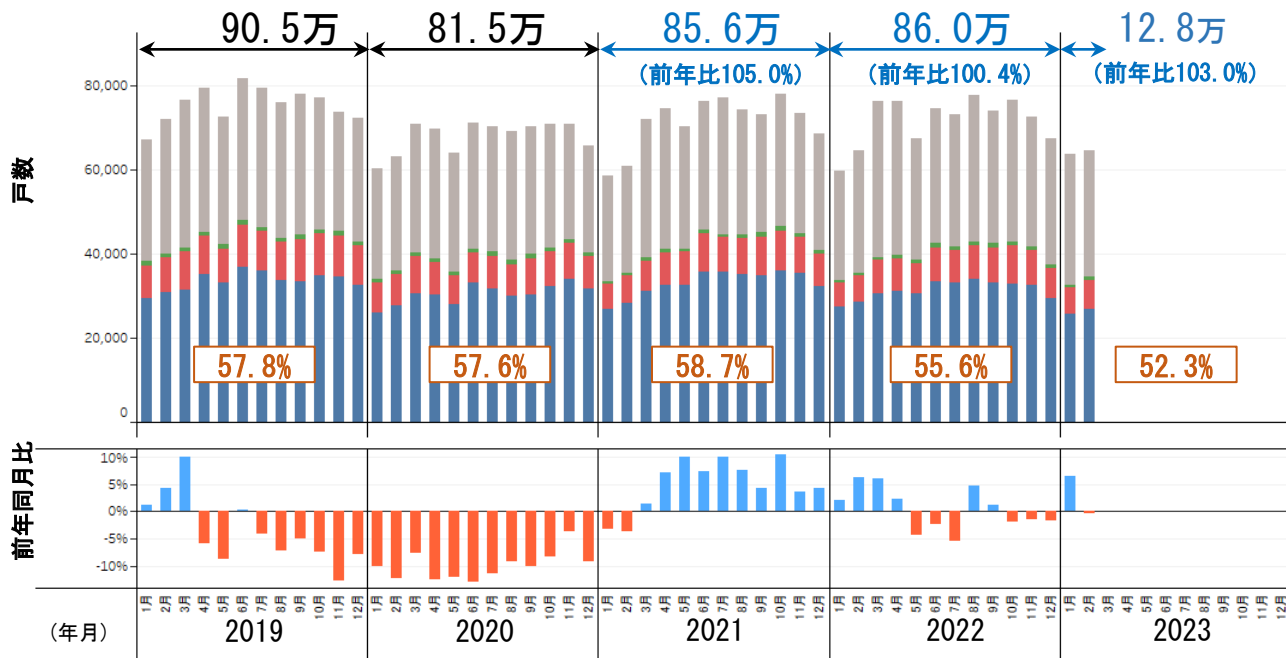
農水省HP



IPCCのHP

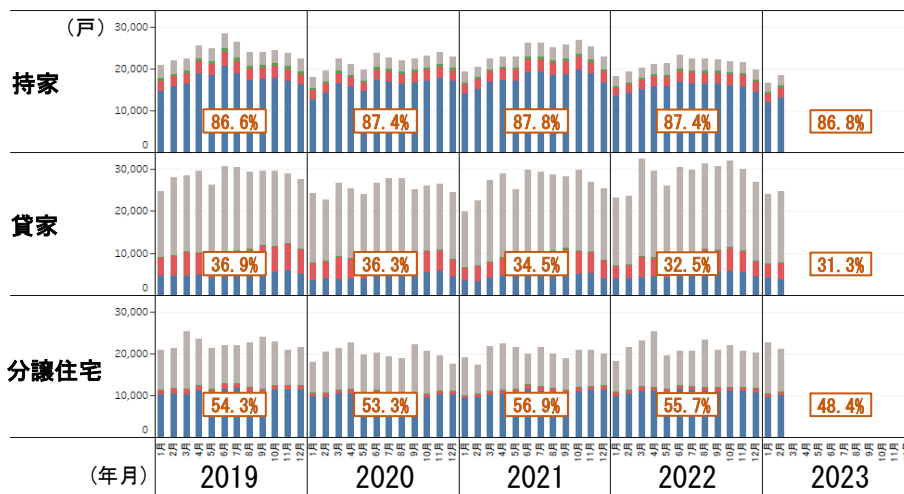
基礎的指標-1 新設住宅着工戸数

- 2022年の新設住宅着工戸数は、86.0万戸（前年比100.4%）、このうち木造住宅は47.8万戸（同95.1%）
- 2023年1～2月の新設住宅着工戸数は、12.8万戸（前年同期比103.0%）、このうち木造住宅は6.7万戸（同96.9%）。



(単位：戸)

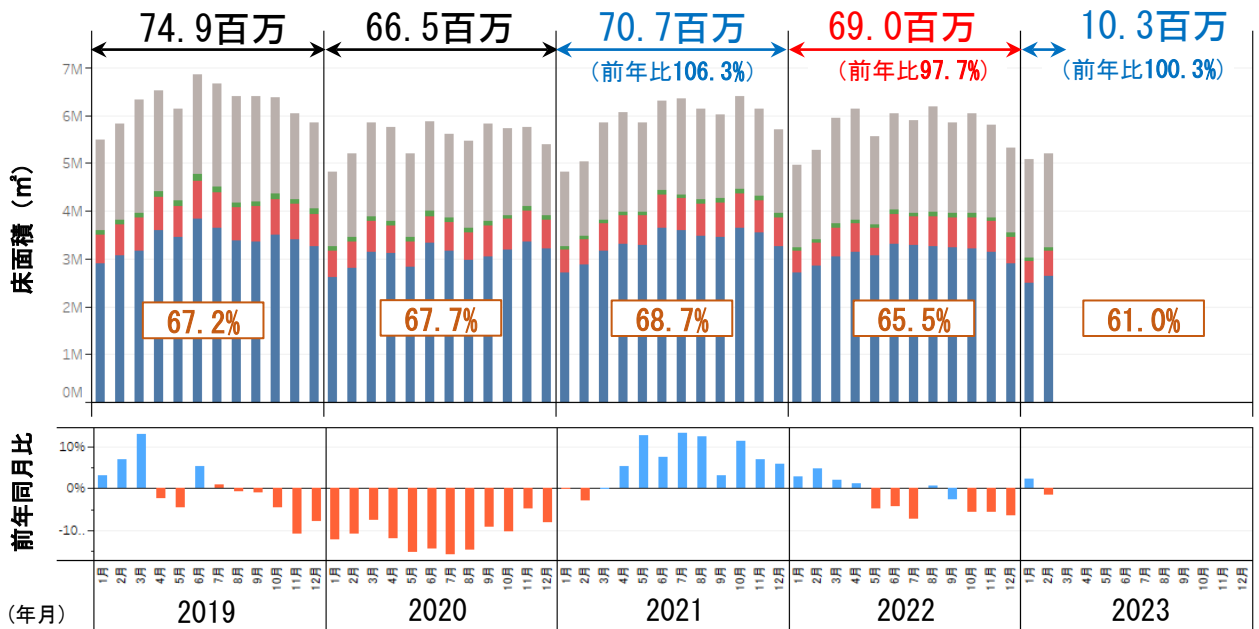
構造別の着工戸数	2023年 1～2月	2022年 同期	2022年 同期比	2021年 同期	2021年 同期比
合計	128,030	124,304	103.0%	119,212	107.4%
■非木造	61,031	55,183	110.6%	50,364	121.2%
木造	66,999	69,121	96.9%	68,848	97.3%
■木造プレハブ	1,527	1,263	120.9%	1,349	113.2%
■2×4	12,911	12,048	107.2%	12,508	103.2%
■在来軸組	52,561	55,810	94.2%	54,991	95.6%
□木造率	52.3%	55.6%		57.8%	



資料：国土交通省「住宅着工統計」

基礎的指標-2 新設住宅着工床面積

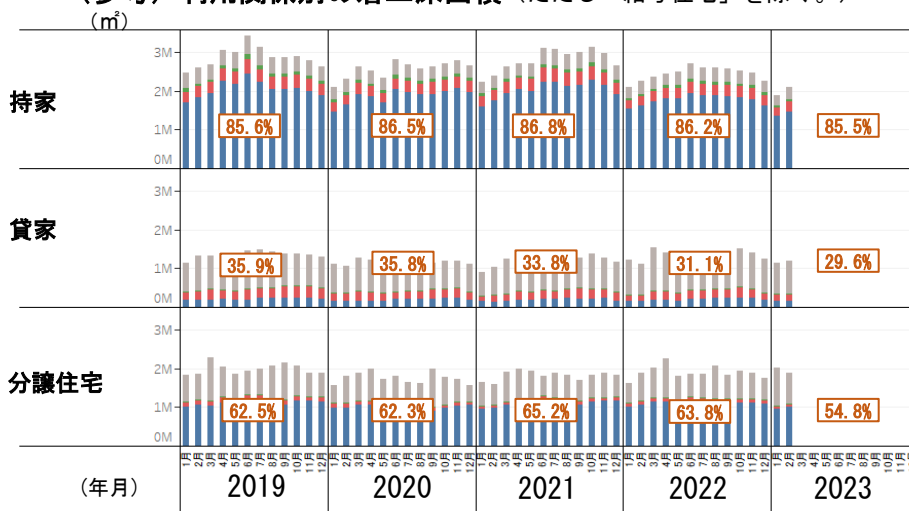
- 2022年の新設住宅着工床面積は、69.0百万㎡（前年比97.7%）、このうち木造住宅は45.2百万㎡（同93.0%）。
- 2023年1～2月の新設住宅着工床面積は、10.3百万㎡（前年同期比100.3%）、このうち木造住宅は6.3百万㎡（同94.3%）。



(単位：千㎡)

構造別の着工床面積	2023年 1～2月	2022年 同期	2022年 同期比	2021年 同期	2021年 同期比
合計	10,277	10,250	100.3%	9,870	104.1%
■非木造	4,007	3,602	111.2%	3,132	127.9%
木造	6,270	6,647	94.3%	6,739	93.0%
■木造プレハブ	148	130	113.7%	139	106.4%
■2×4	1,008	957	105.3%	1,014	99.4%
■在来軸組	5,114	5,561	92.0%	5,586	91.6%
□木造率	61.0%	64.9%		68.3%	

(参考) 利用関係別の着工床面積 (ただし「給与住宅」を除く。)



資料：国土交通省「住宅着工統計」

＜参考＞非居住用建築物着工床面積

(単位:千㎡、%)

年次	月	合計		構造別			
				木造		非木造	
			前年比		前年比		前年比
2019年	1	3,970	101	259	84	3,711	102
	2	3,700	85	243	96	3,457	84
	3	3,334	81	294	105	3,040	79
	4	4,440	96	354	105	4,085	95
	5	4,170	99	327	103	3,844	99
	6	4,641	102	377	102	4,264	102
	7	4,980	100	452	122	4,527	99
	8	3,987	95	479	131	3,508	91
	9	3,609	82	431	96	3,179	80
	10	3,922	85	409	99	3,513	84
	11	3,750	90	386	102	3,364	89
	12	4,184	97	330	92	3,854	98
2020年	1	2,973	75	228	88	2,745	74
	2	3,605	97	230	95	3,374	98
	3	3,718	112	280	95	3,437	113
	4	4,086	92	312	88	3,774	92
	5	4,078	98	259	79	3,818	99
	6	3,798	82	347	92	3,451	81
	7	3,855	77	323	71	3,532	78
	8	3,662	92	371	77	3,291	94
	9	3,891	108	416	97	3,476	109
	10	3,635	93	400	98	3,235	92
	11	3,371	90	346	90	3,025	90
	12	3,565	85	308	93	3,257	85
2021年	1	3,364	113	246	108	3,118	114
	2	3,345	93	241	105	3,104	92
	3	4,272	115	287	103	3,984	116
	4	4,207	103	347	111	3,861	102
	5	4,277	105	307	119	3,970	104
	6	4,275	113	327	94	3,948	114
	7	4,082	106	344	107	3,738	106
	8	3,127	85	299	81	2,828	86
	9	3,700	95	307	74	3,394	98
	10	5,328	147	341	85	4,987	154
	11	3,737	111	293	85	3,444	114
	12	4,747	133	281	91	4,465	137
2022年	1	3,237	96	214	87	3,023	97
	2	3,711	111	223	93	3,488	112
	3	3,627	85	244	85	3,384	85
	4	4,866	116	285	82	4,581	119
	5	3,920	92	318	104	3,602	91
	6	4,788	112	349	107	4,438	112
	7	4,983	122	346	101	4,637	124
	8	3,980	127	327	109	3,653	129
	9	3,589	97	354	115	3,236	95
	10	3,599	68	300	88	3,299	66
	11	3,512	94	299	102	3,213	93
	12	3,391	71	256	91	3,134	70
2023年	1	3,898	120	216	101	3,682	122
	2	3,570	96	224	100	3,346	96
2019年計		48,687	93	4,341	103	44,346	92
2020年計		44,237	91	3,820	88	40,415	91
2021年計		48,461	110	3,620	95	44,841	111
2022年計		47,203	97	3,515	97	43,688	97
2019年	第1四半期	11,004	89	796	94	10,208	88
	第2四半期	13,251	99	1,058	103	12,193	99
	第3四半期	12,576	93	1,362	115	11,214	90
	第4四半期	11,856	91	1,125	98	10,731	90
2020年	第1四半期	10,296	94	738	93	9,556	94
	第2四半期	11,962	90	918	87	11,043	91
	第3四半期	11,408	91	1,110	81	10,299	92
	第4四半期	10,571	89	1,054	94	9,517	89
2021年	第1四半期	10,981	107	774	105	10,206	107
	第2四半期	12,759	107	981	107	11,779	107
	第3四半期	10,909	96	950	86	9,960	97
	第4四半期	13,812	131	915	87	12,896	136
2022年	第1四半期	10,575	96	681	88	9,895	97
	第2四半期	13,574	106	952	97	12,621	107
	第3四半期	12,552	115	1,027	108	11,526	116
	第4四半期	10,502	76	855	93	9,646	75

資料：国土交通省「建築着工統計調査報告」

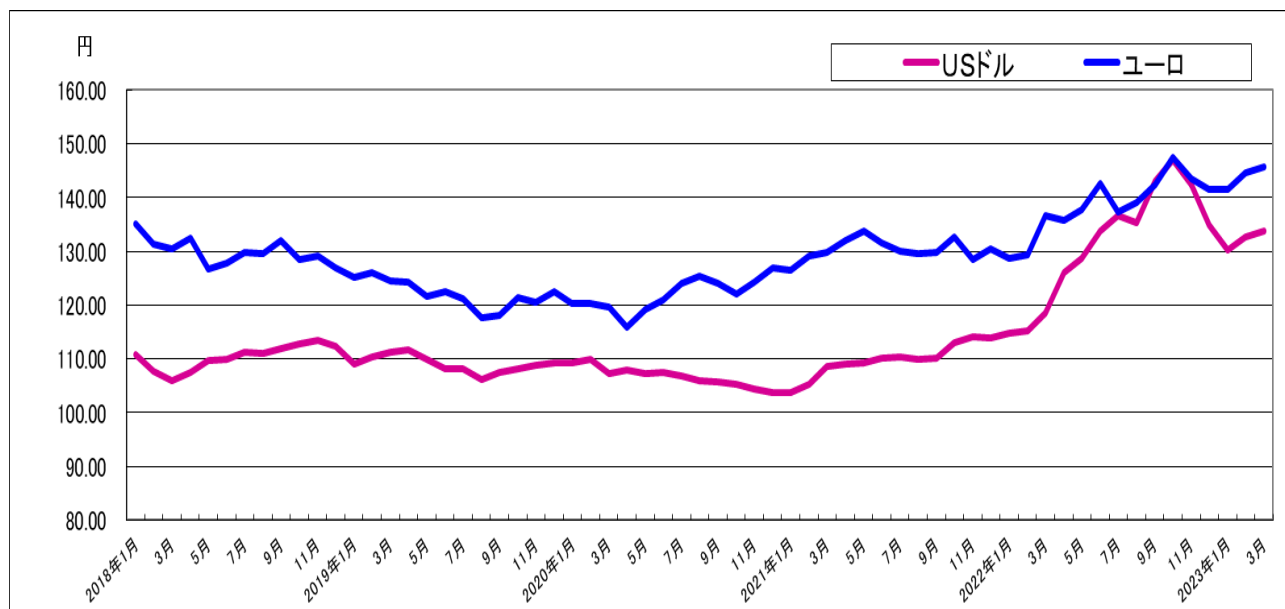
基礎的指標-3 木材産業の業況

- 2022年は、木材産業の倒産件数が13件（前年比68%）、負債金額が7,645百万円（同177%）。
- 2023年1～2月は、木材産業の倒産件数が4件（前年同期比400%）、負債金額が384百万円（同2,954%）。

年・月	企業倒産状況								
	全 企 業				木材・木製品業				
	件数 (件)	前年 比(%)	負債金額 (百万円)	前年 比(%)	件数 (件)	前年 比(%)	負債金額 (百万円)	前年 比(%)	
2020年	1	773	116	124,734	74	0	-	0	-
	2	651	111	71,283	36	0	-	0	-
	3	740	112	105,949	109	1	100	300	56
	4	743	115	144,990	136	10	500	1,280	161
	5	314	45	81,336	76	2	67	320	40
	6	780	106	128,816	148	4	400	444	753
	7	789	98	100,821	108	1	20	89	26
	8	667	98	72,416	83	2	67	150	54
	9	565	80	70,740	63	1	17	637	66
	10	624	80	78,342	88	2	100	57	63
	11	569	78	102,101	83	3	150	550	117
	12	558	79	138,518	88	1	25	25	5
2021年	1	474	61	81,388	65	2	-	180	-
	2	446	69	67,490	95	0	-	0	-
	3	634	86	141,453	134	3	300	327	109
	4	477	64	84,098	58	4	40	50	4
	5	472	150	168,664	207	1	50	120	38
	6	541	69	68,566	53	5	125	3,296	742
	7	476	60	71,465	71	0	-	0	-
	8	466	70	90,973	126	1	50	10	7
	9	505	89	90,860	128	2	200	230	36
	10	525	84	98,464	126	0	-	0	-
	11	510	90	94,101	92	0	-	0	-
	12	504	90	93,181	67	1	100	100	400
2022年	1	452	95	66,940	82	1	50	13	7
	2	459	103	70,989	105	0	-	0	-
	3	593	94	169,673	120	4	133	2,010	615
	4	486	102	81,253	97	2	50	2,900	5,800
	5	524	111	87,380	52	1	100	180	150
	6	546	101	1,232,583	1,798	0	-	0	-
	7	494	104	84,570	118	0	-	0	-
	8	492	106	111,428	122	1	100	1,880	18,800
	9	599	119	144,871	159	1	50	45	20
	10	596	114	86,995	88	1	-	200	-
	11	581	114	115,589	123	1	-	86	-
	12	606	120	79,172	85	1	100	331	331
2023年	1	570	126	56,524	84	3	300	230	1,769
	2	577	126	96,580	136	1	-	154	-
2020年計		7,773	93	1,220,046	86	27	90	3,852	79
2021年計		6,030	78	1,150,703	94	19	70	4,313	112
2022年計		6,428	107	2,331,443	203	13	68	7,645	177
2020年	第1四半期	2,164	113	301,966	65	1	50	300	55
	第2四半期	1,837	89	355,142	118	16	267	2,044	124
	第3四半期	2,021	93	243,977	83	4	29	876	55
	第4四半期	1,751	79	318,961	87	6	75	632	57
2021年	第1四半期	1,554	72	290,331	96	5	500	507	169
	第2四半期	1,490	81	321,328	90	10	63	3,466	170
	第3四半期	1,447	72	253,298	104	3	75	240	27
	第4四半期	1,539	88	285,746	90	1	17	100	16
2022年	第1四半期	1,504	97	307,602	106	5	100	2,023	399
	第2四半期	1,556	104	1,401,216	436	3	30	3,080	89
	第3四半期	1,585	110	340,869	135	2	67	1,925	802
	第4四半期	1,783	116	281,756	99	3	300	617	617

資料：東京商工リサーチ「TSR情報（全国企業倒産状況）」

- 2023年3月の為替相場は、1ドル133.85円、1ユーロ145.72円。



(単位:円)

年月	USドル	ユーロ
2018年1月	110.77	135.08
2月	107.82	131.28
3月	106.00	130.52
4月	107.43	132.39
5月	109.69	126.73
6月	110.03	127.91
7月	111.37	129.93
8月	111.06	129.56
9月	111.89	132.14
10月	112.78	128.43
11月	113.37	129.19
12月	112.45	127.00
2019年1月	108.95	125.15
2月	110.36	126.09
3月	111.21	124.56
4月	111.66	124.38
5月	109.83	121.74
6月	108.06	122.49
7月	108.22	121.19
8月	106.27	117.63
9月	107.41	118.02
10月	108.12	121.46
11月	108.86	120.59
12月	109.18	122.54
2020年1月	109.34	120.30
2月	109.96	120.32
3月	107.29	119.55
4月	107.93	116.00
5月	107.31	119.13
6月	107.56	121.08
7月	106.78	124.13
8月	106.04	125.47
9月	105.74	124.17
10月	105.24	122.14
11月	104.40	124.38
12月	103.82	126.95

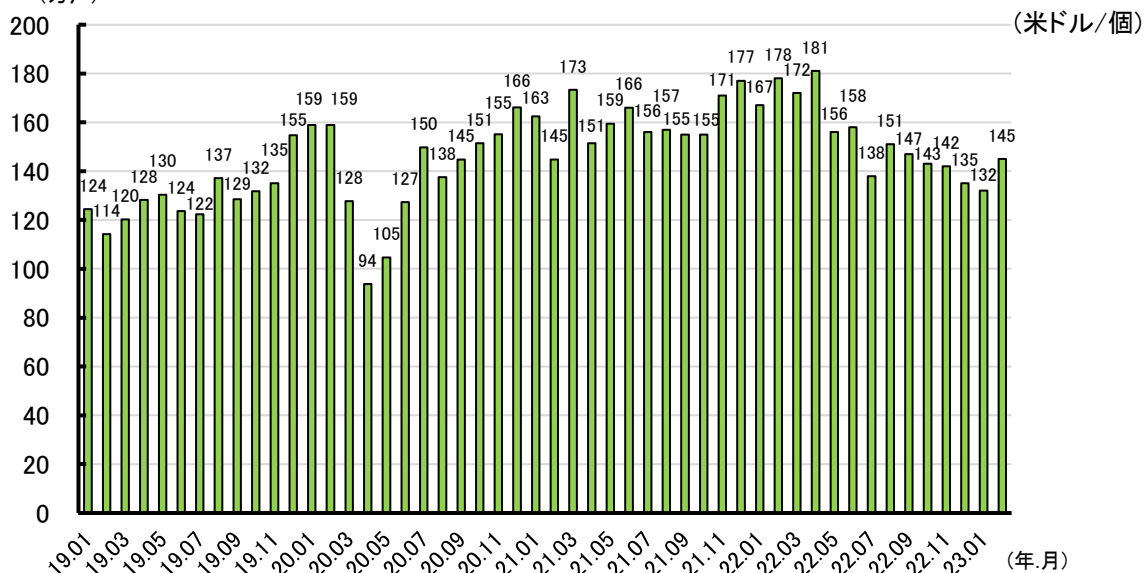
(単位:円)

年月	USドル	ユーロ
2021年1月	103.70	126.48
2月	105.36	129.15
3月	108.65	129.80
4月	109.13	131.99
5月	109.19	133.74
6月	110.11	131.58
7月	110.29	130.11
8月	109.84	129.69
9月	110.17	129.86
10月	113.10	132.77
11月	114.13	128.41
12月	113.87	130.51
2022年1月	114.83	128.66
2月	115.20	129.34
3月	118.51	136.70
4月	126.04	135.83
5月	128.78	137.76
6月	133.86	142.67
7月	136.63	137.25
8月	135.24	139.03
9月	143.14	142.32
10月	147.01	147.59
11月	142.44	143.58
12月	134.93	141.47
2023年1月	130.20	141.56
2月	132.68	144.61
3月	133.85	145.72

資料：USドルは日銀 主要時系列統計データ表 為替相場（東京市場 スポットレート 中心相場 月中平均）、ユーロは日銀「金融経済統計月報」対顧客為替相場。

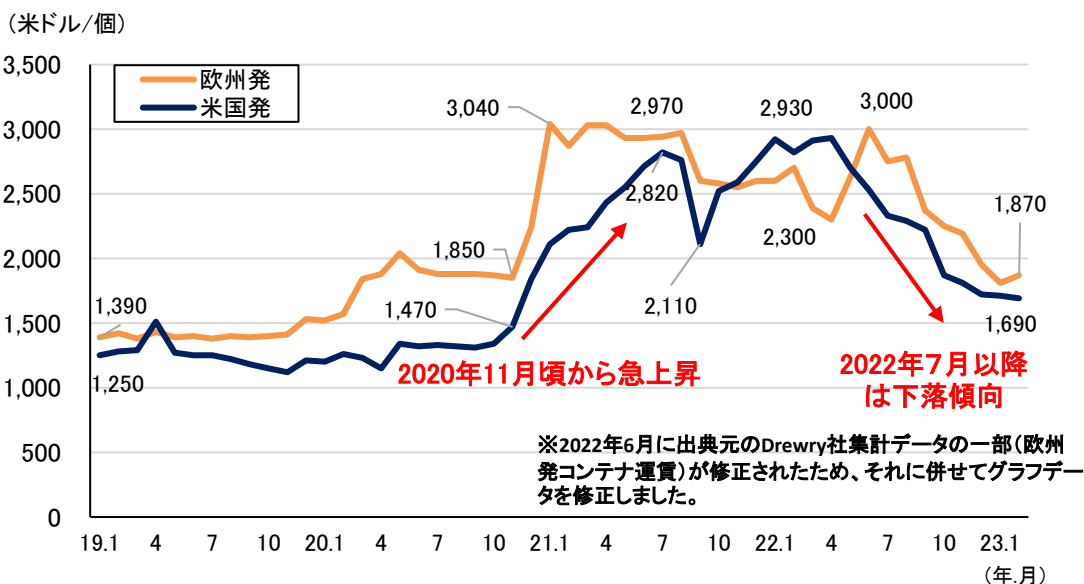
- 米国の住宅着工戸数(戸建て計)は、新型コロナウイルス感染症の影響により2020年4月に急落した。その後、コロナ禍による在宅需要の増加と住宅ローンの低金利により、2020年5月から増加傾向が続き、2022年4月には181万戸(年率換算)を記録。2022年5月からは、住宅ローン金利が急騰したことにより、下落傾向が続いていたが、2023年2月は前月比110%の145万戸となった。
- 世界的なコンテナ不足により、海上輸送運賃が急激に上昇。日本向けコンテナ運賃は、2020年11月頃から急上昇し、その後は欧州発、米国発ともに高値を維持していたが、2022年7月以降は下落傾向が続いている。

○米国における住宅着工戸数
(万戸)



資料：(住宅着工戸数)米国商務省「住宅着工統計」(季節調整済み、年率換算、戸建て計)

○日本向けコンテナ運賃の推移



※2022年6月に出典元のDrewry社集計データの一部(欧州発コンテナ運賃)が修正されたため、それに併せてグラフデータを修正しました。

注：40ftコンテナ。「米国発」はLos Angeles発横浜着、「欧州発」はRotterdam発横浜着。

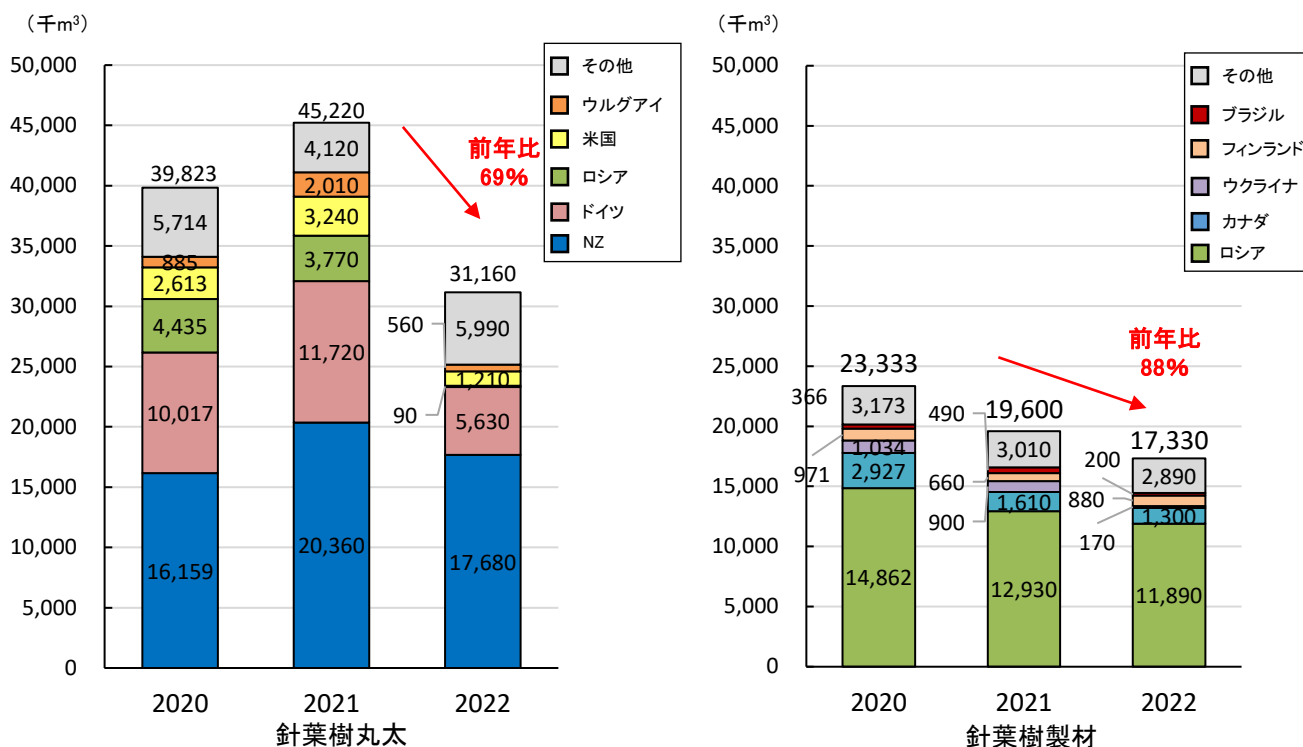
出典：Drewry「Container Freight Rate Insight」

資料：日本海事センター「主要航路コンテナ運賃動向」

基礎的指標-6 中国の木材輸入量、EUにおける建設活動水準

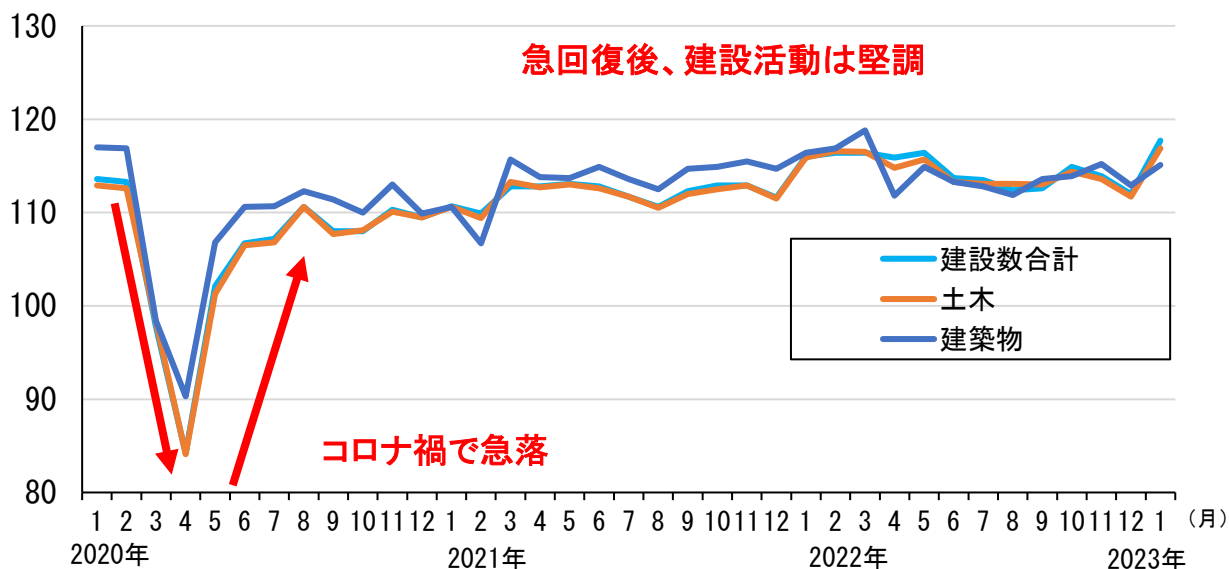
- 2022年の中国における針葉樹丸太輸入量は、前年比69%の31,160千m³。針葉樹製材輸入量は、前年比88%の17,330千m³。輸入量減少の主な要因として、産地側の事情とともに、中国当局による新型コロナウイルス感染防止のためのロックダウン（都市封鎖）に伴う総需要量の後退が影響。
- EUでは、コロナ禍により、2020年春に建設活動が急激に低下したが、同年夏以降は回復して、以後、堅調に推移。

○中国の木材輸入量（2020年～2022年）



資料:ITTO (Tropical Timber Market Report, Vol.26 (3) (5), Vol 27 (3) (4))

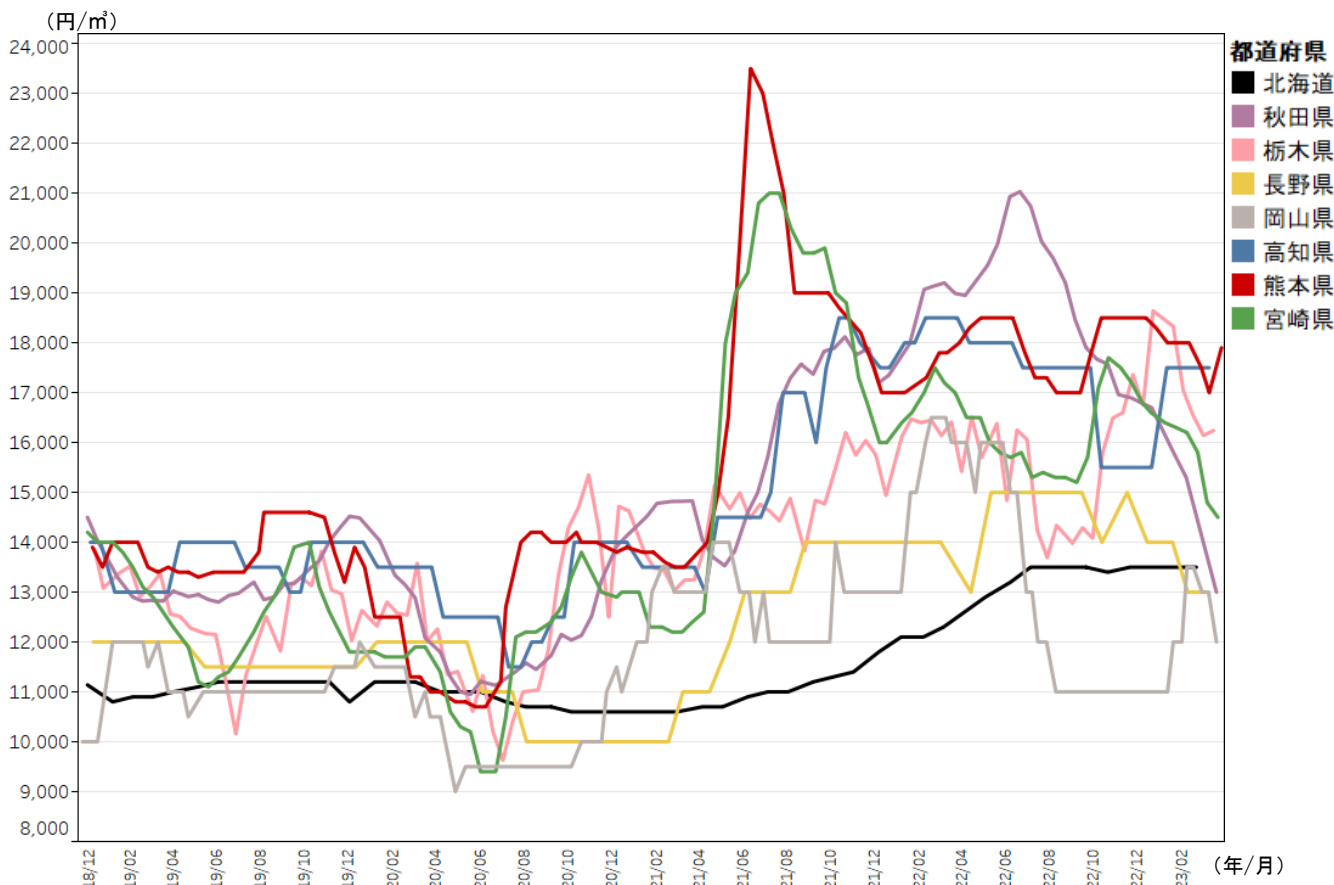
○EUにおける建設活動水準（2015年比）
2015年=100



資料: Eurostat (Production in construction - monthly data)

木材価格情報-1 スギ原木の主要市場価格

- 全国の原木市場・共販所において、直近のスギ原木価格は、12,000円～17,900円/m³となっている。



資料：林野庁木材産業課調べ

注1：北海道はカラマツ（工場着価格）。

注2：径24cm程度、長さ3.65～4.0m（2018年12月～）。

注3：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。

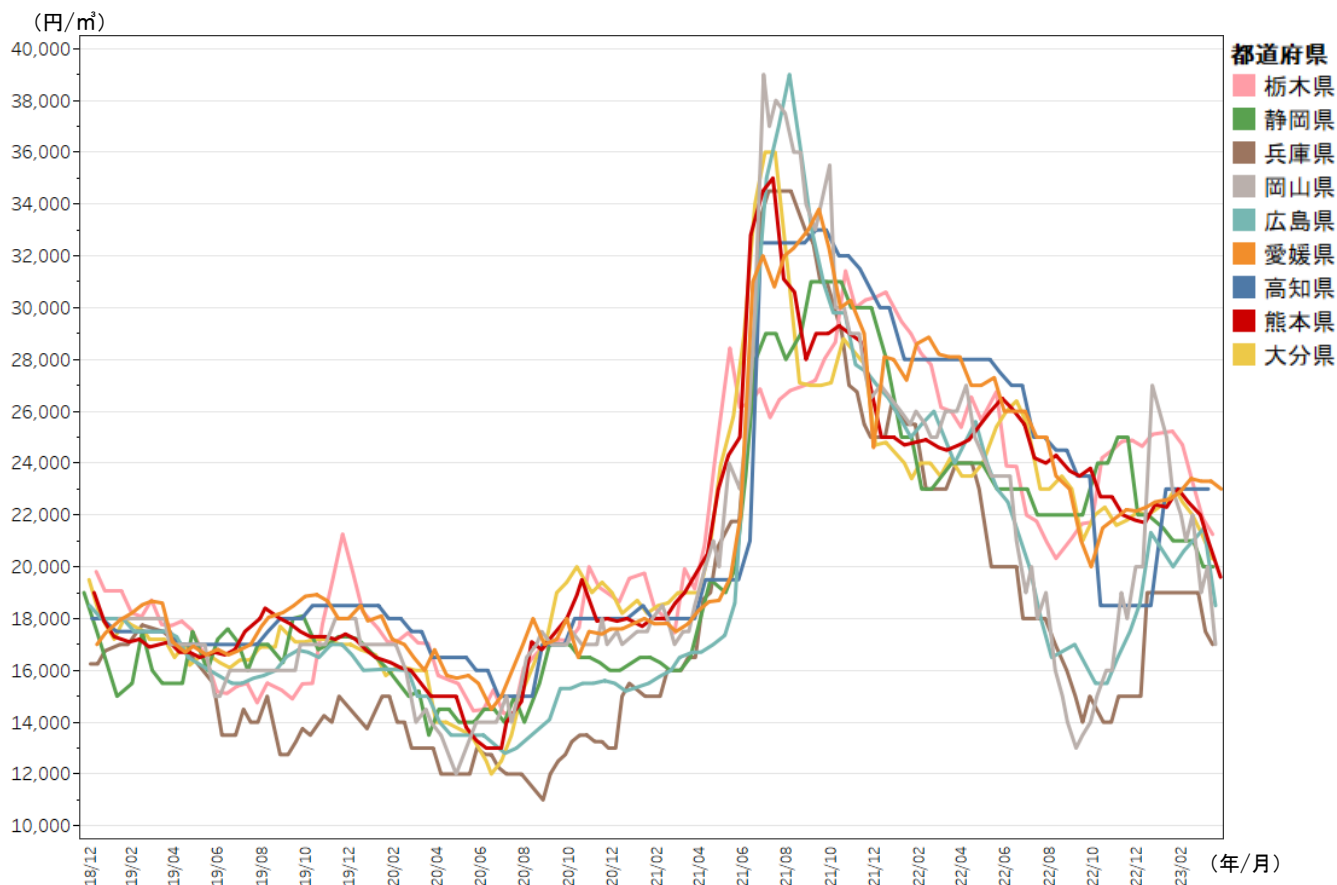
（単位：円/m³）

都道府県	2023年直近*	前年同期	前年同期比
北海道	13,500	12,100	112%
秋田県	13,000	18,990	68%
栃木県	16,240	16,410	99%
長野県	13,000	14,000	93%
岡山県	12,000	16,000	75%
高知県	17,500	18,500	95%
熊本県	17,900	18,000	99%
宮崎県	14,500	17,000	85%

※北海道については2月、秋田県、栃木県、長野県、岡山県、高知県、熊本県及び宮崎県については3月の値を使用。

木材価格情報-1 ヒノキ原木の主要市場価格

- 全国の原木市場・共販所において、直近のヒノキ原木価格は、17,000円～23,000円/m³となっている。



資料：林野庁木材産業課調べ

注1：径24cm程度、長3.65～4.0m（2018年12月～）

注2：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。

(単位：円/m³)

都道府県	2023年直近※	前年同期	前年同期比
栃木県	21,250	26,000	82%
静岡県	20,000	24,000	83%
兵庫県	17,000	24,000	71%
岡山県	17,000	26,000	65%
広島県	18,500	24,000	77%
愛媛県	23,000	28,100	82%
高知県	23,000	28,000	82%
熊本県	19,600	24,700	79%
大分県	20,300	24,200	84%

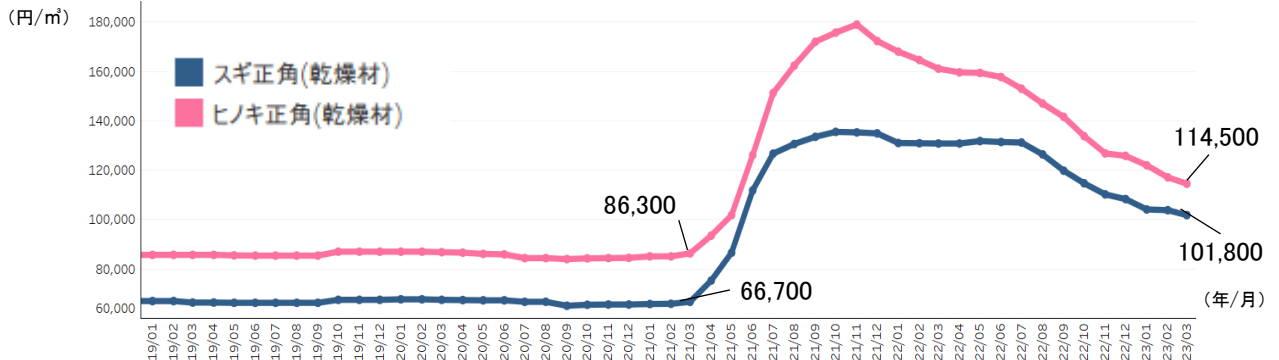
※各県3月の値を使用。

木材価格情報-2 木材価格（農林水産統計）

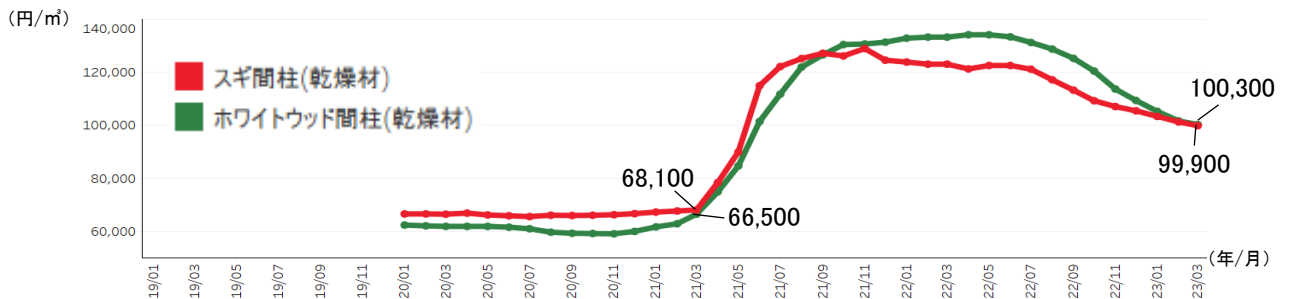
- 主な製材品及び針葉樹合板の全国平均価格は、いわゆるウッドショック（2021年3月）以前と比較すると、引き続き高い水準で推移。
- 2023年3月の正角（乾燥材）の価格について、スギは101,800円/m³（前年同期比78%）、ヒノキは114,500円/m³（同71%）。
- 同月の間柱（乾燥材）の価格は、スギは99,900円/m³（前年同期比81%）、ホワイトウッドは100,300円/m³（同75%）。
- 同月の針葉樹合板の価格は、2,210円/枚（前年同期比107%）。

■主な製材品等の価格推移（全国平均価格）

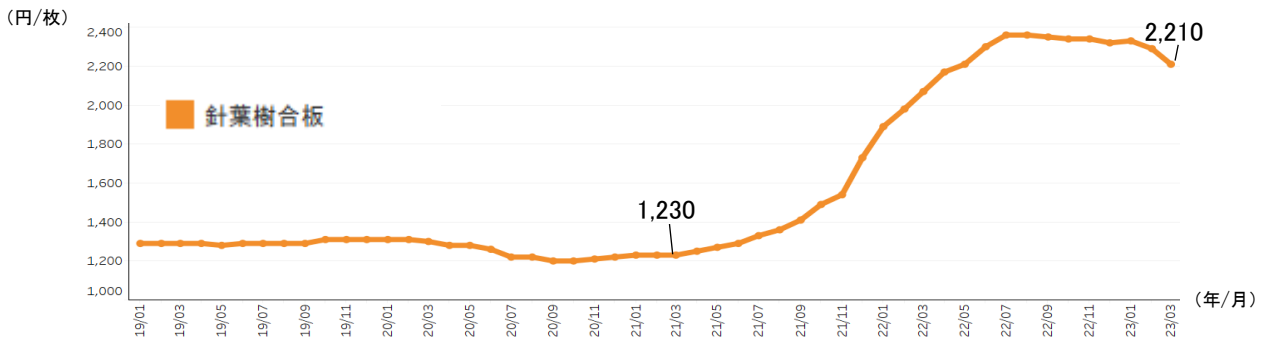
○正角（乾燥材）※厚10.5cm、幅10.5cm、長3.0m、2級



○間柱（乾燥材）※厚3.0cm、幅10.5cm、長3.0m、特等



○針葉樹合板 ※厚1.2cm、幅91.0cm、長1.82m、1類



資料：農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」

- 注：1 針葉樹合板は、2022年1月より、四半期ごとの公表となった（4月に1～3月分、7月に4～6月分、10月に7～9月分、翌1月に10～12月分を公表）。
- 2 製材品価格及び合板価格は、木材市売市場にあたってはせり又は入札による取引価格、木材センター及び木材販売業者にあたっては店頭渡し価格である。
- 3 2023年は「木材価格」に拠る速報値、2022年以前は「木材需給報告書」に拠る確定値である。（速報値は今後修正される可能性がある）

(2) 都道府県別価格

○スギ中丸太（製材用、径14.0～22.0cm、長3.65～4.0m）

・2022年

単位：円／m³

都道府県	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
青森	12,100	12,100	14,300	14,400	14,400	14,400	14,400	14,400	14,400	14,400	14,400	14,400
岩手	15,400	16,100	16,400	16,700	17,400	17,900	17,800	17,800	17,500	17,500	17,300	17,300
宮城	15,400	15,600	16,200	17,000	17,000	15,900	14,800	14,800	14,800	14,800	14,800	14,800
秋田	13,500	14,600	14,700	14,900	15,100	15,100	15,100	15,200	15,000	14,700	14,700	14,500
山形	17,100	17,200	17,200	18,100	18,400	18,400	19,400	19,400	19,300	19,200	19,200	20,500
福島	14,600	14,600	14,600	13,400	13,200	13,500	14,100	13,400	13,200	13,000	13,200	13,000
栃木	16,500	16,500	16,500	16,500	16,500	15,400	15,400	15,400	15,400	15,400	15,400	16,500
岐阜	16,600	16,600	16,600	17,700	18,300	18,300	18,300	18,300	18,300	18,300	18,300	18,300
静岡	18,200	18,500	18,800	18,900	19,300	19,300	18,900	18,300	18,400	19,000	19,200	18,900
三重	17,100	17,300	17,400	18,100	18,600	18,200	17,400	16,600	15,900	16,000	15,900	16,400
奈良	16,800	16,800	16,800	17,900	17,900	17,900	17,400	16,900	16,900	15,800	14,300	14,800
岡山	13,800	13,800	13,800	13,800	15,300	15,300	14,300	14,000	14,000	14,000	14,000	14,300
徳島	17,600	17,600	17,600	17,600	17,600	17,600	17,600	17,600	17,600	17,600	16,700	16,700
愛媛	18,600	20,800	22,900	23,000	22,900	22,900	20,800	20,800	20,800	19,700	18,700	18,700
佐賀	17,000	17,000	17,600	17,600	17,600	17,600	17,100	17,100	17,100	17,100	17,000	17,000
熊本	19,400	21,400	21,400	19,000	21,300	21,700	21,400	21,600	22,200	25,800	21,900	21,400
大分	18,800	19,500	18,600	17,800	18,000	17,700	17,500	17,900	18,500	18,300	18,500	17,900
宮崎	17,200	17,800	18,000	17,700	17,700	17,700	17,500	16,800	16,900	17,900	19,000	18,000
鹿児島	18,800	18,300	18,300	18,300	18,800	18,700	18,700	18,500	17,600	18,300	18,800	18,800

・2023年

都道府県	1月	2月	3月
青森	14,400	13,300	13,300
岩手	17,300	17,000	16,700
宮城	14,800	14,200	14,500
秋田	14,300	13,800	13,400
山形	20,500	20,500	20,300
福島	13,200	13,300	12,100
栃木	16,500	16,500	15,400
岐阜	18,300	18,300	17,000
静岡	18,600	18,300	18,200
三重	16,600	16,900	16,800
奈良	15,800	15,300	15,300
岡山	14,000	14,000	14,000
徳島	16,700	16,700	16,700
愛媛	18,700	18,700	18,700
佐賀	16,500	16,500	16,700
熊本	20,800	20,800	20,800
大分	17,900	18,200	17,300
宮崎	17,900	17,800	16,500
鹿児島	18,800	18,800	18,700

○ヒノキ中丸太（製材用、径14.0～22.0cm、長3.65～4.0m）

・2022年

単位：円／m³

都道府県	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
福島	35,500	34,900	34,400	32,800	32,800	30,600	27,400	25,100	21,500	21,400	22,900	23,000
茨城	29,400	28,300	28,000	28,000	27,800	26,800	24,500	21,900	21,000	21,200	21,800	22,300
栃木	31,100	31,000	30,000	29,700	29,700	28,700	28,700	26,400	26,400	26,500	26,500	25,500
岐阜	30,500	28,900	28,900	28,900	27,600	27,000	26,600	25,600	24,400	24,400	23,600	23,600
静岡	33,300	31,000	29,400	29,400	28,900	28,500	27,600	27,500	26,200	25,900	27,200	26,000
三重	25,600	26,900	27,000	27,200	26,200	24,500	22,800	22,300	22,000	21,500	22,500	22,600
兵庫	33,000	32,900	30,700	30,600	30,600	30,500	27,200	27,200	27,100	24,900	25,000	25,000
奈良	29,900	29,900	30,000	28,900	27,800	26,800	23,800	21,800	19,800	19,800	20,900	23,900
和歌山	25,900	25,900	25,900	25,900	25,500	25,500	23,700	22,900	22,900	22,200	22,200	21,900
岡山	22,300	22,000	26,200	27,900	24,900	24,400	23,900	22,500	16,500	17,000	21,300	21,700
広島	35,900	28,900	28,600	28,200	27,300	26,700	26,800	26,200	21,500	20,400	19,400	19,800
愛媛	30,100	29,000	28,200	27,200	28,100	28,200	27,700	24,900	22,000	21,300	19,900	19,900
高知	29,900	29,100	27,200	27,400	27,200	26,400	26,800	26,500	22,600	21,200	20,200	20,400
熊本	30,300	27,600	27,500	27,100	28,100	28,200	26,800	25,400	25,600	25,400	25,500	24,600
大分	27,300	25,100	23,400	19,800	17,600	15,400	19,000	18,700	18,700	18,700	18,400	17,500
宮崎	31,200	30,100	27,500	25,300	24,800	25,000	23,900	22,100	22,000	22,600	23,700	23,000

・2023年

都道府県	1月	2月	3月
福島	25,600	25,500	23,400
茨城	23,300	23,500	22,400
栃木	25,700	25,700	24,400
岐阜	22,300	22,300	22,300
静岡	24,900	24,600	23,300
三重	23,500	23,600	23,200
兵庫	25,000	25,000	25,100
奈良	26,900	26,800	26,800
和歌山	22,000	21,900	21,800
岡山	25,900	25,100	24,500
広島	22,800	25,100	24,500
愛媛	20,000	20,200	20,700
高知	21,700	21,500	22,000
熊本	25,700	25,700	24,900
大分	18,400	17,900	18,000
宮崎	21,900	22,600	22,900

資料：農林水産省「木材価格」

注1：「x」は、個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表していないもの。

注2：年間を通じて価格を「x」として、統計数値を公表していない都道府県は省略している。

○カラマツ中丸太（製材用、径14.0～28.0cm、長3.65～4.0m）

・2022年

単位：円/m³

都道府県	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
北海道	13,700	13,600	13,800	14,000	14,500	15,800	15,500	15,700	15,500	15,600	15,600	15,800
岩手	21,200	23,900	25,300	25,500	31,500	32,000	32,200	30,500	30,500	30,100	28,200	25,700

・2023年

都道府県	1月	2月	3月
北海道	15,500	15,400	15,400
岩手	25,700	25,700	25,600

○スギ丸太（合板用、径18.0cm上）

・2022年

単位：円/m³

都道府県	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
岩手	12,600	13,300	14,100	14,100	14,100	15,100	14,500	13,800	13,800	13,800	13,800	13,100
宮城	15,300	16,400	16,400	16,400	16,400	16,400	16,400	16,400	16,400	16,400	16,400	16,400
秋田	14,100	16,700	17,200	17,900	17,800	17,800	18,100	17,800	17,100	16,900	16,200	16,200
島根	14,300	14,900	15,000	15,300	15,600	15,500	15,700	15,400	15,300	15,400	15,200	15,200

・2023年

都道府県	1月	2月	3月
岩手	13,100	13,100	13,100
宮城	16,400	16,400	16,400
秋田	16,100	16,000	16,000
島根	15,000	15,100	15,100

○スギ正角（厚10.5cm、幅10.5cm、長3.0m、2級）

・2022年

都道府県	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
千葉			88,000			88,000			77,300			77,300
東京			58,800			58,800			53,500			
大阪			103,100			103,100			103,100			
福岡			58,600			60,500			58,600			56,700

・2023年

都道府県	1月	2月	3月
千葉			77,000
東京			53,500
大阪			81,500
福岡			56,400

○スギ正角・乾燥材（厚10.5cm、幅10.5cm、長3.0m、2級）

・2022年

単位：円/m³

都道府県	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
埼玉	125,700	125,200	125,200	125,500	125,500	124,400	123,700	112,200	109,800	96,100	95,700	95,400
千葉	146,100	146,100	146,100	140,800	140,800	140,800	140,800	135,500	135,500	134,700	132,400	131,600
東京	148,900	148,900	148,900	148,900	148,900	148,900	148,800	148,800	132,800	132,400	126,800	121,000
神奈川	153,100	153,000	153,000	153,000	153,000	152,300	151,600	151,500	146,300	139,800	134,000	134,000
愛知	116,100	116,100	114,800	114,800	120,100	120,100	120,100	117,300	114,400	110,500	109,700	108,300
大阪	111,900	111,900	111,900	112,500	122,300	121,700	121,700	111,900	111,900	110,000	105,200	105,200
兵庫	142,900	142,900	142,900	142,900	146,000	143,700	143,700	134,300	131,200	128,000	122,600	119,400
福岡	120,400	120,400	120,400	120,400	120,400	120,300	120,300	117,600	113,800	110,100	102,800	102,800

・2023年

都道府県	1月	2月	3月
埼玉	94,400	94,400	93,300
千葉	130,800	120,200	120,200
東京	109,800	109,800	109,800
神奈川	128,700	128,300	128,200
愛知	106,900	105,700	104,300
大阪	99,700	99,000	93,600
兵庫	111,600	111,600	111,600
福岡	102,800	102,800	98,300

資料：農林水産省「木材価格」

注1：2021年8月より、東京都の調査対象が変更になったことから、2021年7月及び8月の東京都のスギ正角の数値は接続しない。

注2：「x」は、個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表していないもの。

注3：年間を通じて価格を「x」として、統計数値を公表していない都道府県は省略している。

注4：スギ正角の価格は、2022年1月より四半期ごとの公表となった（4月に3月分、7月に6月分、10月に9月分、翌1月に12月分を公表）。

○ヒノキ正角（厚10.5cm、幅10.5cm、長3.0m、2級）

・2022年

都道府県	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
千葉			98,200			98,100			92,000			91,000
東京			x			x			x			x
愛知			94,800			94,800			93,500			93,500
大阪			119,700			112,100			107,900			100,300
兵庫			116,300			114,300			106,300			95,500
福岡			82,500			86,600			84,200			82,500

・2023年

都道府県	1月	2月	3月
千葉			81,100
東京			x
愛知			93,500
大阪			78,500
兵庫			95,500
福岡			82,500

○ヒノキ正角・乾燥材（厚10.5cm、幅10.5cm、長3.0m、2級）

・2022年

単位：円/m³

都道府県	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
埼玉	145,600	142,500	142,500	142,500	142,500	141,800	139,800	128,600	122,800	110,100	109,700	109,700
千葉	171,400	169,100	169,100	164,800	164,800	164,800	164,800	158,100	158,100	156,100	150,200	150,200
東京	175,500	175,400	175,400	175,500	175,500	175,500	175,200	175,200	164,600	164,200	153,400	153,400
神奈川	187,400	185,300	185,300	185,300	185,300	181,900	178,600	173,300	167,300	151,900	146,500	145,600
愛知	159,400	159,400	151,900	149,700	149,700	149,700	137,000	131,600	130,700	124,600	117,000	115,100
大阪	176,400	169,900	163,600	162,600	161,700	159,800	154,400	152,600	147,000	137,800	130,600	130,600
兵庫	184,800	178,400	173,900	168,100	168,100	161,200	156,600	143,000	138,400	131,500	117,900	113,300

・2023年

都道府県	1月	2月	3月
埼玉	108,400	108,400	107,200
千葉	150,200	146,800	146,800
東京	153,200	142,700	142,400
神奈川	138,900	133,700	133,600
愛知	114,900	109,800	107,200
大阪	118,900	110,700	104,400
兵庫	112,600	112,600	112,000

○米ツガ正角・防腐処理材（厚10.5cm、幅10.5cm、長4.0m、2級）

・2022年

単位：円/m³

都道府県	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
北海道			135,700			138,000			138,000			138,000
埼玉			144,700			148,800			151,900			147,200
千葉			139,800			142,400			142,400			140,700
東京			154,400			154,400			154,400			154,000
神奈川			142,200			143,100			143,100			140,800
愛知			158,300			158,300			145,500			143,000
大阪			121,000			132,000			132,000			132,000
兵庫			138,500			141,800			141,800			145,000

・2023年

都道府県	1月	2月	3月
北海道			139,800
埼玉			141,400
千葉			131,200
東京			148,100
神奈川			138,300
愛知			132,000
大阪			132,000
兵庫			138,300

資料：農林水産省「木材価格」

注1：「x」は、個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表していないもの。

注2：年間を通じて価格を「x」として、統計数値を公表していない都道府県は省略している。

注3：ヒノキ正角、米ツガ正角・防腐処理材の価格は、2022年1月より四半期ごとの公表となった（4月に3月分、7月に6月分、10月に9月分、翌1月に12月分を公表）。

○スギ間柱・乾燥材（厚3.0cm、幅10.5cm、長3.0m、特等）

・2022年

単位：円/m³

都道府県	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
埼玉県	115,400	113,300	113,300	116,600	120,600	120,100	116,900	111,200	103,800	99,500	96,100	96,100
千葉県	120,300	120,300	120,300	120,200	120,200	120,200	120,200	115,200	110,300	107,500	103,600	102,800
東京都	129,300	129,300	129,300	129,300	129,300	129,300	122,200	122,200	120,900	115,400	107,500	104,800
神奈川県	134,400	132,900	132,900	132,900	132,900	131,800	131,300	128,900	122,200	117,500	116,100	114,900
愛知県	121,800	119,300	119,300	119,300	120,500	120,500	120,500	113,700	110,300	106,900	106,500	102,400
大阪府	112,200	112,200	112,200	112,200	121,000	118,800	118,800	110,000	110,000	110,000	105,600	101,200
兵庫県	137,000	137,000	137,000	137,200	142,400	142,400	137,200	131,900	126,600	121,200	121,100	115,700
広島県	167,200	167,200	167,200	141,900	138,100	140,800	140,800	140,800	138,500	127,300	127,300	125,300
福岡県	107,100	107,100	107,100	107,100	106,900	106,900	106,900	105,900	105,900	104,900	104,900	104,900

・2023年

都道府県	1月	2月	3月
埼玉県	95,000	92,900	92,200
千葉県	102,400	98,700	96,200
東京都	96,800	96,700	96,500
神奈川県	111,200	107,900	106,700
愛知県	97,700	93,700	93,700
大阪府	95,700	95,700	94,600
兵庫県	110,500	110,500	105,200
広島県	124,700	121,500	121,000
福岡県	104,500	104,500	103,700

○ホワイトウッド間柱・乾燥材（厚3.0cm、幅10.5cm、長3.0m、特等）

・2022年

単位：円/m³

都道府県	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
埼玉県	111,300	111,300	111,300	121,000	122,400	122,400	119,000	114,700	111,500	107,800	99,900	95,200
千葉県	148,000	148,000	148,000	148,000	148,000	148,000	148,000	145,600	143,800	134,800	134,600	127,700
東京都	147,300	147,300	147,300	147,300	147,300	147,300	147,300	147,300	144,400	131,300	130,000	122,900
神奈川県	139,200	137,800	137,800	137,800	138,500	139,000	136,700	136,000	133,000	125,300	121,700	121,700
愛知県	126,900	128,100	128,100	127,900	127,900	127,200	126,900	126,500	122,200	115,200	106,700	101,200
大阪府	132,000	132,000	132,000	132,000	132,000	126,900	121,600	115,500	110,600	110,000	104,500	99,000
兵庫県	140,400	143,200	143,200	143,200	143,200	143,200	140,400	137,500	134,600	134,600	115,700	112,900
広島県	126,300	126,300	126,300	125,600	121,500	125,600	125,400	124,300	122,400	122,400	119,700	117,600

・2023年

都道府県	1月	2月	3月
埼玉県	94,700	93,200	91,600
千葉県	125,000	122,600	121,700
東京都	121,200	120,000	119,100
神奈川県	118,700	113,200	110,600
愛知県	97,400	91,000	90,300
大阪府	93,500	93,100	92,900
兵庫県	104,500	101,600	98,800
広島県	112,300	105,400	102,800

○スギ集成管柱（厚10.5cm、幅10.5cm、長2.98~3.0m、1等）

・2022年

単位：円/本

都道府県	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
秋田県	x	4,700	4,400	4,400	4,300	4,200	4,000	4,000	4,000	3,800	3,600	3,700
宮崎県	4,200	4,300	4,300	4,300	4,300	4,400	4,400	4,400	4,200	4,200	4,000	4,000

・2023年

都道府県	1月	2月	3月
秋田県	3,500	3,400	2,900
宮崎県	3,500	3,500	3,100

○ホワイトウッド集成管柱（厚10.5cm、幅10.5cm、長2.98~3.0m、1等）

・2022年

単位：円/本

都道府県	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
岡山県	5,100	5,100	5,100	5,100	5,100	5,100	4,900	4,700	4,500	4,400	4,200	4,000

・2023年

都道府県	1月	2月	3月
岡山県	3,600	3,400	3,100

○針葉樹合板（厚1.2cm、幅91.0cm、長1.82m、1類）

・2022年

都道府県	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
埼玉県			2,220			2,420			2,390			2,350
東京都			2,140			2,420			2,410			2,410
大阪府			1,840			1,990			2,220			2,130

・2023年

都道府県	1月	2月	3月
埼玉県			2,240
東京都			2,300
大阪府			2,040

資料：農林水産省「木材価格」

注1：「x」は、個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表していないもの。

注2：年間を通じて価格を「x」として、統計数値を公表していない都道府県は省略している。

注3：針葉樹合板の価格は、2022年1月より四半期ごとの公表となった

（4月に3月分、7月に6月分、10月に9月分、翌1月に12月分を公表）。

○チップ用丸太（針葉樹）

・2022年

単位：円/m³

都道府県	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
北海道	7,000	7,000	7,000	7,100	7,100	7,300	7,200	7,300	7,300	7,300	7,400	7,400
青森	6,500	6,500	6,500	6,800	6,800	6,800	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
岩手	7,100	7,100	7,100	7,100	7,300	7,300	7,300	7,300	7,300	7,300	7,300	7,300
宮城	5,600	5,600	5,600	5,700	5,800	5,800	5,800	5,800	5,800	5,800	5,800	5,800
秋田	6,700	6,700	6,700	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
山形	6,200	6,200	6,200	6,200	6,200	6,200	6,200	6,200	6,200	6,200	6,200	6,200
福島	5,400	5,400	6,100	6,200	6,200	6,100	6,100	5,900	6,600	6,300	6,400	5,700
栃木	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000
山梨	6,800	6,600	7,000	7,100	6,900	7,200	7,300	7,700	7,800	7,400	7,400	7,500
長野	6,800	6,700	6,700	6,700	6,800	6,800	6,800	6,800	6,800	6,800	6,800	7,200
京都	8,600	8,600	8,900	8,900	8,900	8,900	8,900	8,900	8,900	8,900	8,900	8,900
兵庫	6,600	6,600	6,600	6,600	6,600	6,600	7,200	7,200	7,200	7,200	7,200	7,200
島根	9,700	9,200	9,200	9,700	9,600	9,700	10,100	10,100	10,200	9,600	9,800	9,800
広島	5,000	5,000	5,000	5,600	6,000	6,300	6,400	6,400	6,400	6,300	5,900	6,100
高知	5,400	5,600	5,500	5,700	5,800	5,400	5,700	5,600	5,600	5,900	6,000	5,600
熊本	7,300	7,100	7,000	7,000	7,000	7,800	7,000	6,800	7,100	7,400	7,600	7,400
宮崎	7,400	7,400	7,700	7,700	7,700	7,700	7,700	7,700	7,900	7,900	8,000	8,000
鹿児島	7,700	7,700	7,700	7,700	7,700	7,700	8,200	8,200	8,200	8,200	8,200	8,200

・2023年

都道府県	1月	2月	3月
北海道	7,400	7,400	7,400
青森	7,000	7,000	7,000
岩手	7,300	7,300	7,300
宮城	6,000	6,000	6,000
秋田	7,000	7,000	7,000
山形	6,200	6,200	6,200
福島	6,800	6,100	5,900
栃木	5,300	5,300	5,300
山梨	7,700	8,800	8,800
長野	7,200	7,200	7,300
京都	8,900	8,900	8,900
兵庫	7,200	7,200	7,200
島根	9,400	8,500	9,500
広島	6,100	5,900	5,700
高知	5,600	5,600	5,600
熊本	8,200	9,100	8,400
宮崎	8,000	8,000	8,100
鹿児島	8,200	8,200	8,200

○チップ用丸太（広葉樹）

・2022年

単位：円/m³

都道府県	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
北海道	9,600	9,600	9,600	9,700	9,700	9,900	9,900	9,900	9,900	9,900	9,900	9,900
青森	11,600	11,600	11,600	11,900	11,900	11,900	12,100	12,100	12,100	12,100	12,100	12,100
岩手	11,000	11,000	11,000	11,100	11,200	11,200	11,200	11,200	11,200	11,200	11,200	11,400
宮城	8,700	8,700	8,700	8,700	8,900	8,900	8,900	8,900	8,900	8,900	8,900	8,900
秋田	11,800	11,800	11,800	12,000	12,000	12,400	12,500	12,500	12,500	12,500	12,500	12,500
山形	9,700	9,700	9,700	9,700	9,700	9,700	9,700	9,700	9,700	9,700	9,700	9,700
福島	8,700	8,900	8,900	8,900	8,800	8,800	8,800	8,800	8,800	9,000	9,400	9,400
山梨	6,600	6,600	6,500	6,500	6,800	6,800	7,000	7,500	7,500	7,500	7,400	7,400
島根	10,500	10,300	10,400	10,600	10,600	10,500	10,700	10,800	10,800	10,800	10,800	10,800
広島	6,000	6,100	6,100	6,100	6,200	6,200	6,200	6,200	6,200	6,100	6,000	6,000
熊本	8,200	8,500	8,400	8,800	9,100	9,000	8,800	8,900	9,100	8,900	9,100	8,900
宮崎	8,200	8,200	8,200	8,100	8,500	8,500	8,300	8,300	8,300	8,300	8,400	8,400
鹿児島	9,700	9,700	9,700	9,700	9,700	9,700	9,700	9,700	9,700	9,700	9,700	9,700

・2023年

都道府県	1月	2月	3月
北海道	9,900	9,900	9,900
青森	12,100	12,100	12,100
岩手	11,400	11,400	11,400
宮城	9,000	9,000	9,000
秋田	12,500	12,500	12,500
山形	9,700	9,700	9,700
福島	8,900	9,000	9,600
山梨	7,500	7,500	7,500
島根	10,700	10,700	10,800
広島	6,000	6,000	6,100
熊本	8,700	9,000	8,900
宮崎	8,400	8,700	8,600
鹿児島	9,700	9,700	9,700

資料：農林水産省「木材価格」

注1：「x」は、個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表していないもの。

注2：年間を通じて価格を「x」として、統計数値を公表していない都道府県は省略している。

○木材チップ（針葉樹）

・2022年

単位：円／t

都道府県	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
北海道	14,900	14,900	14,900	14,900	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,200	15,400	15,400
青森	15,600	15,600	15,600	16,200	16,300	16,300	16,700	16,700	16,700	17,000	17,200	17,200
岩手	15,800	15,800	15,800	15,900	16,200	16,200	16,200	16,200	16,200	16,200	17,100	17,100
宮城	18,600	18,600	18,600	18,800	19,000	19,000	19,000	19,000	19,000	19,000	19,800	19,800
秋田	15,900	16,400	16,400	16,500	16,700	16,800	16,800	16,300	16,300	16,500	16,700	16,700
福島	18,100	18,100	18,100	18,100	18,400	18,400	18,400	18,400	18,400	18,400	19,300	21,200
茨城	7,200	7,200	7,200	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500
栃木	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000
富山	18,100	18,100	18,100	18,100	18,100	18,100	18,100	18,100	18,100	18,100	18,100	18,100
静岡	17,900	17,900	17,900	17,900	17,900	17,900	17,900	17,900	17,900	17,900	18,000	18,000
京都	19,200	19,500	19,700	19,700	19,700	19,700	19,900	19,900	19,900	21,900	21,900	22,000
兵庫	17,100	17,100	17,100	18,700	18,800	18,800	19,300	19,300	19,300	19,300	19,300	19,300
岡山	14,000	14,000	14,000	14,000	14,000	14,500	14,500	14,600	14,600	14,600	14,600	14,600
広島	15,300	15,300	15,600	15,600	15,600	15,800	15,900	15,900	15,900	15,900	15,900	16,000
徳島	20,900	20,900	20,900	20,900	21,300	21,300	21,300	21,500	21,500	21,500	21,500	21,500
愛媛	12,900	12,900	12,900	12,900	12,900	12,900	12,900	12,900	12,900	12,900	12,900	12,900
高知	19,300	19,300	19,300	19,200	19,500	19,500	19,700	19,700	19,700	19,700	19,700	20,900
熊本	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	18,200	18,300	18,600
大分	11,600	11,600	11,600	11,600	11,600	11,600	11,600	11,600	11,600	12,500	12,500	12,500
宮崎	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100
鹿児島	13,000	13,000	13,000	13,000	13,000	13,000	13,000	13,000	13,000	13,000	13,000	13,000

・2023年

都道府県	1月	2月	3月
北海道	15,400	15,400	15,400
青森	17,700	17,700	17,700
岩手	17,100	17,100	17,100
宮城	19,800	19,800	20,000
秋田	16,800	16,900	16,900
福島	21,200	21,200	21,200
茨城	7,500	7,500	7,500
栃木	12,800	12,800	12,800
富山	18,100	18,100	18,100
静岡	18,000	18,000	18,000
京都	22,000	22,000	22,000
兵庫	19,300	19,300	22,200
岡山	14,600	14,600	14,600
広島	16,000	16,000	16,000
徳島	21,600	21,600	21,600
愛媛	12,900	12,900	12,900
高知	20,900	20,900	20,900
熊本	18,600	18,600	18,600
大分	12,500	12,500	12,500
宮崎	11,100	11,100	11,100
鹿児島	13,000	13,000	13,000

○木材チップ（広葉樹）

・2022年

単位：円／t

都道府県	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
北海道	20,400	20,400	20,400	20,700	20,700	20,700	20,800	20,800	20,800	20,900	21,100	21,200
青森	18,500	18,500	18,500	18,800	18,800	18,800	19,100	19,100	19,100	19,300	19,500	19,500
岩手	18,600	18,600	18,600	18,700	19,000	19,000	19,000	19,000	19,000	19,000	19,600	19,700
宮城	19,600	19,600	19,600	19,600	19,800	19,800	19,800	19,800	19,800	19,800	20,500	20,500
秋田	20,300	20,300	20,300	22,000	22,000	22,000	22,000	22,000	22,000	22,000	22,000	22,000
福島	20,100	20,100	20,100	20,100	20,100	20,100	20,100	20,100	20,100	20,100	20,800	21,400
栃木	15,400	15,400	15,400	15,400	15,400	15,400	15,400	15,400	15,400	15,400	15,400	15,400
山梨	15,200	15,600	15,600	15,600	15,900	15,900	16,000	17,400	17,400	17,400	17,400	17,400
島根	20,800	20,800	20,800	21,700	22,400	22,400	22,400	22,400	22,600	22,600	22,600	22,600
広島	19,700	19,800	19,800	19,700	19,700	19,700	19,700	19,800	19,800	19,800	19,900	20,300
熊本	21,300	21,300	21,300	21,300	21,300	21,300	21,600	21,600	21,600	21,600	21,600	22,800
宮崎	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,500	20,500	20,500	20,900	20,300
鹿児島	15,700	15,700	15,700	15,700	15,700	15,700	15,700	15,700	15,700	15,700	15,700	15,700

・2023年

都道府県	1月	2月	3月
北海道	21,200	21,200	21,200
青森	19,800	19,800	19,800
岩手	19,700	19,700	19,700
宮城	20,500	20,500	20,900
秋田	22,000	22,200	22,200
福島	21,400	21,400	21,400
栃木	16,400	16,400	16,400
山梨	17,400	17,400	17,400
島根	22,600	22,600	22,600
広島	20,300	20,300	20,100
熊本	22,800	22,800	22,800
宮崎	21,000	21,000	21,200
鹿児島	15,700	15,700	15,700

資料：農林水産省「木材価格」

注1：「x」は、個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表していないもの。

注2：年間を通じて価格を「x」として、統計数値を公表していない都道府県は省略している。

木材需給情報-1 木材需要の動向（2021年木材需給表）

- 木材の総需要量は、82,130千 m^3 （対前年比110.3%）となった。内訳は、用材が67,142千 m^3 （同109.4%）、しいたけ原木が246千 m^3 （同101.7%）、燃料材が14,742千 m^3 （同115.1%）である。
- 国内消費量は、78,879千 m^3 （対前年比110.4%）となった。この中で、前年に比べて増加量が大きかったものは、パルプ・チップ用材の+2,629千 m^3 （同110.6%）、燃料材の+1,938千 m^3 （同115.1%）である。
- 輸出量は、3,251千 m^3 （対前年比108.0%）となった。この中で、前年に比べて増加したものは、丸太（用材）の+75千 m^3 （同105.4%）、製材品等の+60千 m^3 （同121.8%）、合板等の+58千 m^3 （同132.4%）、木材パルプ・チップ等の+50千 m^3 （同104.3%）である。

木材需要の動向

区 分			2021年		2020年		対前年 増減量 (千 m^3)	対前年 比 (%)
			数量 (千 m^3)	構成比 (%)	数量 (千 m^3)	構成比 (%)		
総 需 要 量	用 材	製材用材	26,179	31.9	24,597	33.0	1,582	106.4
		合板用材	10,294	12.5	8,919	12.0	1,375	115.4
		パルプ・チップ用材	28,743	35.0	26,064	35.0	2,679	110.3
		その他用材	1,926	2.3	1,812	2.4	114	106.3
		小計	67,142	81.8	61,392	82.5	5,750	109.4
	しいたけ原木	246	0.3	242	0.3	4	101.7	
	燃料材	14,742	17.9	12,805	17.2	1,937	115.1	
計			82,130	100.0	74,439	100.0	7,691	110.3
国 内 消 費	用 材	製材用材	25,844	32.8	24,321	34.0	1,523	106.3
		合板用材	10,056	12.7	8,741	12.2	1,315	115.0
		パルプ・チップ用材	27,529	34.9	24,900	34.9	2,629	110.6
		その他用材	466	0.6	426	0.6	40	109.4
		小計	63,895	81.0	58,387	81.7	5,508	109.4
	しいたけ原木	246	0.3	242	0.3	4	101.7	
	燃料材	14,738	18.7	12,800	17.9	1,938	115.1	
計			78,879	100.0	71,430	100.0	7,449	110.4
輸 出	用 材	丸太	1,459	44.9	1,384	46.0	75	105.4
		製材品等	335	10.3	275	9.2	60	121.8
		合板等	237	7.3	179	5.9	58	132.4
		木材パルプ・チップ等	1,214	37.3	1,164	38.7	50	104.3
		その他	2	0.1	3	0.1	△1	66.7
	小計	3,247	99.9	3,005	99.8	242	108.1	
	燃料材	4	0.1	5	0.2	△1	80.0	
計			3,251	100.0	3,009	100.0	242	108.0

資料：林野庁「木材需給表」（2023年3月10日 修正公表）

注：1）燃料材とは、木炭、薪、燃料用チップ及びペレットである。

2）輸出の製材品等は、製材、集成材、構造用集成材、セルラーウッドパネル、加工材等である。

3）輸出の合板等は、合板、薄板・単板、ブロックボード等である。

4）輸出の木材パルプ・チップ等は、木材パルプ、木材チップ、再生木材である。

5）輸出の用材のその他は、改良木材、枕木、のこくず・木くずである。

6）数値の合計値は、四捨五入のため計に一致しない場合がある。

木材需給情報-1 木材供給の動向（2021年木材需給表）

- 木材の総供給量は、82,130千 m^3 （対前年比110.3%）となった。内訳は、用材が67,142千 m^3 （同109.4%）、しいたけ原木が246千 m^3 （同101.7%）、燃料材が14,742千 m^3 （同115.1%）である。
- 国内生産量は、33,721千 m^3 （対前年比108.3%）となった。この中で、前年に比べて増加量が大きかったものは、丸太（用材）の+2,092千 m^3 （同109.6%）である。
- 輸入量は、48,409千 m^3 （対前年比111.8%）となった。この中で、前年に比べ増加量が大きかったものは、木材チップ等の+2,538千 m^3 （同115.2%）、燃料材の+1,516千 m^3 （同139.1%）である。一方で、製材品等は△218千 m^3 （同97.8%）、木材パルプは△198千 m^3 （同96.0%）と減少した。

木材供給の動向

区 分			2021年		2020年		対前年 増減量 (千 m^3)	対前年 比 (%)	
			数量 (千 m^3)	構成比 (%)	数量 (千 m^3)	構成比 (%)			
総供給量	用材	丸太	27,845	33.9	25,180	33.8	2,665	110.6	
		林地残材	161	0.2	106	0.1	55	151.9	
		輸入木材製品	39,136	47.7	36,106	48.5	3,030	108.4	
		小計	67,142	81.8	61,392	82.5	5,750	109.4	
	しいたけ原木	246	0.3	242	0.3	4	101.7		
	燃料材	14,742	17.9	12,805	17.2	1,937	115.1		
	計	82,130	100.0	74,439	100.0	7,691	110.3		
国内生産	用材	丸太	23,966	71.1	21,874	70.2	2,092	109.6	
		林地残材	161	0.5	106	0.3	55	151.9	
		小計	24,127	71.5	21,980	70.6	2,147	109.8	
	しいたけ原木	246	0.7	242	0.8	4	101.7		
	燃料材	9,348	27.7	8,927	28.7	421	104.7		
計	33,721	100.0	31,149	100.0	2,572	108.3			
輸入	用材	丸太	3,879	8.0	3,306	7.6	573	117.3	
		製材品等	製材品等	9,903	20.5	10,121	23.4	△218	97.8
			合板等	5,201	10.7	4,293	9.9	908	121.2
			木材パルプ	4,799	9.9	4,997	11.5	△198	96.0
			木材チップ等	19,184	39.6	16,646	38.5	2,538	115.2
			その他	49	0.1	49	0.1	0	100.0
	細計	39,136	80.8	36,106	83.4	3,030	108.4		
	小計	43,015	88.9	39,412	91.0	3,603	109.1		
燃料材	5,394	11.1	3,878	9.0	1,516	139.1			
計	48,409	100.0	43,290	100.0	5,119	111.8			

資料：林野庁「木材需給表」（2023年3月10日 修正公表）

注：1）林地残材とは、立木を伐採した後の林地に残されている根株、枝条等のうち、利用を目的に木材チップ工場に搬入されたものである。

2）燃料材とは、木炭、薪、燃料用チップ及びペレットである。

3）輸入の製材品等は、製材、集成材、構造用集成材、セルラーウツパネル、加工材等である。

4）輸入の合板等は、合板、薄板・単板、ブロックボード等である。

5）輸入の木材チップ等は、木材チップ、再生木材である。

6）輸入の用材のその他は、改良木材、枕木、のこくず・木くずである。

7）数値の合計値は、四捨五入のため計に一致しない場合がある。

木材需給情報-1 木材自給率の動向（2021年木材需給表）

- 建築用材等の自給率は、製材用材の国内生産が大きく増加したこと等により、対前年比で0.8ポイント上昇し、48.0%となった。
- 非建築用材等の自給率は、パルプ・チップ用材及び燃料材の輸入が大きく増加したこと等により、対前年比で2.0ポイント低下し、35.5%となった。
- これらを合わせた総数での自給率は、対前年比で0.7ポイント低下し、41.1%となった。

【参考】木材自給率（%）＝ 国内生産量 ÷ 総需要量（※） × 100

※「総需要量」は「国内消費量」に「輸出量」を加えたもの。

木材自給率の動向

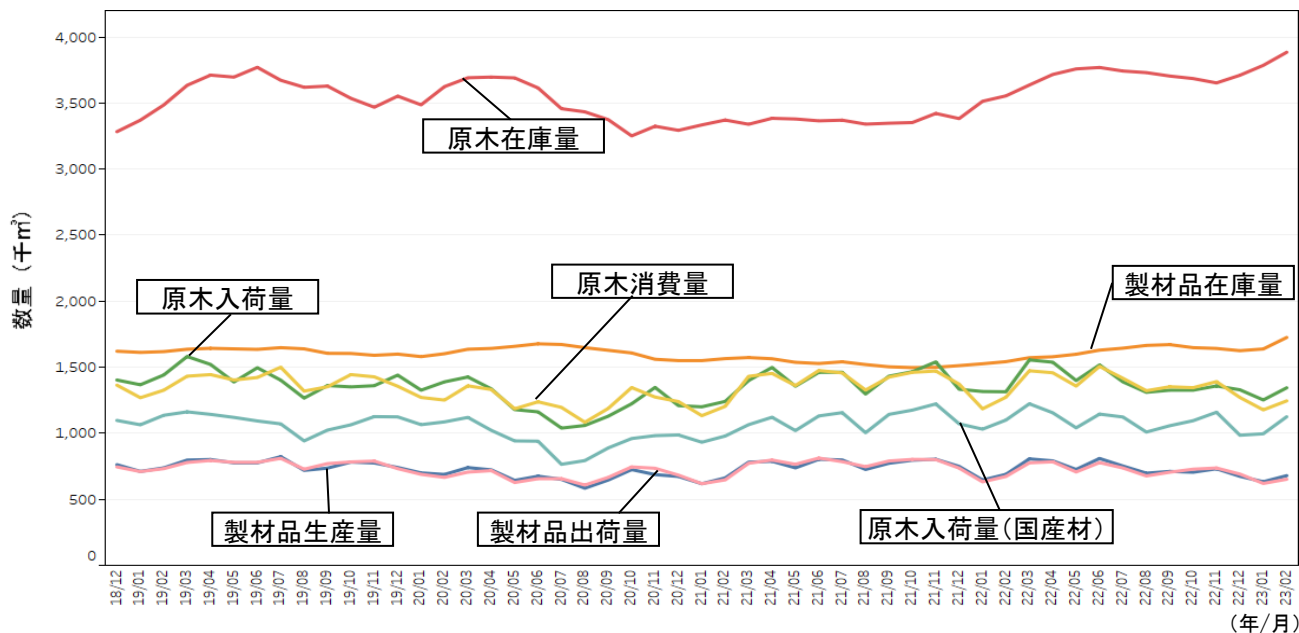
区 分		2021年	2020年	対前年 増減量 (千m ³)	対前年比 (%)		
		数量 (千m ³)	数量 (千m ³)				
建築用材等	国内生産	17,522	15,810	1,712	110.8		
	輸入	18,951	17,706	1,245	107.0		
	総需要量	36,473	33,516	2,957	108.8		
	自給率	48.0%	47.2%	0.8ポイント			
用材	製材用材	国内生産	12,861	11,615	1,246	110.7	
		輸入	13,318	12,982	336	102.6	
		総需要量	26,179	24,597	1,582	106.4	
	合板用材	国内生産	4,661	4,195	466	111.1	
		輸入	5,633	4,724	909	119.2	
		総需要量	10,294	8,919	1,375	115.4	
自給率	45.3%	47.0%	△ 1.7ポイント				
非建築用材等	国内生産	16,199	15,339	860	105.6		
	輸入	29,458	25,584	3,874	115.1		
	総需要量	45,658	40,923	4,735	111.6		
	自給率	35.5%	37.5%	△ 2.0ポイント			
	用材	パルプ・チップ用材	国内生産	4,744	4,420	324	107.3
			輸入	24,000	21,644	2,356	110.9
		総需要量	28,743	26,064	2,679	110.3	
	自給率	16.5%	17.0%	△ 0.5ポイント			
	その他用材	国内生産	1,862	1,750	112	106.4	
		輸入	65	62	3	104.8	
総需要量	1,926	1,812	114	106.3			
自給率	96.6%	96.6%	0.0ポイント				
しいたけ原木	国内生産	246	242	4	101.7		
	輸入	-	-	-	-		
	総需要量	246	242	4	101.7		
自給率	100.0%	100.0%	0.0ポイント				
燃料材	国内生産	9,348	8,927	421	104.7		
	輸入	5,394	3,878	1,516	139.1		
	総需要量	14,742	12,805	1,937	115.1		
	自給率	63.4%	69.7%	△ 6.3ポイント			
総 数	国内生産	33,721	31,149	2,572	108.3		
	輸入	48,409	43,290	5,119	111.8		
	総需要量	82,130	74,439	7,691	110.3		
	自給率	41.1%	41.8%	△ 0.7ポイント			
	うち 用材の計	国内生産	24,127	21,980	2,147	109.8	
輸入		43,015	39,412	3,603	109.1		
総需要量		67,142	61,392	5,750	109.4		
自給率		35.9%	35.8%	0.1ポイント			

資料：林野庁「木材需給表」（2023年3月10日 修正公表）

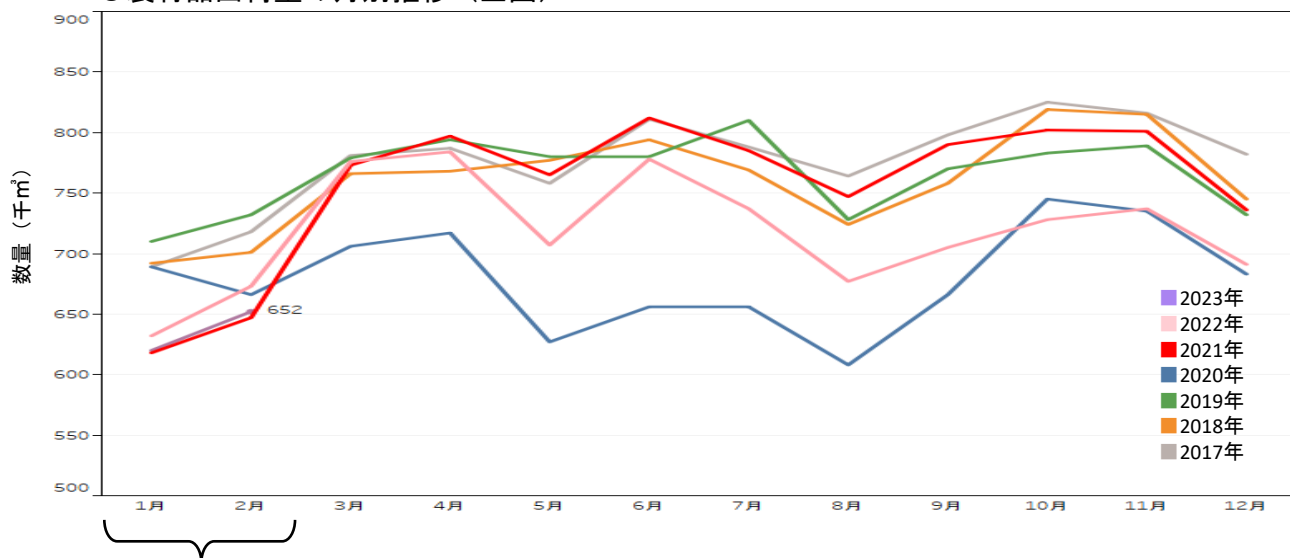
注）数値の合計値は、四捨五入のため計に一致しない場合がある。

木材需給情報-2 製材工場の原木入荷、製品生産等の動向

- 2023年1～2月の原木の入荷量は、2,596千m³（2019年比 92%）。
- 同様に製材品の出荷量は、1,272千m³（2019年比 88%）。



○製材品出荷量の月別推移（全国）



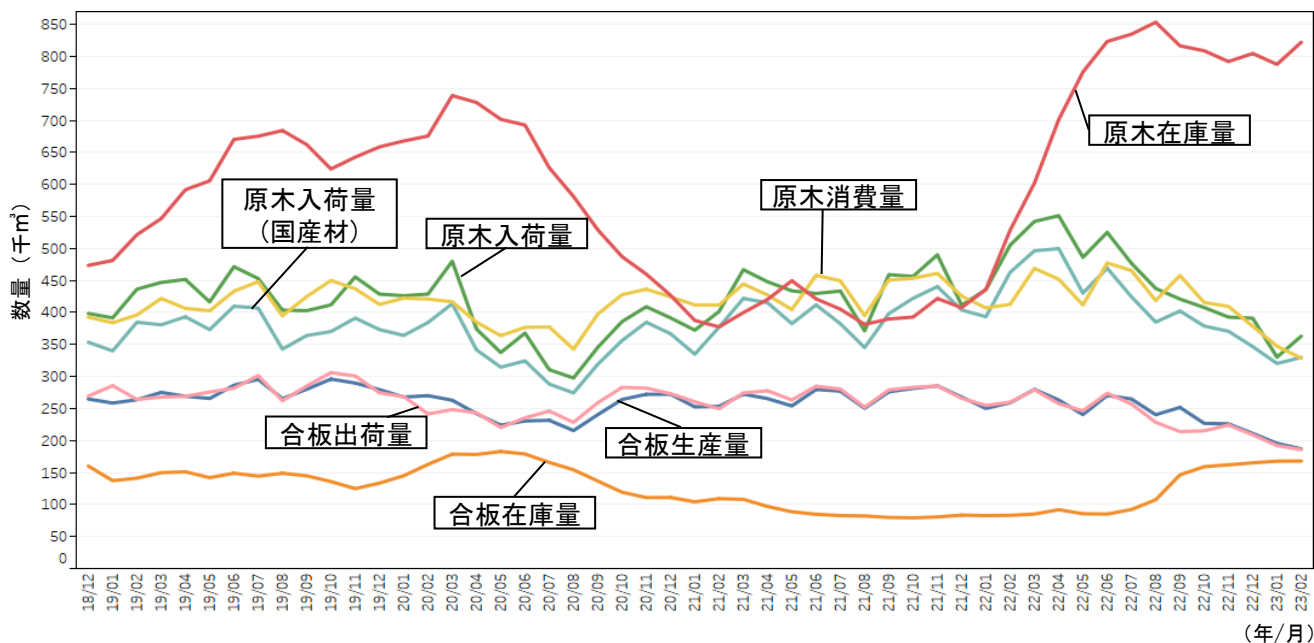
	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
1～2月原木入荷量 合計(千m ³)	2,666	2,622	2,808	2,715	2,441	2,630	2,596
2019年との比較※	95%	93%	—	97%	87%	94%	92%
1～2月出荷量 合計(千m ³)	1,407	1,393	1,442	1,355	1,265	1,305	1,272
2019年との比較※	98%	97%	—	94%	88%	90%	88%

※2019年（COVID-19の影響前）の数値を100%とした比較

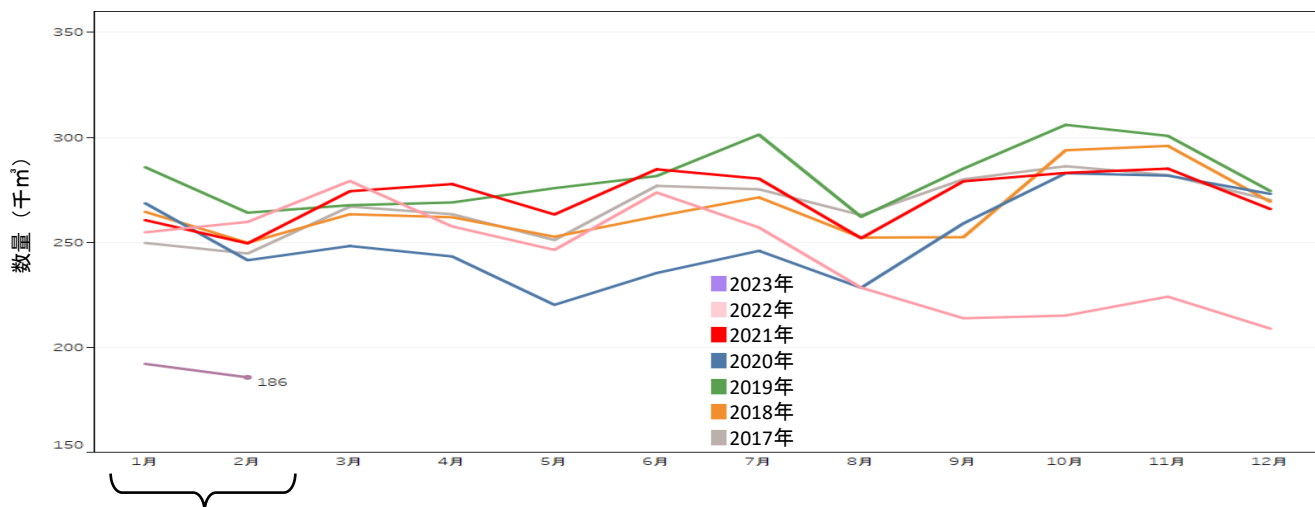
資料：農林水産省「製材統計」

木材需給情報-3 合板工場の原木入荷、製品生産等の動向

- 2023年1～2月の原木の入荷量は、693千 m^3 （2019年比 84%）。
- 同様に合板の出荷量は、378千 m^3 （2019年比 69%）。



○合板出荷量の月別推移（全国）

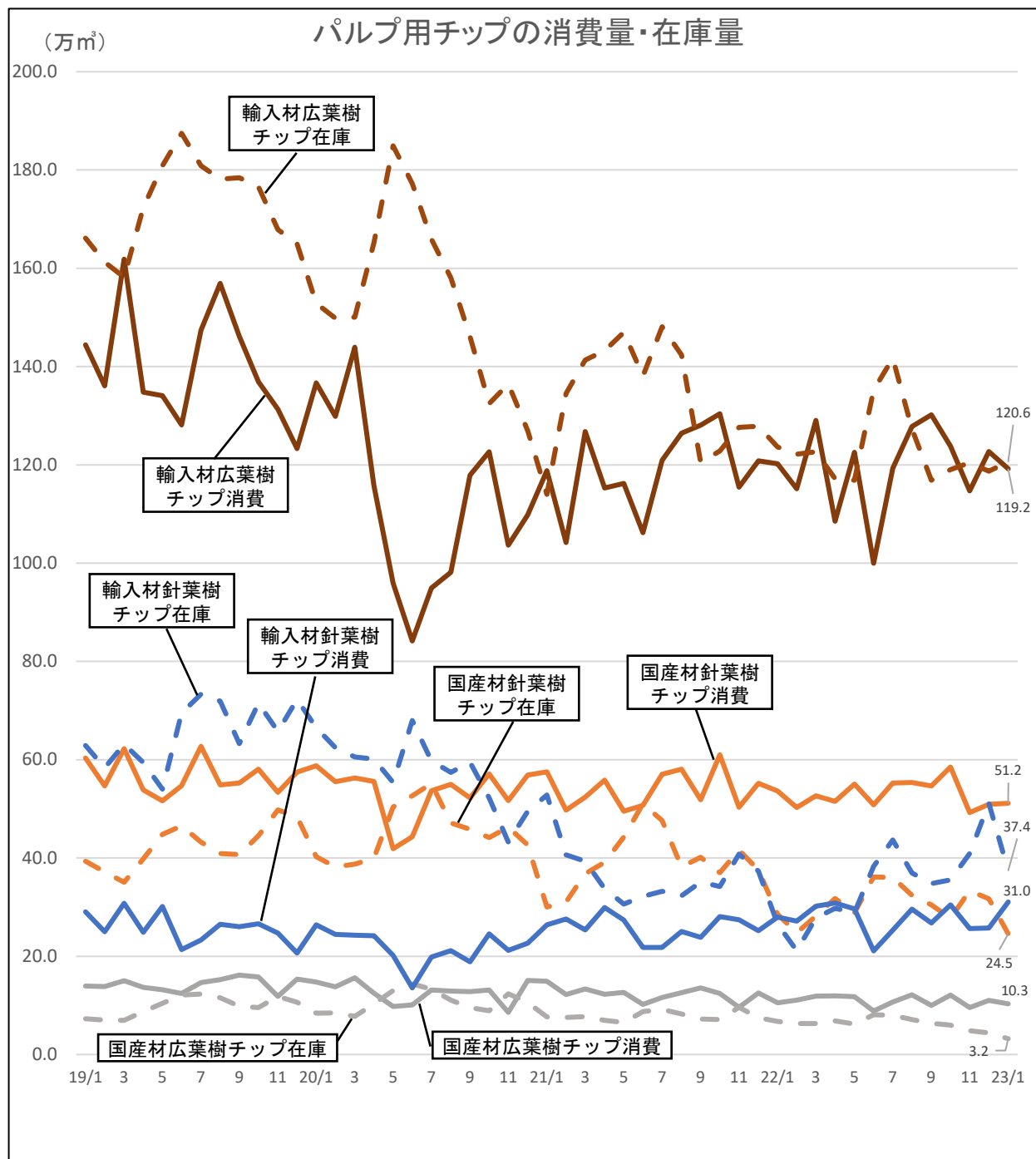


	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
1～2月原木入荷量 合計(千 m^3)	664	764	828	855	774	941	693
2019年との比較※	80%	92%	—	103%	93%	114%	84%
1～2月出荷量 合計(千 m^3)	494	514	550	510	510	515	378
2019年との比較※	90%	93%	—	93%	93%	94%	69%

※2019年（COVID-19の影響前）の数値を100%とした比較

資料：農林水産省「合板統計」

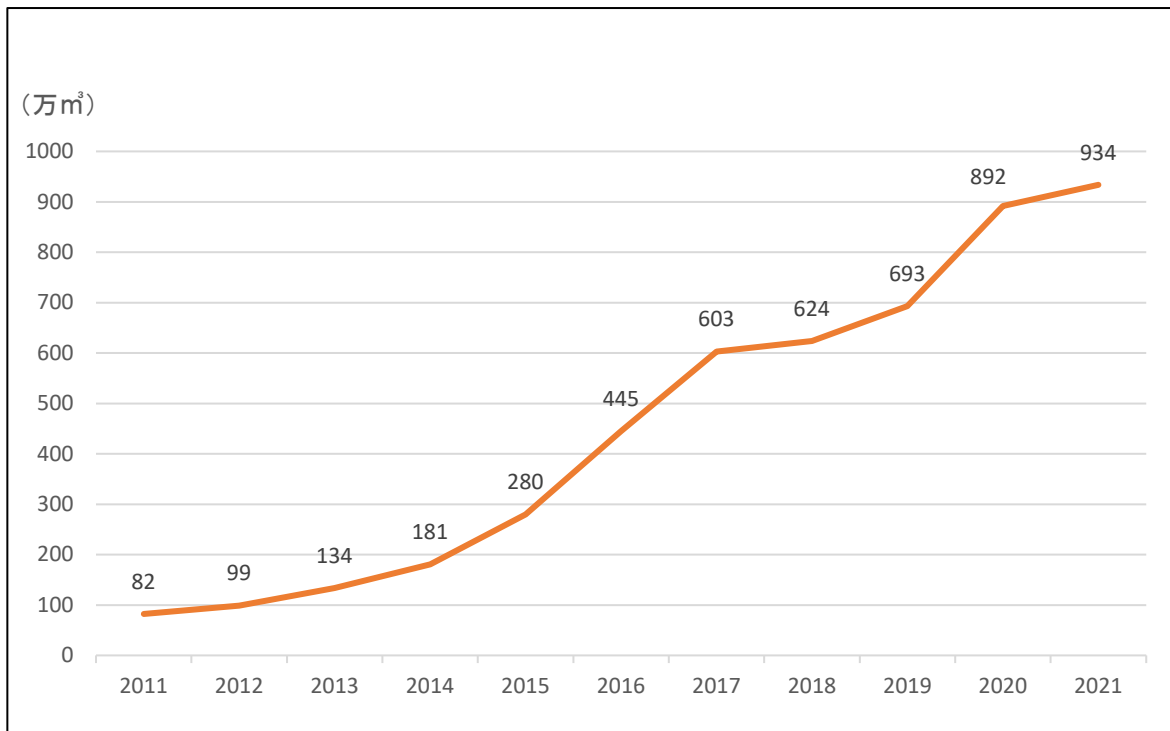
- パルプ用チップの消費について、2023年1月の輸入材広葉樹チップの消費量は119.2万 m^3 。国産材針葉樹チップの消費量は51.2万 m^3 となっている。



資料：林野庁木材産業課調べ

- 燃料材(国内生産)の利用量は、発電利用を中心に増加(過去10年間で約11倍)。
- 2023年2月の紙の生産高は86万トン。板紙の生産高は89万トンとなっている。

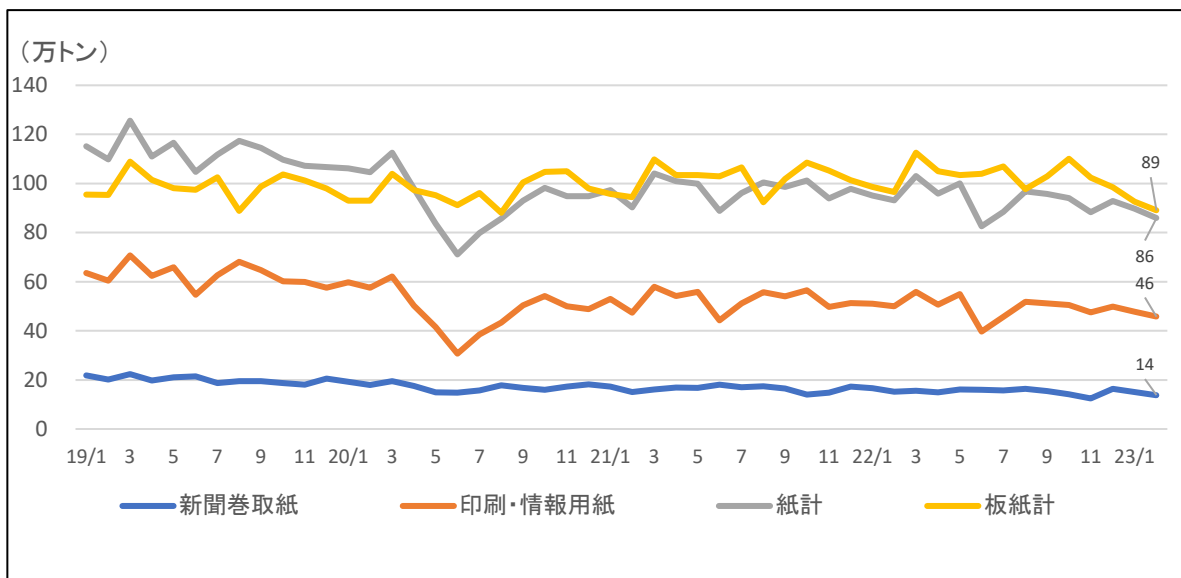
○燃料材(国内生産)の利用量の推移



資料：木材利用課調べ(～2014年)、林野庁「木材需給表」(2015年～)

注：利用量には輸出量は含まない。

○紙品種別生産高



資料：林野庁木材産業課調べ

木材需給情報-6 素材生産量（2021年）

- 2021年の製材、合板及びチップ用材の素材生産量は2,185万 m^3 。

単位：千 m^3

全 国 都道府県	計	製材用	合板等用	木材チップ用	針葉樹		広葉樹
					スギ		
全 国	21,847	12,861	4,661	4,325	20,088	12,917	1,759
北 海 道	3,163	1,630	652	881	2,615	63	548
青 森	971	360	397	214	924	812	47
岩 手	1,431	525	547	359	1,228	770	203
宮 城	627	218	292	117	588	538	39
秋 田	1,183	486	554	143	1,109	1,095	74
山 形	305	223	75	7	302	291	3
福 島	890	444	64	382	756	568	134
茨 城	401	320	4	77	374	254	27
栃 木	658	463	5	190	571	396	87
群 馬	252	162	31	59	240	179	12
埼 玉	67	31	x	x	43	25	24
千 葉	50	16	4	30	35	28	15
東 京	64	17	8	39	58	37	6
神 奈 川	10	8	x	x	9	6	1
新 潟	119	81	23	15	112	111	7
富 山	112	57	21	34	96	90	16
石 川	108	52	37	19	98	85	10
福 井	122	57	30	35	120	114	2
山 梨	125	27	x	x	104	27	21
長 野	460	188	207	65	453	106	7
岐 阜	385	256	80	49	381	211	4
静 岡	608	199	99	310	608	248	0
愛 知	139	96	28	15	127	76	12
三 重	277	189	81	7	276	122	1
滋 賀	72	15	14	43	57	40	15
京 都	159	51	41	67	140	98	19
大 阪	x	7	-	x	10	6	x
兵 庫	301	98	143	60	287	189	14
奈 良	125	107	x	x	125	67	0
和 歌 山	206	138	24	44	201	129	5
鳥 取	232	83	101	48	211	163	21
鳥 根	346	120	124	102	289	204	57
岡 山	427	348	23	56	389	100	38
広 島	347	152	81	114	267	136	80
山 口	221	123	46	52	198	135	23
徳 島	333	175	x	x	321	263	12
香 川	13	5	-	8	8	1	5
愛 媛	563	528	3	32	563	342	-
高 知	519	x	x	94	516	254	3
福 岡	402	343	7	52	395	353	7
佐 賀	130	109	1	20	119	66	11
長 崎	139	77	12	50	120	59	19
熊 本	938	752	123	63	907	686	31
大 分	1,129	892	210	27	1,116	929	13
宮 崎	2,042	1,830	164	48	2,026	1,931	16
鹿 児 島	664	417	132	115	596	514	68
沖 縄	x	x	-	x	0	-	x

資料：農林水産省「令和3年木材統計」

「x」：個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表していないもの

木材需給情報-7 木材生産の産出額（2021年）

- 2021年の木材生産の都道府県別木材生産の産出額の合計は2,666億円。

単位：1,000万円

都道府県	木材生産	針葉樹					広葉樹	竹材
		スギ	ヒノキ	アカマツ・クロマツ	カラマツ・エゾマツ・トドマツ			
北海道	3,145	2,652	42	-	1	2,573	493	-
青森	863	811	684	0	39	52	51	-
岩手	1,498	1,264	728	4	165	365	215	-
宮城	534	507	465	6	21	14	25	2
秋田	1,176	1,089	1,075	0	3	12	85	-
山形	317	312	298	0	2	13	5	-
福島	853	765	484	211	29	37	86	-
茨城	547	528	283	242	2	0	19	-
栃木	851	774	453	306	6	3	70	2
群馬	283	271	186	51	3	29	11	-
埼玉	67	49	24	24	0	1	17	-
千葉	43	30	22	7	-	-	11	3
東京	41	36	20	11	-	1	5	-
神奈川	13	13	6	6	-	-	1	-
新潟	140	133	132	0	0	1	6	0
富山	118	104	92	11	0	1	14	-
石川	135	126	101	11	3	0	9	0
福井	116	114	108	5	1	0	2	0
山梨	120	99	28	17	11	34	10	-
長野	648	623	101	107	36	376	9	-
岐阜	593	586	284	281	2	11	7	0
静岡	638	638	189	400	1	2	0	-
愛知	171	163	75	74	0	11	9	-
三重	445	443	158	282	3	-	1	-
滋賀	57	42	27	11	0	0	14	1
京都	162	140	90	48	0	-	17	5
大阪	x	11	5	6	0	-	x	-
兵庫	340	324	178	141	1	0	15	0
奈良	201	200	77	124	-	-	0	0
和歌山	231	224	124	98	0	-	5	2
鳥取	262	248	167	75	5	0	14	-
島根	385	337	210	106	13	0	48	0
岡山	726	698	90	603	2	-	24	3
広島	467	423	159	251	13	0	43	-
山口	331	312	168	142	1	1	14	5
徳島	352	346	242	104	0	-	6	0
香川	13	10	1	10	0	-	2	0
愛媛	809	808	383	425	0	0	-	0
高知	702	700	281	382	0	-	2	1
福岡	239	234	157	75	1	-	5	0
佐賀	237	229	113	116	0	-	8	0
長崎	195	182	72	110	-	-	13	-
熊本	1,684	1,657	1,107	549	0	-	20	7
大分	1,709	1,690	1,332	358	1	-	9	4
宮崎	3,217	3,206	2,980	224	1	-	10	-
鹿児島	970	902	725	172	1	-	52	15
沖縄	x	0	-	-	-	-	x	-
合計	26,655	25,054	14,726	6,188	367	3,537	1,483	51

資料：農林水産省「令和3年林業産出額」

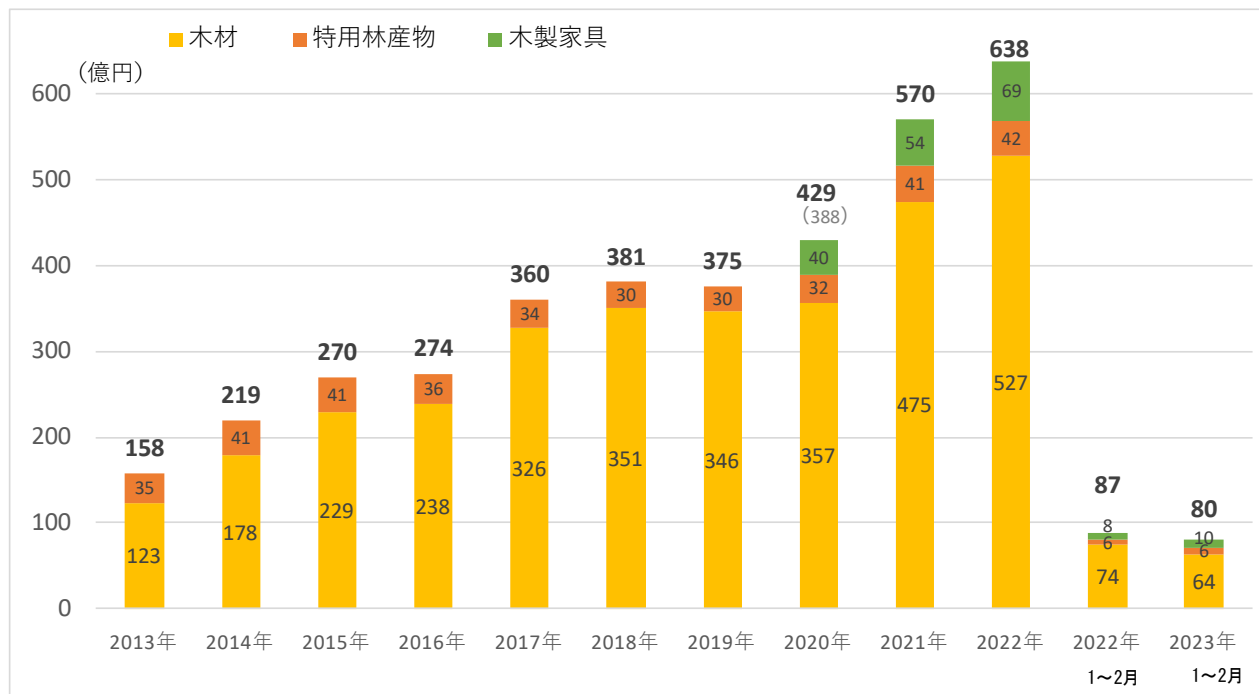
注：都道府県別産出額には、全国値には含まれる木材生産におけるパルプ工場が直接入荷するパルプ用素材、輸出丸太及び燃料用チップ素材の産出額を含まない。

また、全国値には含まない木材生産における県外移出されたしいたけ原木の産出額を含む。

「x」：個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため、統計調査を公表していないもの

- 令和5年2月の林産物の輸出額は47億円（前年同月比94%）となった。
- 内訳としては木材が38億円（同90%）、特用林産物が3億円（同105%）、木製家具が5億円（同132%）となった。
- 1～2月の累計は、80億円（前年同期比92%）となった。

○林産物輸出の推移



資料:財務省「貿易統計」

※特用林産物には、きのこ(はらたけ属以外)、乾しいたけ、ロジン、植物性ろう等が含まれる。なお、木質ペレット、薪、木炭は木材に含まれる。

※2020年の(388)は品目の見直しによる追加品目(木製家具、調整・保存処理したきのこ等)を含まない数字。

※四捨五入により、合計が合致しない場合がある。

○林産物の月別輸出額

(億円)

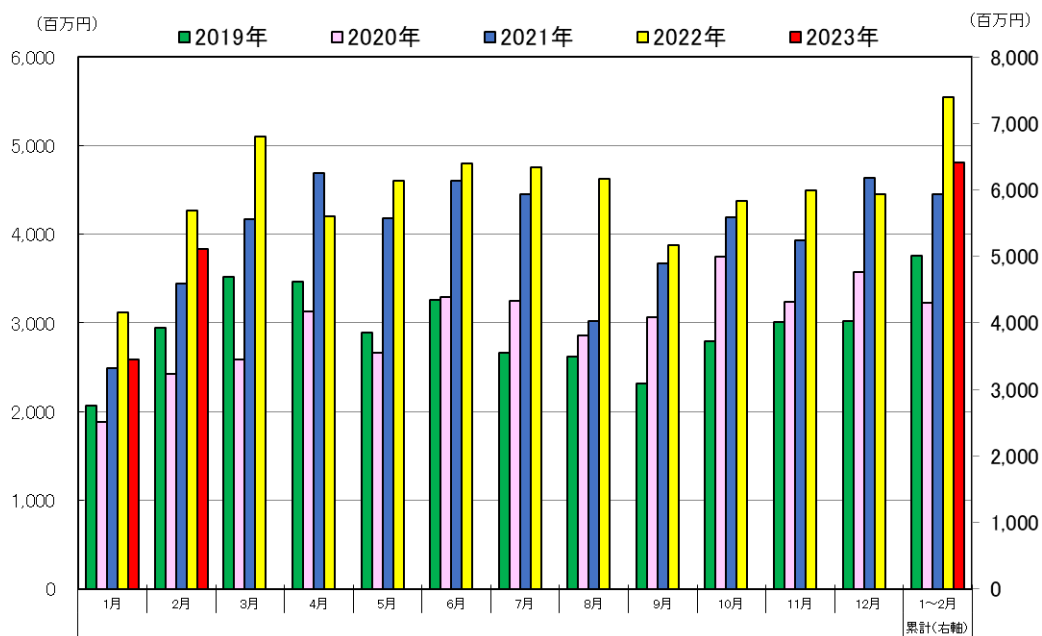
	2022年				2023年					
	林産物	木材	特用林産物	木製家具	林産物	前年比	前々年比	木材	特用林産物	木製家具
1月	37	31	3	4	33	88%	105%	26	3	4
2月	50	43	3	4	47	94%	114%	38	3	5
3月	61	51	4	6						
4月	51	42	3	5						
5月	55	46	3	5						
6月	58	48	4	6						
7月	58	48	4	7						
8月	56	46	3	6						
9月	48	39	4	6						
10月	54	44	4	6						
11月	55	45	4	7						
12月	56	45	4	7						
2月累計	87	74	6	8	80	92%	110%	64	6	10

資料:財務省貿易統計

林産物輸出入情報- 2 木材輸出額

- 2023年2月の輸出額は38.3億円（前年同月比90%）となった。
- 全体的に輸出額が減少しているが、丸太輸出では台湾の減少が大きい。特に製材輸出については、フィリピン向け輸出が大きく減少している他、韓国・米国でも輸出額が減少している。

○木材輸出額の推移（月別）



○木材輸出額の推移（主な国別・品目別）

輸出先	単月 2月					累計1~2月				
	輸出額 (百万円)	前年比 (%)	主要品目内訳(百万円) 前年比(%)			輸出額 (百万円)	前年比 (%)	主要品目内訳(百万円) 前年比(%)		
			丸太	製材	合板			丸太	製材	合板
中国	1,446	91%	1,129 95%	74 61%	12 52%	2,425	86%	1,847 85%	156 78%	17 43%
韓国	274	92%	167 103%	47 78%	0 5%	503	88%	326 102%	72 85%	3 41%
台湾	229	80%	121 64%	32 61%	0 -	364	80%	188 65%	67 72%	0 -
米国	424	55%	0 -	186 35%	0 -	729	71%	0 -	291 43%	0 -
フィリピン	1,164	112%	0 -	48 13%	1,033 171%	1,750	87%	0 -	84 13%	1,559 130%
その他	294	105%	8 62%	44 73%	1 10%	643	127%	14 70%	97 108%	7 51%
総計	3,831	90%	1,425 91%	432 37%	1,046 162%	6,414	87%	2,375 85%	767 42%	1,585 126%

※資料：財務省貿易統計（第4類を集計）、四捨五入により、数値が合わないことがある。

木材輸出についての詳細は、次のURLをご覧ください。
<https://www.rinya.maff.go.jp/j/riyou/yusyutu/mokuzai-yusyutsu.html>



林産物輸出入情報-3 木材輸入額

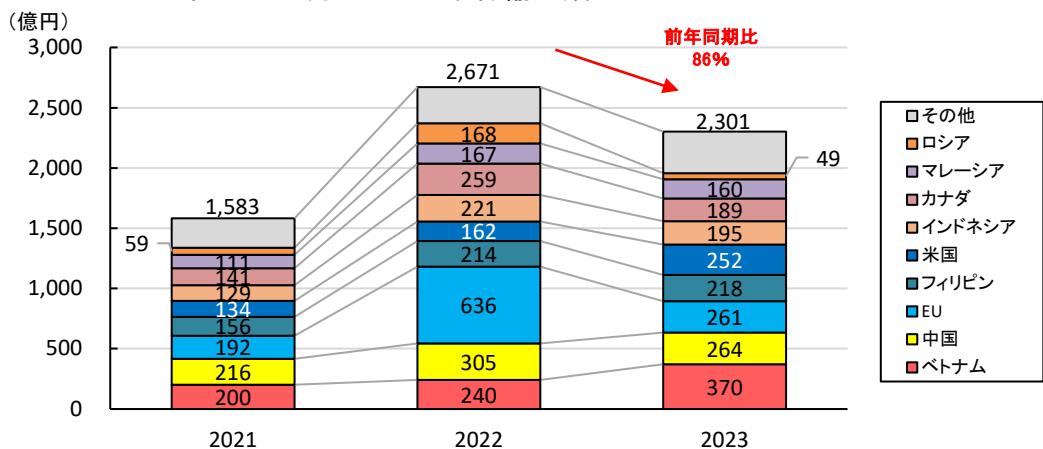
- 2023年2月の木材輸入額は、前月比82%、前年同月比は84%の1,036億円となった。
- 国別に、前月比で見ると、EU（前年輸入額に占めるシェア18%）が92%、ベトナム（同12%）が60%、中国（同12%）が55%、カナダ（同10%）が75%、インドネシア（同9%）が79%と減少する一方で、米国（同8%）が112%、フィリピン（同8%）が101%と増加した。
- 前年同月比で見ると、EUが41%、中国が75%、カナダが72%、インドネシアが87%、フィリピンが91%と減少する一方、ベトナムが140%、米国が172%と増加した。

○2023年2月の木材輸入額

(単位:億円)

年	2022年 (1月～ 12月)	月別金額				累計金額		
		2023年 1月	2023年 2月	前月比	前年 同月比	2022年 1～2月	2023年 1～2月	前年 同期比
国名								
世界計	17,503	1,265	1,036	82%	84%	2,671	2,301	86%
E U	3,227	136	125	92%	41%	636	261	41%
(フィンランド)	1,080	37	38	102%	36%	217	76	35%
(スウェーデン)	688	31	24	78%	38%	145	55	38%
ベトナム	2,110	231	139	60%	140%	240	370	154%
中 国	2,071	170	94	55%	75%	305	264	86%
カナダ	1,760	108	81	75%	72%	259	189	73%
インドネシア	1,584	108	86	79%	87%	221	195	88%
米 国	1,456	119	133	112%	172%	162	252	156%
フィリピン	1,348	108	109	101%	91%	214	218	102%
マレーシア	1,118	91	69	76%	91%	167	160	96%
ロシア	685	23	25	108%	33%	168	49	29%
その他	2,144	171	174	102%	127%	300	345	115%
我が国の総輸入額	1,181,642	100,570	85,524	85%	109%	163,983	186,094	113%
我が国の総輸入額に 占める木材輸入額の割合	1.48%	1.26%	1.21%			1.63%	1.24%	

○2021～2023年の1～2月における木材輸入額



資料：財務省貿易統計

注1：輸入統計品目表第44類（木材及びその製品並びに木炭）の合計（※次ページ以降に記載の品目の合計ではない）。

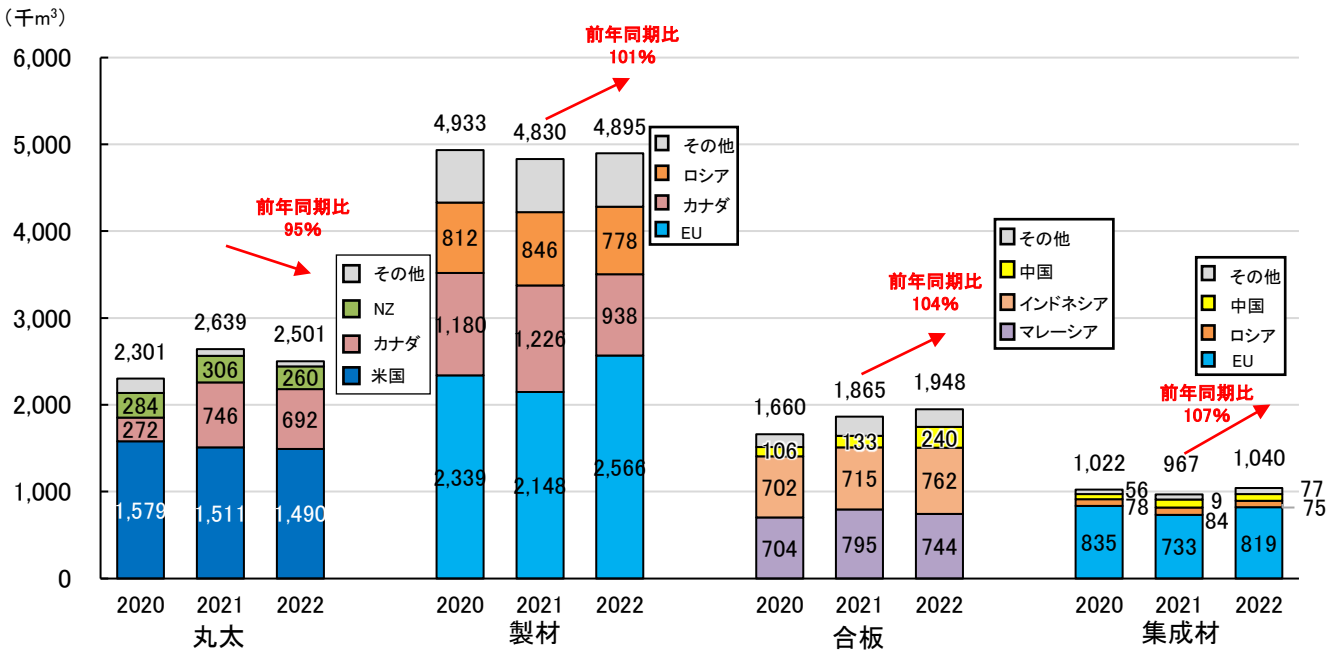
2：EUに英国は含まない。

3：EUは、フィンランド、スウェーデンの合計ではない。

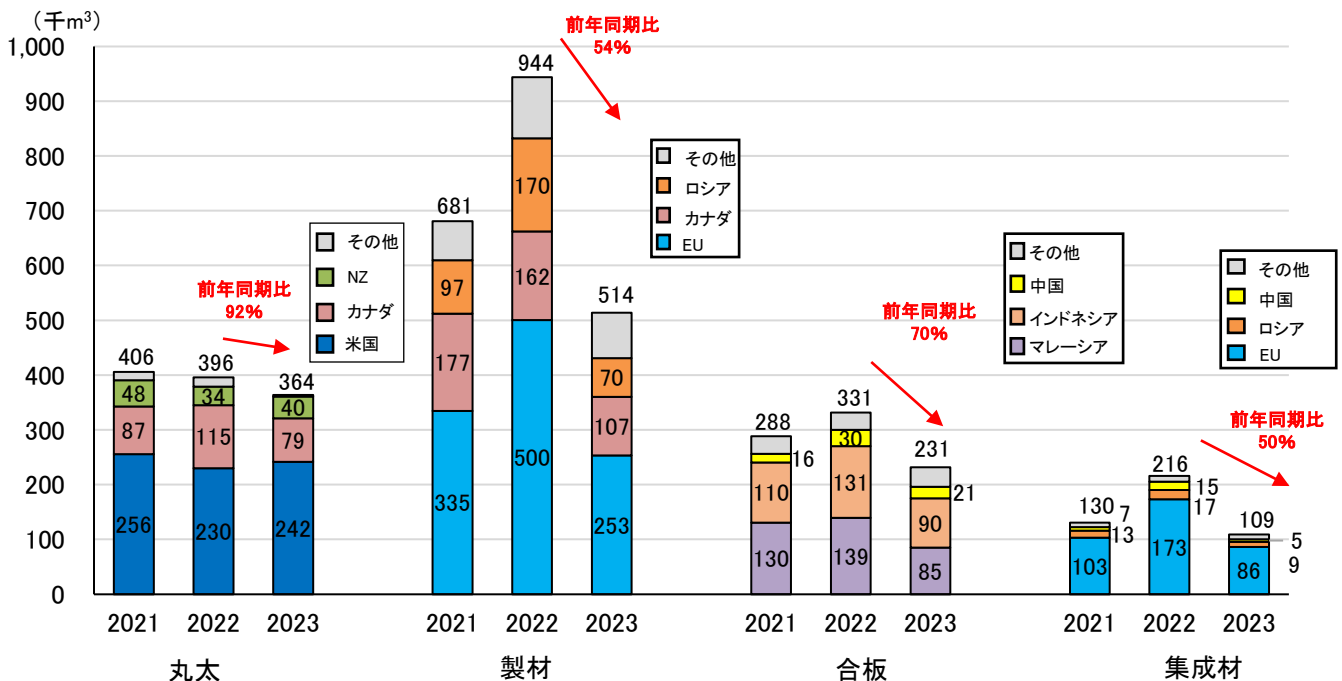
林産物輸出入情報-3 木材輸入量（累計）

- 2022年における品目別の輸入量は、前年比で丸太が95%と減少する一方で、製材が101%、合板が104%、集成材が107%と、増加した。
- 2023年1月～2月累計の品目別輸入量は、前年同期比で丸太が92%、製材が54%、合板が70%、集成材が50%と軒並み減少した。
- なお、2021年同期比では、丸太が90%、製材が75%、合板が80%、集成材が84%となった。

○2020～2022年の品目別木材輸入量



○2021～2023年の1月～2月における品目別木材輸入量



資料：財務省貿易統計

林産物輸出入情報-4 木材輸入量（丸太）

- 2023年2月の丸太輸入量は、前月比64%、前年同月比83%の14万^mとなった。
- 国別に、前月比で見ると、米国（前年輸入量に占めるシェア60%）が75%、カナダ（同28%）が31%、ニュージーランド（同10%）が79%と軒並み減少した。
- 前年同月比で見ると、カナダが30%と大幅に減少する一方、米国が103%と増加した。また、ニュージーランドは皆増となった。

（単位：千^m）

材種 国名	年 2022年 (1月～ 12月)	月別数量				累計数量		
		2023年 1月	2023年 2月	前月比	前年 同月比	2022年 1～2月	2023年 1～2月	前年 同期比
合計	[100%] 2,501	[100%] 222	[100%] 141	64%	83%	[100%] 396	[100%] 364	92%
米材	[87%] 2,182	[89%] 198	[87%] 122	62%	75%	[87%] 345	[88%] 321	93%
米国	[60%] 1,490	[62%] 138	[73%] 104	75%	103%	[58%] 230	[66%] 242	105%
カナダ	[28%] 692	[27%] 60	[13%] 19	31%	30%	[29%] 115	[22%] 79	69%
南洋材	[1%] 29	[0%] 0	[0%] 0	461%	6%	[2%] 7	[0%] 0	5%
インドネシア	[0%] 0	-	-	-	-	-	-	-
マレーシア	[1%] 22	-	[0%] 0	皆増	6%	[2%] 7	[0%] 0	4%
パプアニュー ギニア	[0%] 7	[0%] 0	-	0%	-	-	[0%] 0	皆増
ロシア材	[0%] 7	-	-	-	-	-	-	0%
ニュージーランド材	[10%] 260	[10%] 22	[12%] 18	79%	皆増	[9%] 34	[11%] 40	116%
欧州材	[1%] 15	[0%] 1	[0%] 1	117%	67%	[0%] 2	[0%] 1	83%
EU計	[1%] 15	[0%] 1	[0%] 1	117%	69%	[0%] 1	[0%] 1	85%
アフリカ材	[0%] 2	[0%] 1	[0%] 0	21%	92%	[0%] 0	[0%] 1	532%
中国	[0%] 2	[0%] 0	[0%] 0	100%	15%	[0%] 0	[0%] 0	10%
その他	[0%] 3	[0%] 0	[0%] 0	91%	73%	[0%] 1	[0%] 1	70%

資料：財務省貿易統計

注1：丸太は輸入統計品目表第4403項の合計。

2：米材は米国、カナダより輸入された材。

3：南洋材はインドネシア、マレーシア、パプアニューギニア、ソロモン諸島、フィリピン、シガポール、ブルネイの7か国より輸入された材。

4：欧州材はロシアを除く全ての欧州各国より輸入された材。

5：数量の上段の[]書きは、総輸入量に占める各国の割合。

6：四捨五入の関係で計は必ずしも一致しない。

7：「-」は輸入実績なし等。

8：EUに英国は含まない。

林産物輸出入情報-4 木材輸入量（製材）

- 2023年2月の製材輸入量は、前月比98%、前年同月比59%の25万^mとなった。
- 国別に、前月比で見ると、カナダ（前年輸入量に占めるシェア19%）は100%となった。また、EU（同52%）が90%と減少する一方、ロシア（同16%）が113%と増加した。
- 前年同月比で見ると、カナダが72%、ロシアが47%、EUが50%と軒並み減少した。

（単位：千^m）

材種 国名	年 2022年 (1月～ 12月)	月別数量				累計数量		
		2023年 1月	2023年 2月	前月比	前年 同月比	2022年 1～2月	2023年 1～2月	前年 同期比
合計	[100%] 4,895	[100%] 260	[100%] 254			[100%] 944	[100%] 514	
米材	[22%] 1,070	[24%] 62	[24%] 60			[19%] 183	[24%] 122	
米国	[3%] 132	[3%] 9	[3%] 7	97%	70%	[2%] 21	[3%] 15	67%
カナダ	[19%] 938	[21%] 53	[21%] 54	100%	72%	[17%] 162	[21%] 107	66%
南洋材	[1%] 63	[2%] 6	[2%] 4			[1%] 11	[2%] 10	
インドネシア	[0%] 21	[1%] 2	[1%] 2	73%	95%	[0%] 4	[1%] 4	99%
マレーシア	[1%] 40	[1%] 4	[1%] 2	71%	75%	[1%] 7	[1%] 6	83%
バプアニューギニア	[0%] 0	-	[0%] 0	皆増	皆増	[0%] 0	[0%] 0	103%
ロシア材	[16%] 778	[13%] 33	[15%] 37	113%	47%	[18%] 170	[14%] 70	41%
ニュージーランド材	[1%] 47	[2%] 5	[1%] 3	68%	92%	[1%] 9	[2%] 8	92%
チリ材	[5%] 251	[6%] 14	[9%] 24	165%	228%	[5%] 45	[7%] 38	85%
欧州材	[54%] 2,619	[52%] 135	[48%] 123			[54%] 514	[50%] 258	
EU計	[52%] 2,566	[51%] 134	[47%] 120	90%	50%	[53%] 500	[49%] 253	51%
(スウェーデン)	[17%] 847	[19%] 49	[17%] 42	86%	52%	[19%] 178	[18%] 91	51%
(フィンランド)	[17%] 842	[14%] 36	[16%] 41	112%	55%	[17%] 159	[15%] 77	49%
アフリカ材	[0%] 2	[0%] 0	[0%] 0	144%	73%	[0%] 0	[0%] 0	51%
中国	[1%] 57	[1%] 3	[1%] 2	59%	49%	[1%] 9	[1%] 4	49%
その他	[0%] 8	[0%] 1	[0%] 1	56%	57%	[0%] 2	[0%] 1	75%

資料：財務省貿易統計

注1：製材は輸入統計品目表第4407項の合計。

2：米材は米国、カナダより輸入された材。

3：南洋材はインドネシア、マレーシア、バプアニューギニア、ソロモン諸島、フィリピン、シガポール、ブルネイの7か国より輸入された材。

4：欧州材はロシアを除く全ての欧州各国より輸入された材。

5：数量の上段の[]書きは、総輸入量に占める各国の割合。

6：四捨五入の関係で計は必ずしも一致しない。

7：「-」は輸入実績なし等。

8：EUに英国は含まない。

9：EUは、フィンランド、スウェーデンの合計ではない。

林産物輸出入情報-4 木材輸入量（合板、木材チップ）

- 2023年2月の合板輸入量は、前月比87%、前年同月比74%の11万^mとなった。
- 国別に、前月比で見ると、インドネシア（前年輸入量に占めるシェア39%）が83%と減少する一方、マレーシア（同38%）が112%と増加した。
- 前年同月比で見ると、インドネシアが72%、マレーシアが74%と減少した。

（単位：千^m）

年	2022年 (1月～ 12月)	月別数量				累計数量		
		2023年 1月	2023年 2月	前月比	前年 同月比	2022年 1～2月	2023年 1～2月	前年 同期比
総輸入量	[100%] 1,948	[100%] 124	[100%] 108			[100%] 331	[100%] 231	
インドネシア	[39%] 762	[40%] 49	[38%] 41	87%	74%	[39%] 131	[39%] 90	70%
マレーシア	[38%] 744	[33%] 40	[42%] 45	112%	74%	[42%] 139	[37%] 85	61%
中国	[12%] 240	[11%] 13	[7%] 8	57%	55%	[9%] 30	[9%] 21	71%
ベトナム	[10%] 186	[16%] 19	[12%] 13	67%	114%	[9%] 28	[14%] 32	115%
EU	[0%] 6	[1%] 1	[0%] 0	49%	75%	[0%] 1	[1%] 1	103%
その他	[1%] 10	[1%] 1	[1%] 1	142%	99%	[1%] 2	[1%] 2	84%

資料：財務省貿易統計

注1：輸入統計品目表第4412.10号111～299、第4412.31号、第4412.33号、第4412.34号、第4412.39号の合計。

2：数量の上段の[]書きは、総輸入量に占める各国の割合。

3：四捨五入の関係で計は必ずしも一致しない。

4：EUに英国は含まない。

- 2023年2月の木材チップ輸入量は、前月比95%、前年同月比111%の89万トンとなった。
- 国別に、前月比で見ると、ベトナム（前年輸入量に占めるシェア38%）が79%と減少する一方、オーストラリア（同17%）が143%、チリ（同8%）が145%と増加した。
- 前年同月比で見ると、チリが83%と減少する一方、ベトナムが109%、オーストラリアが201%と増加した。

（単位：千トン）

年	2022年 (1月～ 12月)	月別数量				累計数量		
		2023年 1月	2023年 2月	前月比	前年 同月比	2022年 1～2月	2023年 1～2月	前年 同期比
総輸入量	[100%] 11,312	[100%] 935	[100%] 888			[100%] 1,784	[100%] 1,823	
ベトナム	[38%] 4,300	[42%] 393	[35%] 312	79%	109%	[38%] 687	[39%] 705	103%
オーストラリア	[17%] 1,943	[14%] 130	[21%] 185	143%	201%	[17%] 294	[17%] 315	107%
チリ	[8%] 868	[6%] 58	[9%] 84	145%	83%	[12%] 220	[8%] 142	65%
南アフリカ共和国	[10%] 1,099	[10%] 94	[7%] 62	66%	93%	[7%] 128	[9%] 155	122%
米国	[8%] 960	[4%] 42	[8%] 68	164%	111%	[7%] 124	[6%] 110	89%
その他	[19%] 2,142	[23%] 219	[20%] 177	81%	90%	[19%] 332	[22%] 396	119%

資料：財務省貿易統計

注1：輸入統計品目表第4401.21号と第4401.22号の合計。

2：数量の上段の[]書きは、総輸入量に占める各国の割合。

3：四捨五入の関係で計は必ずしも一致しない。

林産物輸出入情報-4 木材輸入量（集成材）

- 2023年2月の集成材輸入量は、前月比102%、前年同月比54%の5.5万m³となった。構造用集成材に限ると、前月比114%、前年同月比55%の5.0万m³となった。
- 国別に、前月比で見ると、中国（前年輸入量に占めるシェア7%）が59%と減少する一方、EU（同79%）が108%、ロシア（同7%）が132%と増加した。EUの国別内訳では、オーストリア（同12%）が67%と減少する一方、フィンランド（同38%）が117%、ルーマニア（同15%）が157%と増加した。
- 前年同月比で見ると、EUが54%、中国が33%、ロシアが63%と軒並み減少した。

（単位：千m³）

年 国名	2022年 (1月～12月)	月別数量				累計数量		
		2023年 1月	2023年 2月	前月比	前年 同月比	2022年 1 ～2月	2023年 1～2月	前年 同期比
総輸入量	[100%] 1,040	[100%] 54	[100%] 55	102%	54%	[100%] 216	[100%] 109	50%
うち 構造用集成材	[100%] 906	[100%] 44	[100%] 50	114%	55%	[100%] 191	[100%] 93	49%
E U	[79%] 819	[77%] 42	[81%] 45	108%	54%	[80%] 173	[79%] 86	50%
うち 構造用集成材	[88%] 797	[89%] 39	[89%] 44	114%	55%	[87%] 167	[89%] 83	50%
フィンランド	[38%] 390	[38%] 20	[43%] 24	117%	60%	[37%] 80	[40%] 44	55%
うち 構造用集成材	[43%] 385	[44%] 19	[47%] 24	123%	60%	[41%] 79	[46%] 43	54%
ルーマニア	[15%] 156	[10%] 5	[15%] 8	157%	45%	[16%] 34	[12%] 13	39%
うち 構造用集成材	[16%] 148	[12%] 5	[16%] 8	157%	48%	[16%] 31	[14%] 13	41%
オーストリア	[12%] 125	[12%] 6	[8%] 4	67%	40%	[11%] 25	[10%] 11	43%
うち 構造用集成材	[13%] 116	[11%] 5	[8%] 4	85%	41%	[12%] 23	[9%] 9	38%
中国	[7%] 77	[5%] 3	[3%] 2	59%	33%	[7%] 15	[4%] 5	31%
うち 構造用集成材	[5%] 45	[3%] 1	[2%] 1	65%	24%	[5%] 9	[2%] 2	20%
ロシア	[7%] 75	[8%] 4	[10%] 5	132%	63%	[8%] 17	[9%] 9	54%
うち 構造用集成材	[7%] 63	[8%] 4	[10%] 5	133%	71%	[8%] 15	[9%] 8	57%
その他	[7%] 68	[10%] 5	[6%] 3	63%	57%	[5%] 11	[8%] 9	82%
うち 構造用集成材	[0%] 0	[0%] -	[0%] -	-	-	[0%] 0	[0%] -	0%

資料：財務省貿易統計

注1：輸入統計品目表第4412.10号910、第4412.51号100、第4412.59号100、第4412.91号100、第4412.92号100、第4412.99号110、190と、第4418.81号（構造用集成材）の合計。

2：数量の上段の[]書きは、総輸入量に占める各国の割合。

3：四捨五入の関係で計は必ずしも一致しない。

4：「-」は輸入実績なし等。

5：EUに英国は含まない。

6：EUはフィンランド、ルーマニア、オーストリアの合計ではない。

林産物輸出入情報-4 木材輸入量（木質ペレット、LVL）

- 2023年2月の木質ペレット輸入量は、前月比93%、前年同月比197%の42万トンとなった。
- 国別に、前月比で見ると、ベトナム（前年輸入量に占めるシェア54%）が43%と減少する一方、カナダ（同31%）が104%と増加した。
- 前年同月比で見ると、ベトナムが118%、カナダが218%と増加した。

（単位：千トン）

国名	年	月別数量				累計数量			
		2022年 (1月～ 12月)	2023年 1月	2023年 2月	前月比	前年 同月比	2022年 1～2月	2023年 1～2月	前年 同期比
総輸入量	[100%] 4,407	[100%] 456	[100%] 423	93%	197%	[100%] 534	[100%] 879	165%	
ベトナム	[54%] 2,394	[64%] 293	[30%] 127	43%	118%	[55%] 291	[48%] 420	144%	
カナダ	[31%] 1,359	[28%] 125	[31%] 130	104%	218%	[33%] 177	[29%] 255	144%	
マレーシア	[3%] 137	[8%] 36	[2%] 9	24%	72%	[4%] 22	[5%] 45	202%	
その他	[12%] 517	[0%] 1	[37%] 158	11590%	442%	[8%] 44	[18%] 159	365%	

資料：財務省貿易統計

注1：輸入統計品目表第4401.31号000を集計。

2：数量の上段の[]書きは、総輸入量に占める各国の割合。

3：四捨五入の関係で計は必ずしも一致しない。

- 2023年2月のLVL輸入量は、前月比63%、前年同月比98%の3.2万m³となった。
- 国別に、前月比で見ると、中国（前年輸入量に占めるシェア75%）が62%、ベトナム（同20%）が56%と減少した。前年同月比で見ると、ベトナムが81%と減少する一方、中国が107%と増加した。

（単位：千m³）

国名	年	月別数量				累計数量			
		2022年 (1月～ 12月)	2023年 1月	2023年 2月	前月比	前年 同月比	2022年 1～2月	2023年 1～2月	前年 同期比
総輸入量	[100%] 527	[100%] 50	[100%] 32	63%	98%	[100%] 85	[100%] 82	97%	
中国	[75%] 397	[73%] 37	[73%] 23	62%	107%	[77%] 66	[73%] 60	92%	
ベトナム	[20%] 107	[23%] 11	[20%] 6	56%	81%	[18%] 15	[22%] 18	117%	
インドネシア	[4%] 19	[3%] 2	[5%] 2	110%	76%	[4%] 3	[4%] 3	101%	
その他	[1%] 4	[1%] 0	[1%] 0	75%	74%	[1%] 1	[1%] 1	83%	

資料：財務省貿易統計

注1：輸入統計品目表第4412.41号000、4412.42号000、4412.49号を集計。

2：LVLは、HSコードの改定に伴い、2022年1月1日より集計可能となったため、2021年以前のデータは存在しない。

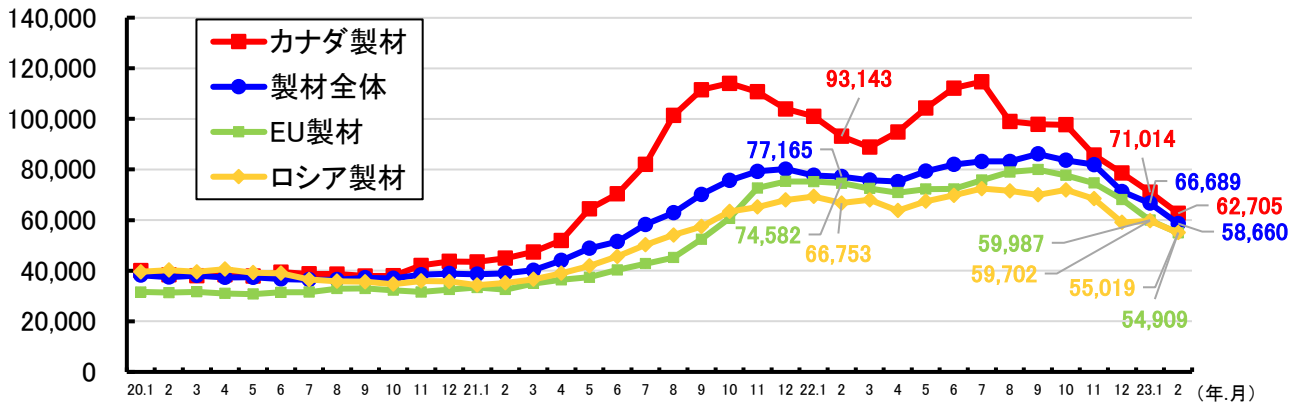
3：数量の上段の[]書きは、総輸入量に占める各国の割合。

4：四捨五入の関係で計は必ずしも一致しない。

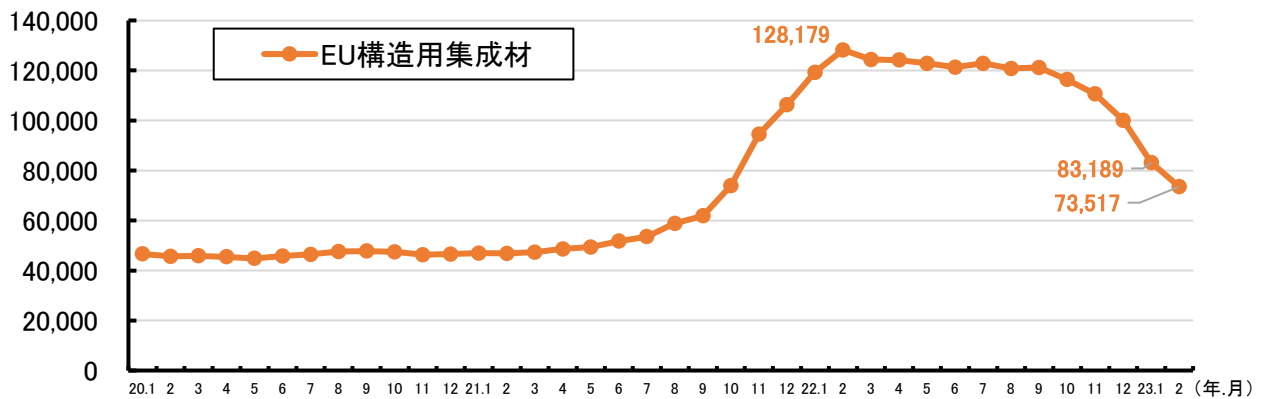
林産物輸出入情報-5 製材・構造用集成材・合板の輸入平均単価

- 2023年2月の製材輸入平均単価（総輸入額/総輸入量）は、前月比88%の58,660円/m³（前年同月比76%）。うち、カナダの製材は前月比88%の62,705円/m³（同67%）、EUの製材は前月比92%の54,909円/m³（同74%）、ロシアの製材は前月比92%の55,019円/m³（同82%）。
- 同月のEUからの構造用集成材輸入平均単価は、前月比88%の73,517円/m³（前年同期比57%）。
- 同月の合板輸入平均単価は、前月比95%の88,857円/m³（前年同期比108%）。

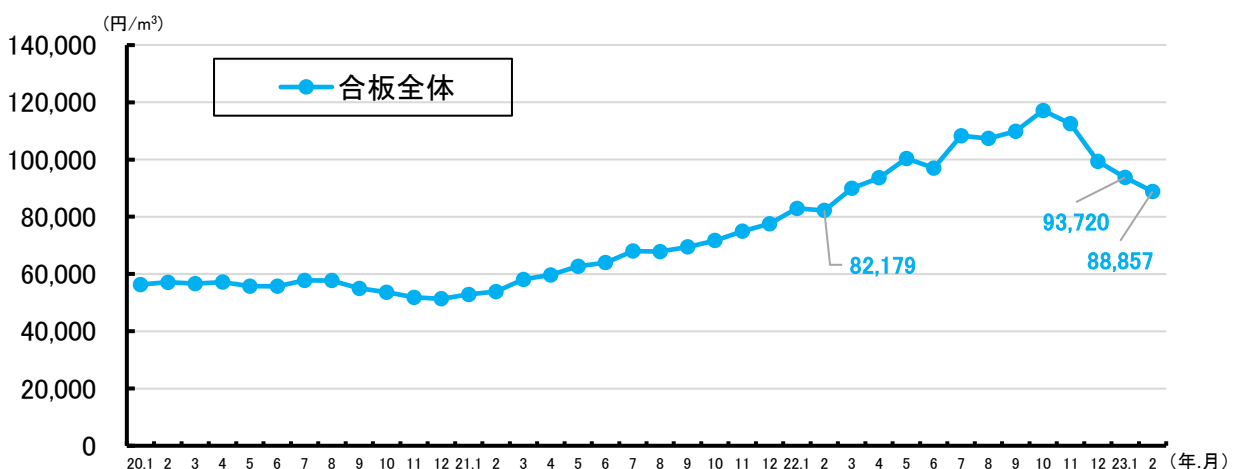
○製材の輸入平均単価
(円/m³)



○構造用集成材の輸入平均単価
(円/m³)



○合板の輸入平均単価
(円/m³)



資料：財務省貿易統計

注：輸入平均単価は、総輸入額を総輸入量で割った値。

特用林産情報-1 特用林産物の国内生産量

- 2021年の食用きのこ類の生産量は46万2,021t（対前年比99.9%）となった。
- たけのこの生産量は1万9,917t（対前年比75.3%）となった。
- 木炭の生産量は1万1,550t（対前年比89.2%）となった。

○きのこ類

単位:t

年次	品目	きのこ類													
		しいたけ計	乾しいたけ	乾しいたけ (生換算値)	生しいたけ	きのこ類		なめこ	えのきたけ	ひらたけ	ぶなしめじ	まいたけ	エリンギ	きくらげ類	まつたけ
						原木栽培	菌床栽培								
2011	平成23	97,125	3,696	25,871	71,254	10,735	60,519	25,426	143,189	2,082	118,006	44,453	38,055	643	36
2012	24	92,414	3,705	25,938	66,476	8,426	58,050	25,816	134,097	1,883	122,276	43,251	38,163	819	16
2013	25	92,437	3,499	24,491	67,946	7,707	60,239	23,383	133,647	2,290	117,363	45,453	40,200	765	38
2014	26	89,093	3,175	22,222	66,872	7,437	59,435	21,796	135,919	2,327	115,751	49,541	39,645	894	42
2015	27	86,284	2,631	18,415	67,869	7,611	60,258	22,897	131,683	3,263	116,152	48,852	39,692	1,182	71
2016	28	88,241	2,735	19,141	69,100	7,324	61,778	22,935	133,297	3,449	116,271	48,523	40,475	1,278	69
2017	29	86,767	2,544	17,807	68,961	6,393	62,568	22,946	135,615	3,828	117,712	47,728	39,088	1,710	18
2018	30	88,196	2,635	18,442	69,754	5,965	63,789	22,809	140,038	4,001	117,916	49,670	39,413	2,309	56
2019	令和元	87,971	2,414	16,901	71,071	5,914	65,157	23,285	128,974	3,862	118,597	51,108	37,635	2,315	14
2020	2	86,394	2,302	16,115	70,280	5,396	64,884	22,835	127,914	3,824	122,802	54,993	38,500	3,132	32
2021	3	86,573	2,216	15,514	71,058	4,981	66,078	24,063	129,587	4,463	119,545	54,521	38,344	3,031	39

注:まつたけの1972年までの生産量は、『農林省統計表』による。

○その他食品

単位:t

年次	品目	その他食用		
		くり	たけのこ	わさび (根茎+葉柄)
2011	平成23	19,100	32,217	2,703
2012	24	20,900	39,244	2,670
2013	25	21,000	24,203	2,381
2014	26	21,400	36,364	2,429
2015	27	16,300	28,980	2,213
2016	28	16,500	35,592	2,266
2017	29	18,700	23,582	2,214
2018	30	16,500	25,364	2,080
2019	令和元	15,700	22,285	1,973
2020	2	16,900	26,449	2,017
2021	3	15,700	19,917	1,886

注:くりの2010年～2020年の生産量は、農林水産省大臣官房統計部『果樹生産出荷統計』、『令和2年産西洋なし、かき、くりの結果樹面積、収穫量及び出荷量』による。

○非食品

年次	品目	非食品																
		生うるし	木ろう	竹材	桐材	木炭	竹炭	オガ炭	オガライト	薪	木質粒状燃料	つばき油	しきみ	さかき	煉炭	豆炭	木酢液	竹酢液
		kg	t	千束	m ³	t	t	t	t	層積m ³	t	kl	千本、t	千本、t	t	t	kl	kl
2011	平成23	1,345	16	1,184	631	22,124	1,058	8,044	1,225	87,760	78,258	80	2,214	832	11,160	11,567	2,141	287
2012	24	1,438	18	1,199	589	22,646	1,002	6,615	1,051	62,071	98,184	44	2,176	860	10,840	11,567	2,136	242
2013	25	1,045	24	1,196	647	21,409	1,119	7,060	435	74,683	110,092	36	1,960	854	7,446	8,831	2,134	232
2014	26	1,003	28	1,178	669	20,281	599	6,869	318	84,659	126,035	50	1,750	832	7,841	10,742	2,100	213
2015	27	1,182	19	1,235	599	17,723	499	7,643	261	72,493	119,570	47	1,892	1,016	6,104	8,235	2,497	185
2016	28	1,294	24	1,272	492	16,769	411	6,553	185	82,584	120,162	70	1,875	1,091	5,123	7,262	2,774	203
2017	29	1,434	15	1,196	465	15,942	526	6,628	88	82,839	126,532	61	1,881	945	6,615	7,306	2,410	193
2018	30	1,845	41	1,143	404	14,899	534	6,479	79	76,659	131,401	45	1,586	811	5,936	6,846	2,450	197
2019	令和元	1,997	26	1,071	264	14,393	447	6,481	66	73,739	147,321	40	1,524	935	4,728	6,093	2,087	193
2020	2	2,051	21	1,030	200	12,945	451	6,363	31	83,536	148,726	42	1,672	866	4,054	5,735	1,743	151
2021	3	2,036	22	916	187	11,550	459	5,156	19	91,791	155,836	78	1,865	1,075	3,972	5,123	1,708	192

- 注:1 木炭、薪の昭和47年までに生産量は『農林省統計表』による。
 2 木炭は平成3年から粉炭を含み、平成9年から竹炭を除く。
 3 煉炭、豆炭の生産量は日本煉炭工業界調べによる
 4 しきみ、さかきの単位を平成22年より千本からtに変更した。

資料: 特用林産基礎資料(第一報)

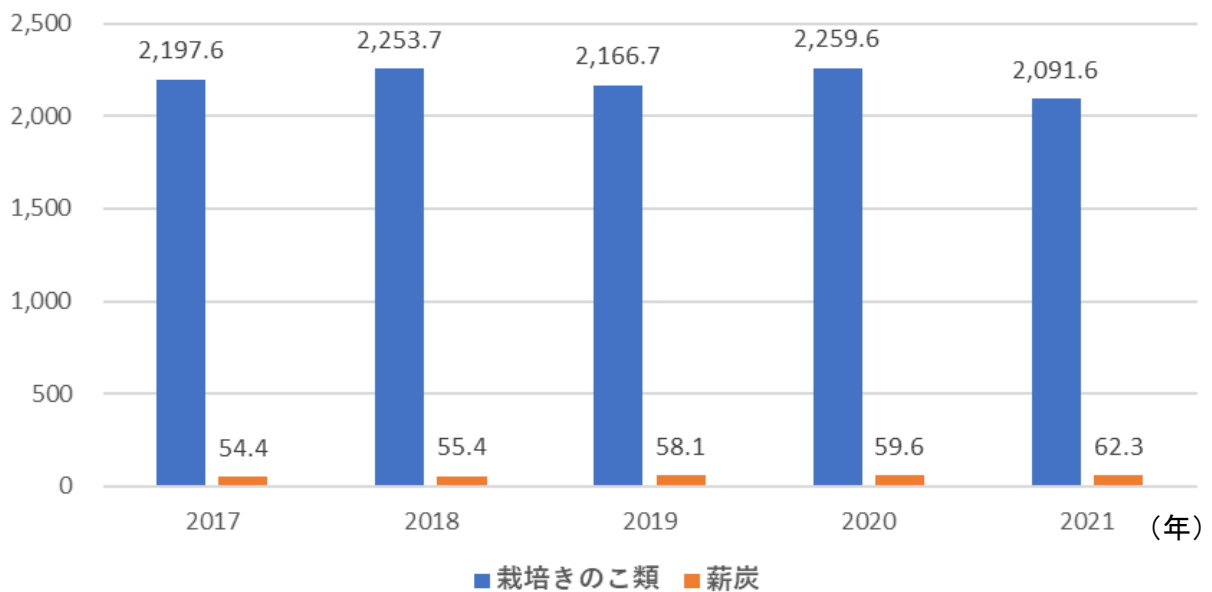
特用林産情報-2 特用林産物の産出額

- 2021年のきのこ類の林業産出額は、2,091.6億円（対前年比92.6%）となった。
- 薪炭の林業産出額は、62.3億円（対前年比104.5%）となった。

（億円）

	2017	2018	2019	2020	2021
栽培きのこ類	2,197.6	2,253.7	2,166.7	2,259.6	2,091.6
薪炭	54.4	55.4	58.1	59.6	62.3

（億円）



資料：農林水産省「令和3年林業産出額」

- 2023年1～2月の乾しいたけの輸出量は12トン、輸入量は1,111トン。
- 2023年1～2月の木炭の輸出量は25トン、輸入量は14,919トン。

品目	単位	2019		2020		2021		2022		2023 1-2月	
		輸出量	輸入量	輸出量	輸入量	輸出量	輸入量	輸出量	輸入量	輸出量	輸入量
乾しいたけ	トン	33	4,869	33	4,354	41	4,575	36	4,596	12	1,111
生しいたけ	トン	…	1,835	…	1,785	…	1,988	14	2,262	3	559
なめこ	トン	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
えのきたけ	トン	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
ひらたけ	トン	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
ぶなしめじ	トン	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
まいたけ	トン	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
エリンギ	トン	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
きくらげ類	トン	89	25,320	14	23,190	66	22,060	76	24,882	-	5,689
まつたけ	トン	…	849	…	629	…	524	…	408	…	-
くり	トン	…	9,019	…	7,371	…	8,401	…	8,481	…	656
くるみ	トン	…	52,236	…	56,478	…	67,581	…	53,991	…	11,298
たけのこ	トン	…	157,296	…	142,544	…	149,778	…	153,619	…	35,097
ねまがりたけ	トン	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
わさび	トン	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
おうれん	トン	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
きはだ皮	トン	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
木ろう	トン	7	10	4	9	5	11	5	10	1	10
生うるし	kg	…	36,254	…	30,165	…	21,910	…	…	…	11,200
つばき油	kl	…	180	…	220	…	224	…	…	…	1,089
竹皮	トン	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
竹材	千束	0	215	0	194	0	191	25	159	-	43
桐材	m ³	…	10,099	…	9,726	…	9,871	…	9,813	…	1,969
木炭	トン	460	143,953	439	79,739	270	84,224	205	80,042	25	14,919
竹炭	トン	…	9,414	12	7,605	2	6,790	6	9,666	-	2,735
木酢液	kl	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
竹酢液	kl	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
薪	層積m ³	788	1,830	468	2,326	490	7,099	0	1,664	-	2,349
オガライト	トン	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
オガ炭	トン	…	54,183	…	44,499	…	37,584	…	…	…	9,655
煉炭	トン	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
豆炭	トン	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…

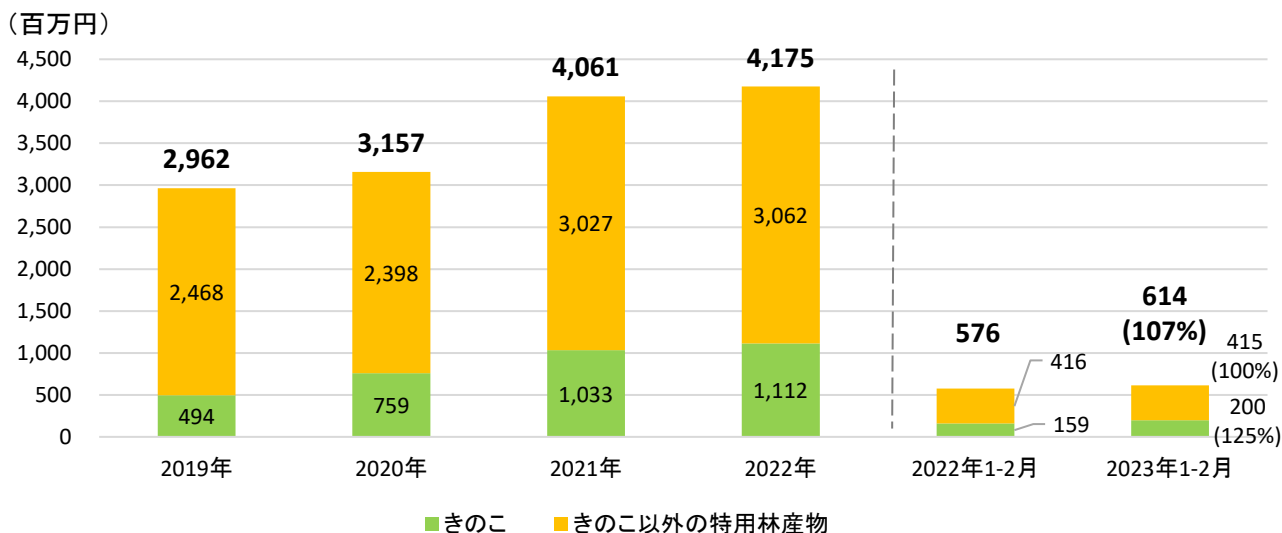
資料：財務省貿易統計

注：「…」は事実不詳又は調査を欠くもの。

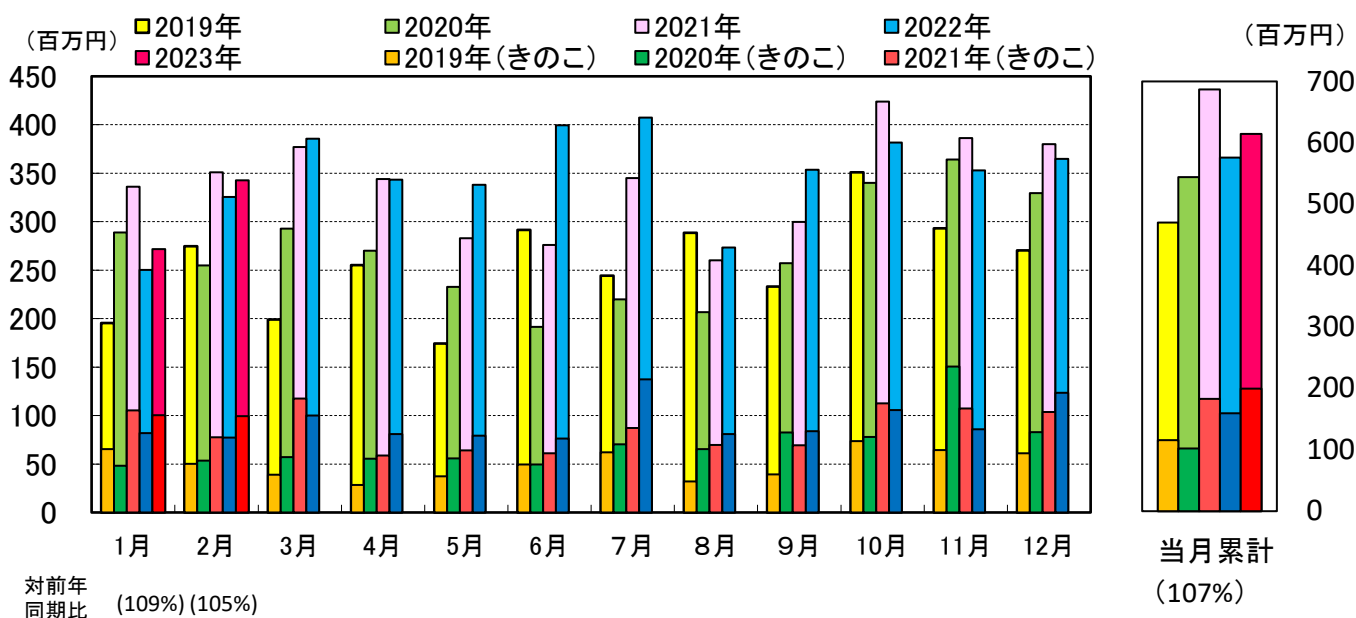
特用林産情報-4 特用林産物の輸出額①

- 2023年（1～2月）の特用林産物輸出額は614百万円（前年同期比107%）となった。内訳としては、きのこ（乾しいたけを含む）は、200百万円（対前年同期比125%）、きのこ以外は、415百万円（対前年同期比100%）となった。
- 2月輸出額は、343百万円（対前年同月比105%）となった。
- 内訳としては、きのこ（乾しいたけを含む）は、99百万円（対前年同月比129%）、きのこ以外の特用林産物は243百万円（対前年同月比88%）となった。

○特用林産物輸出額全体の推移（累計）



○特用林産物輸出額全体の推移（月別）



資料：財務省貿易統計

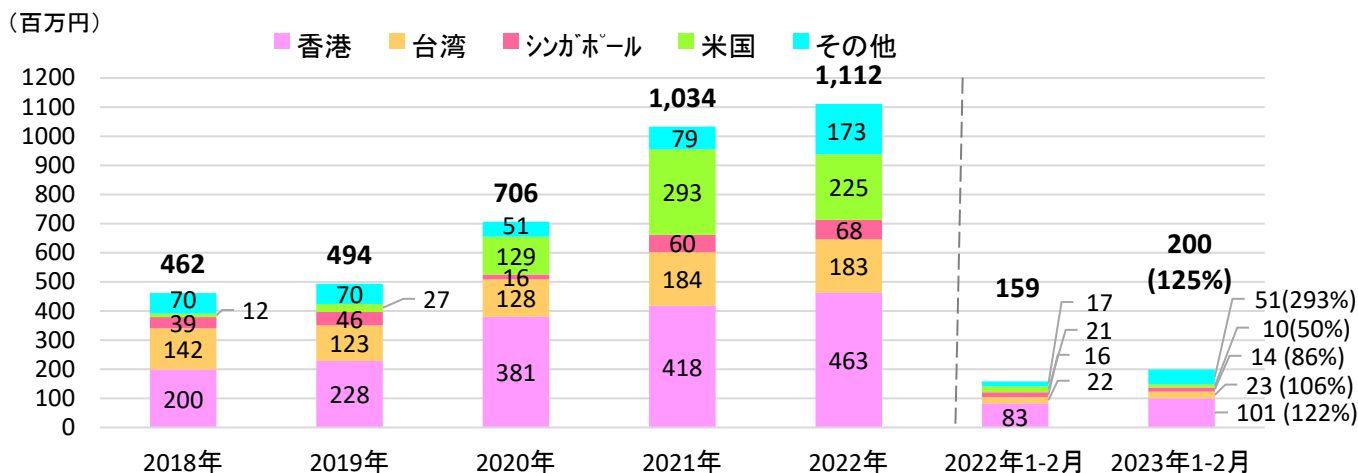
※生鮮きのこ、乾しいたけのほか、ロジン、植物性ろう等を含み、木質ペレット、チップ、薪、木炭は含まず。

※令和2年の定義見直しにより、令和3年実績から、乾燥きくらげ類、調整きのこ、保存処理をしたきのこ、しいたけ以外の乾燥きのこを計上した。

特用林産物の輸出額②

- 2023年（1～2月）のきのこの輸出額は200百万円で、対前年同期比125%となっている。国別には、主要な輸出先である香港が対前年同期比122%、台湾が106%、シンガポールが86%、米国が50%となっている。
- 2023年（1～2月）の輸出量は262トンで、対前年同期比113%となっている。主要な輸出先では、香港が対前年同期比97%、台湾が92%、シンガポールが78%、米国が64%となっている。

○きのこ（乾しいたけ含む）輸出額の推移（累計）



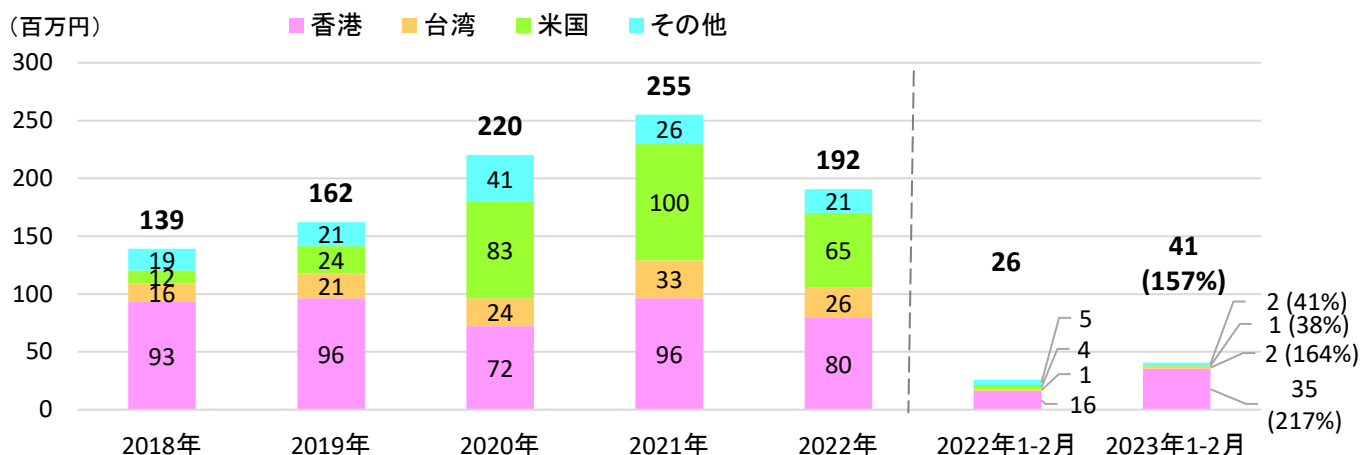
資料：財務省貿易統計

※()は対前年同期比

※令和2年の定義見直しにより、令和3年実績から、生鮮きのこ、乾しいたけに加え、乾燥きくらげ類、調整きのこ、保存処理をしたきのこ及びしいたけ以外の乾燥きのこを計上している。

- 2023年（1～2月）の乾しいたけの輸出額は41百万円で、対前年同期比157%となっている。国別には、主要な輸出先である香港が対前年同期比217%、台湾は164%、米国は38%となっている。
- 2023年（1～2月）の輸出量は6トンで、対前年同期比150%となっている。主要な輸出先では、香港が対前年同期比215%、台湾が129%、米国が55%となっている。

○乾しいたけ輸出額の推移（累計）



資料：財務省貿易統計

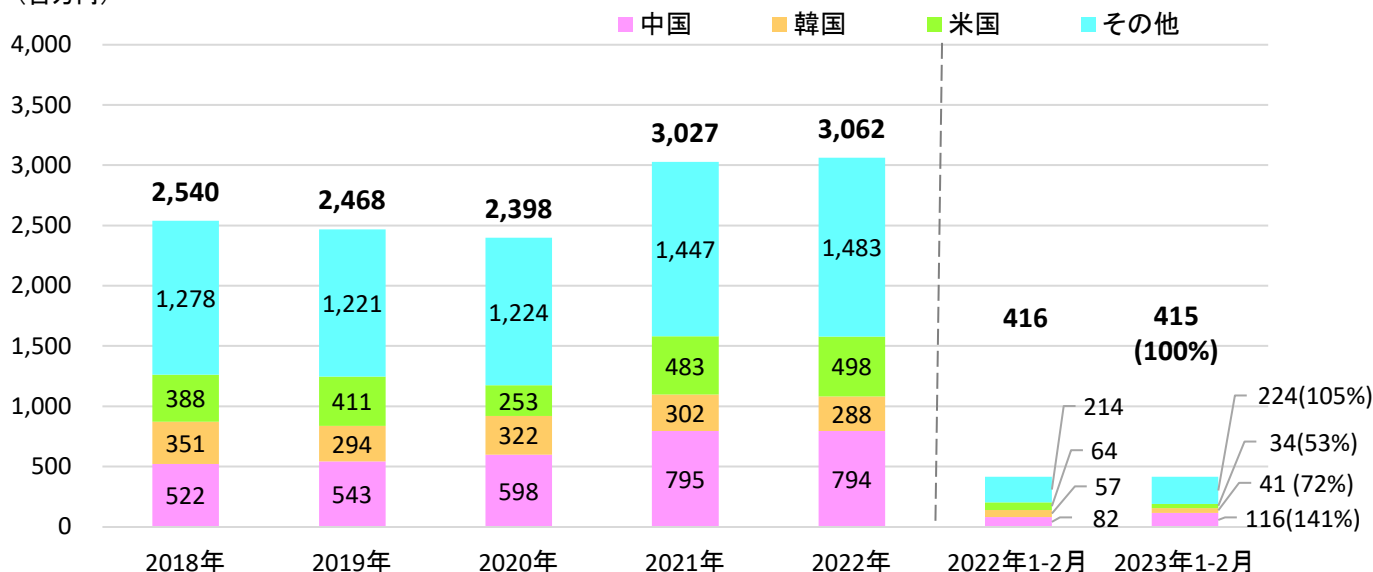
※()は対前年同期比

特用林産情報-4 特用林産物の輸出額③

- 2023年（1～2月）のきのこ以外の特用林産物の輸出額は415百万円で、対前年同期比100%となっている。国別には、中国が対前年同期比141%、韓国が72%、米国が53%となっている。取引額の大きい品目では、ロジン（松脂）が対前年同期比104%、植物性ろうが92%、テルペン油が49%となっている。
- 2023年（1～2月）の輸出量は354トンで、対前年同期比92%となっている。主要な輸出先では、中国が対前年同期比145%、韓国が53%、米国が33%となっている。

○きのこ以外の特用林産物の輸出額の推移（累計）

（百万円）



資料：財務省貿易統計

※()は対前年同期比

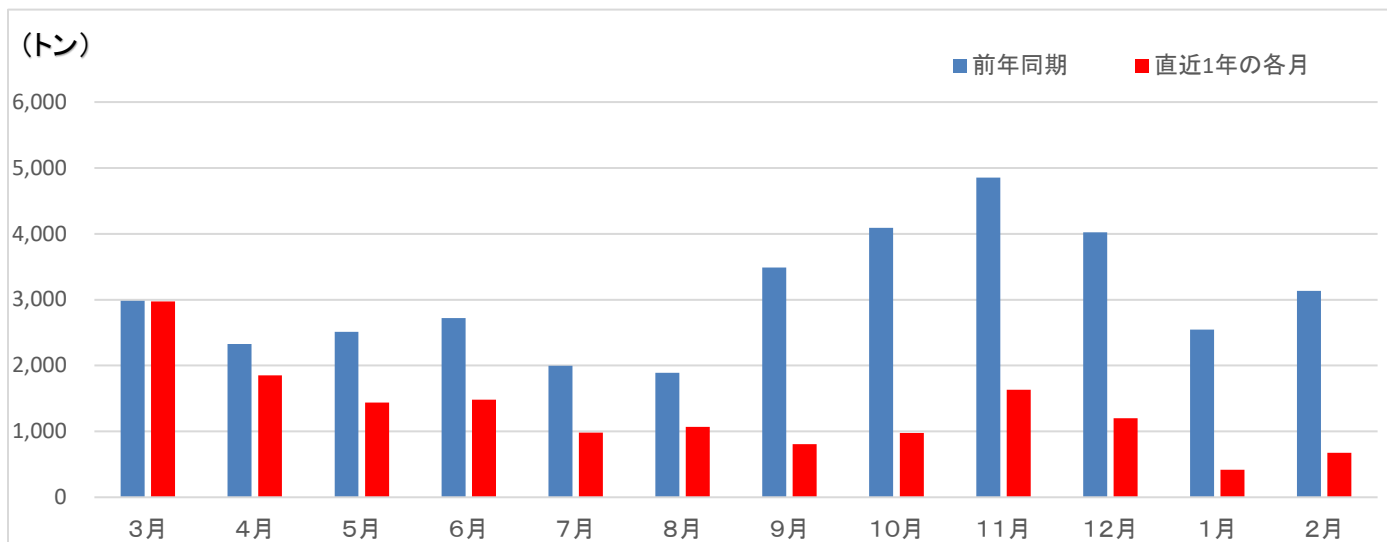
特用林産情報-5 中国からのしいたけ菌糸輸入量

- 中国からのしいたけ菌糸の輸入量は近年増加傾向にあるが、2022年4月以降は減少傾向に転じている。
- 月別の輸入量について前年と比較すると、4月以降の輸入量に減少が見られ、直近の2月には、前年の3,136トンから675トン（対前年同期比21.5%）へと大幅に減少。

○中国からのしいたけ菌糸輸入量（月別）

（単位：トン）

	2022年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2023年 1月	2月
しいたけ菌糸輸入量	2,975	1,850	1,439	1,482	980	1,068	808	979	1,634	1,199	420	675
(前年同期)	2,984	2,330	2,513	2,722	1,996	1,889	3,488	4,092	4,856	4,022	2,548	3,136



資料：財務省貿易統計

- 2023年3月のきのこの卸売数量は、6,593トン（対前年同月比96.7%）となった。
- 2023年3月のきのこの卸売総額は3,061百万円（対前年同月比99.9%）となった。

きのこ類の卸売数量

単位：トン

	2020年	2021年	2022年	2022年 3月	2022 10月	2022 11月	2022 12月	2023 1月	2023 2月	2023 3月
生しいたけ	48,466	47,744	47,222	1,554	1,669	1,766	2,067	1,541	1,398	1,489
なめこ	16,889	16,285	16,865	524	522	484	521	468	455	498
えのきだけ	98,312	99,571	99,656	2,896	3,956	3,762	4,435	3,374	2,929	2,688
しめじ	62,573	62,049	62,459	1,845	2,505	2,188	2,431	2,030	1,936	1,918
合計	226,240	225,649	226,202	6,819	8,652	8,200	9,454	7,413	6,718	6,593

きのこ類の卸売総額

単位：百万円

	2020年	2021年	2022年	2022年 3月	2022 10月	2022 11月	2022 12月	2023 1月	2023 2月	2023 3月
生しいたけ	43,781	41,270	41,300	1,381	1,717	1,748	2,402	1,766	1,461	1,379
なめこ	7,431	7,032	7,321	237	258	243	241	223	225	229
えのきだけ	26,245	23,267	23,288	695	1,039	1,125	1,480	1,247	995	696
しめじ	28,688	25,099	25,300	751	1,108	1,075	1,126	969	906	757
合計	106,144	96,668	97,209	3,063	4,121	4,190	5,249	4,204	3,588	3,061

きのこ類の卸売単価

単位：円/kg

	2020年	2021年	2022年	2022年 3月	2022 10月	2022 11月	2022 12月	2023 1月	2023 2月	2023 3月
生しいたけ	903	864	875	889	1,029	990	1,162	1,146	1,045	926
なめこ	440	432	434	452	493	502	463	476	495	459
えのきだけ	267	234	234	240	263	299	334	370	340	259
しめじ	458	404	405	407	442	491	463	477	468	395

資料：農林水産省「青果物卸売市場調査」

林野庁が関係（主催・後援等）する各種セミナー・イベントの情報をご紹介します。

■ 4月中旬以降の開催情報

イベント名	開催日時	会場	イベント概要
～美しい地球は、私達の心のハーモニーから～ 雨谷麻世 環境チャリティコンサート vol. 83～87	4月20日(木) 7月26日(水) 9月15日(金) 10月3日(火) 12月20日(水)	王子ホール、戸塚区民文化センター さくらプラザ、神田明神 ほか	歌を通じて地球環境の大切さ、命の源である緑・森の大切さを伝えるコンサートです。 主催：（特非）太陽の会 （公社）国土緑化推進機構 チケット取扱い：e+（イープラス） http://eplus.jp 詳細： https://mayocrystalvoice.com/category/concert_news/
第52回 建築総合展 NAGOYA	5月11日(木) ～12日(金)	愛知県産業労働センター・ウインクあいち	新しい材料や住宅設備機器、インテリア、エクステリア製品などを展示する木材利用などカーボンニュートラルの時代に即応した展示会です。 主催：（公社）愛知建築士会 詳細： https://www.chukei-news.co.jp/kenchiku/outline/
第26回 「木のある暮らし」 作文コンクール	●募集期間 5月15日(月) ～9月11日(月) ●表彰式 10月28日(土)	オンライン (表彰式)	日々の生活のなかにある「木」から地球環境保護の大切さを理解してもらうために小学生を対象とする作文コンクールです。 主催：（一社）日本木造住宅産業協会 詳細： https://www.mokujukyo.or.jp/lifewithwood/concours/
理想のすまいと建築フェア	6月8日(木) ～9日(金)	インテックス大阪	建築材料及び住宅設備に関する機器・技術を総合的に展示し、広く住宅・非住宅関連の最新情報を提供します。 主催：（一社）日本建築材料協会 日本経済新聞社、テレビ大阪 事前申込：要（入場料無料） 詳細： http://ken-ten.jp/

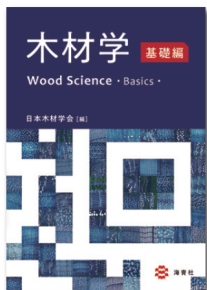
コラム 日本木材学会編「木材学」

～初心者から研究者まで、木材のことを幅広く学べる教科書

林野庁では、政策立案において科学的知見を活用していく観点から、木材をはじめ林産物に関する学術研究を推進する一般社団法人日本木材学会と定期的な意見交換を行っています。

そこで挙げられた課題の一つが、人材の育成です。近年、カーボンニュートラルやSDGsの観点から、国内外で木材利用への関心が高まる中、教育・研究分野だけでなく、企業や行政においても、木材に関する知識をもった人材が一層求められるようになってきました。

このため、日本木材学会では2023年3月、木材に関する基本的かつ最新の知見を網羅した教科書「木材学」(基礎編・応用編の全2巻、海青社)を刊行しました。木材のことを学び、理解する人材が増えていくことにより、日本の豊かな森林資源の循環利用と持続可能な社会の実現につながることを期待されます。



基礎編

- 1章 木質資源と環境影響
- 2章 木材の概観
- 3章 木部の形成
- 4章 木質の基本構造
- 5章 木材の物理的性質
- 6章 リグニンおよび木材主要成分の分離
- 7章 セルロース・ヘミセルロース
- 8章 紙・セルロースナノファイバー
- 9章 抽出成分



応用編

- 10章 木質構造
- 11章 木質建材
- 12章 木材と五感
- 13章 木材乾燥
- 14章 木材加工
- 15章 接着
- 16章 品質管理と非破壊計測
- 17章 きのこと菌類
- 18章 生物劣化と耐久性
- 19章 燃焼性と難燃・不燃

◆ 今後、木材学会HPで「木材学用語集」が一般公開予定です。 <http://www.jwrs.org/>

お知らせ

森林の売買に関する情報

～山を買いいたいという話があったときには～

- ・都市近郊林のような価値水準の高い地域以外での森林の取引においては、土地そのものの価値よりも、その土地に生育している立木の価値で評価されることが多く、立木の樹種や量（材積）、搬出条件や市況等により価格が左右されます。
- ・売却を検討する際には、森林の土地のみならず、その上にある立木の樹種や材積等の情報をしっかりと把握したり、買い手に尋ねたりすることが重要です。
- ・また、立木価格については、以下の公開情報が参考になります。

立木価格に関する公開情報

■ 一般財団法人 日本不動産研究所「山林素地及び山元立木価格調」

＜全国平均山元立木価格（北海道及び沖縄県を除く）＞

区分	単位	普通品等価格（円）	
		2022年3月	2021年3月
山元立木価格			
スギ価格	1 m ³ 当たり	4,994	3,200
ヒノキ価格		10,840	7,137
マツ価格		2,729	1,989

＜計算例＞

仮に1haのスギの人工林を所有し、そこに400m³の立木材積（歩留まりを0.75とした場合、利用材積は300m³となる）がある場合、その価格は、

（2022年3月の結果を使った場合） $400 \times 0.75 \times 4,994 = 1,498,200$ （円）
（2021年3月の結果を使った場合） $400 \times 0.75 \times 3,200 = 960,000$ （円）と計算できます。

1ha当たり利用材積

利用材積1m³当たりのスギ山元立木価格

ただし、これは上記表の全国平均の価格水準の森林であると仮定した場合の計算ですので、一つの目安の金額にはなりますが、実際には個々の森林内の立木の質等によって価格は変わるものであることに留意が必要です。

- ・山元立木価格は、規格が末口径20～22 cm、長さ3.65～4m程度の並丸太（利用材積という）について、最寄木材市場渡し素材価格から伐木・造材及び運搬費等の生産諸経費を差し引いた利用材積1 m³当たりの価格を採用しています。
- ・2022年3月末現在の調査時点では、2021年の輸入木材製品の不足・価格高騰が顕著となったこと（いわゆるウッドショック）の影響を受け、スギやヒノキ等の素材価格が上昇していたことなどから、山元立木価格についても前年から大きく上昇しました。

上記の表では調査結果の一部を抜粋して掲載しています。詳細についてはこちらをご覧ください。

【公表資料】田畑価格及び賃借料調、山林素地及び山元立木価格調（2022年3月末）の調査結果
(<https://www.reinet.or.jp/?p=29891>)

森林の土地の所有者届出制度

- ・個人、法人を問わず、売買や相続等により森林の土地を新たに取得した方は、面積に関わらず市町村長への届出をしなければなりません。ただし、国土利用計画法に基づく土地売買契約の届出を提出している方は対象外です。

森林の土地の所有者届出制度の詳細はこちらをご覧ください。

森林の土地の所有者届出制度 (<https://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/todokede/>)

■ 一般財団法人 日本不動産研究所「山林素地及び山元立木価格調」〈抜粋〉

〈都道府県別平均山元立木価格（普通品等 円/m³）〉

単位：円

都道府県	杉			桧			松		
	2022年	2021年	対前年比	2022年	2021年	対前年比	2022年	2021年	対前年比
北海道	-	-	-	-	-	-	4,933	4,158	118.6%
青森	3,970	2,643	150.2%	-	-	-	3,230	2,540	127.2%
岩手	4,725	2,826	167.2%	-	-	-	5,196	3,175	163.7%
宮城	4,510	3,144	143.4%	7,897	6,517	121.2%	2,386	1,844	129.4%
秋田	4,496	2,702	166.4%	-	-	-	-	-	-
山形	4,735	3,011	157.3%	-	-	-	2,700	2,200	122.7%
福島	4,367	2,886	151.3%	10,500	5,850	179.5%	2,333	1,850	126.1%
茨城	4,567	3,255	140.3%	9,065	6,400	141.6%	-	-	-
栃木	5,710	3,952	144.5%	12,741	7,583	168.0%	-	-	-
群馬	4,414	2,984	147.9%	8,614	6,274	137.3%	2,550	1,600	159.4%
埼玉	3,000	3,167	94.7%	9,500	6,667	142.5%	-	-	-
千葉	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東京	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川	-	2,000	-	-	-	-	-	1,800	-
新潟	4,273	2,902	147.2%	-	-	-	-	1,500	-
富山	3,663	2,413	151.8%	-	-	-	-	-	-
石川	3,000	2,572	116.6%	8,600	6,243	137.8%	2,167	1,523	142.3%
福井	4,563	2,950	154.7%	9,250	6,500	142.3%	-	-	-
山梨	3,805	2,713	140.3%	9,344	6,458	144.7%	3,250	2,231	145.7%
長野	3,444	2,156	159.7%	9,077	6,000	151.3%	3,173	2,300	138.0%
岐阜	3,634	2,573	141.2%	10,372	7,505	138.2%	-	-	-
静岡	4,454	2,833	157.2%	9,750	6,242	156.2%	-	-	-
愛知	3,000	2,000	150.0%	8,745	5,794	150.9%	-	1,500	-
三重	4,681	3,045	153.7%	10,109	6,429	157.2%	-	-	-
滋賀	4,600	3,000	153.3%	9,393	5,000	187.9%	-	-	-
京都	3,965	2,475	160.2%	7,473	5,240	142.6%	-	1,500	-
大阪	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫	2,667	1,950	136.8%	7,000	5,000	140.0%	-	-	-
奈良	3,600	2,000	180.0%	8,533	5,688	150.0%	-	-	-
和歌山	3,524	2,083	169.2%	7,838	5,500	142.5%	-	-	-
鳥取	3,413	2,233	152.8%	8,667	6,167	140.5%	-	-	-
島根	3,680	2,425	151.8%	7,550	5,633	134.0%	3,260	2,778	117.4%
岡山	3,722	2,625	141.8%	8,533	7,000	121.9%	3,000	2,333	128.6%
広島	3,391	2,254	150.4%	8,504	6,200	137.2%	3,226	2,734	118.0%
山口	3,823	2,377	160.8%	8,625	5,800	148.7%	3,000	2,300	130.4%
徳島	4,822	2,750	175.3%	10,000	5,650	177.0%	2,667	1,883	141.6%
香川	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛	5,128	3,102	165.3%	10,600	6,386	166.0%	3,036	2,261	134.3%
高知	4,389	2,743	160.0%	10,169	6,016	169.0%	-	-	-
福岡	4,438	2,399	185.0%	9,935	6,086	163.2%	-	-	-
佐賀	4,300	2,700	159.3%	9,089	6,156	147.6%	-	-	-
長崎	4,513	2,760	163.5%	9,800	6,083	161.1%	-	-	-
熊本	4,955	3,065	161.7%	9,820	6,235	157.5%	-	1,000	-
大分	4,533	2,900	156.3%	9,534	6,335	150.5%	1,867	1,000	186.7%
宮崎	4,750	2,887	164.5%	8,918	5,835	152.8%	3,030	2,300	131.7%
鹿児島	4,538	2,628	172.7%	8,636	5,500	157.0%	-	-	-

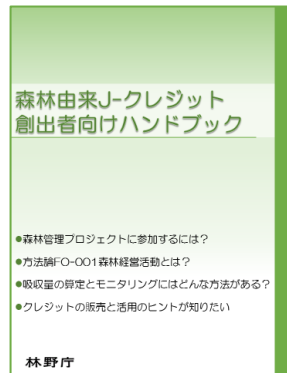
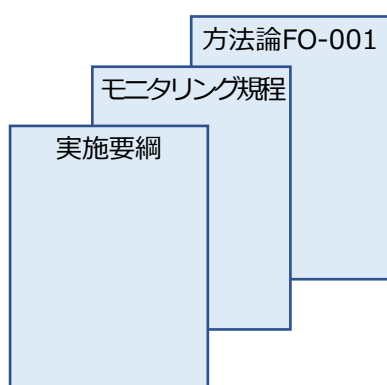
「-」の都道府県は、集計客体数が少ないため、表象できなかった。

森林由来J-クレジット創出者向け ハンドブックの公表について

J-クレジットの創出に初めて取り組む森林・林業関係者に向けて、必要な手続やクレジット創出の際のコツやポイントなどをできる限り分かりやすく解説したハンドブックを公表しました！

- ・森林由来J-クレジットのプロジェクトに取り組みたいけれど、どこから手を付けていいかわからない
- ・制度文書が難解で、出てくる言葉の意味がわからない
- ・実際にどのような手続や書類が必要なのか知りたい
- ・吸収量算定のモニタリングはどうやって行うのか知りたい
- ・販売と活用のヒントを知りたい

などの各種の疑問に対してお答えするハンドブックです。ぜひご活用ください！



第1章	森林管理プロジェクトに参加するためのポイント
第2章	方法論FO-001の実施手続
第3章	吸収量の算定方法とモニタリング方法
第4章	プロジェクト実施者の義務
第5章	クレジットの販売と活用

多岐にわたる制度文書・・・

一冊のハンドブックに！

検証に対するチェックポイント

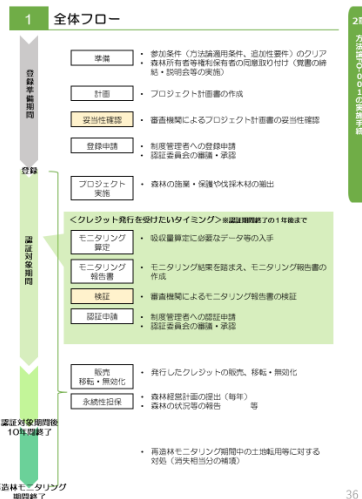
審査機関による検証で誤り等が多く指摘されるポイントとしては、吸収量算定に関するデータ（地径、樹高などの誤りを含む）、面積、樹高の誤りが挙げられるほか、単純ミスも多くなっています。

翌年度検証のときと同様、提出時には、担当者以外の者によるダブルチェックなども実施して、審査機関による検証を効率的に進められるよう準備しましょう。

<特に再チェックしたいポイント>

- 面積や樹高・樹高節径などの実測
 - ✓ 測定に用いる機器のメンテナンスやキャリブレーションは適切に実施しましたか。
 - ✓ 審査機関による検証前に測定の見直しができるよう、データ等を適切に保存しましたか。
- 地位の特定
 - ✓ 当初測定の緯度のパラメータ（土層樹高・平均樹高）は確認しましたか。パラメータに即して樹高測定をする樹木の測定をしましたか。
- 作業の記録
 - ✓ 森林地の造業履歴、伐採等個、補助事業の関係書類など
- その他のおよくなる点
 - ✓ 様式は最新のものを使用していますか。
 - ✓ 自ら様式に入力する必要のある係数は最新のものを正しく入力できていますか。
 - ✓ 根拠資料からの転記内容に誤りはありませんか。別の小別の数値等を入力し忘れていないですか。
 - ✓ 記載したデータの根拠となる資料は準備ができていますか。

ハンドブックでは、全体のフローや手戻りの多いポイントなどについて紹介！



ハンドブックはこちらから↓

https://www.rinya.maff.go.jp/j/sin_riyou/ondanka/J-credit.html

お問合せ先：林野庁森林利用課 森林吸収源推進班 (TEL : 03-3502-8240)

お知らせ

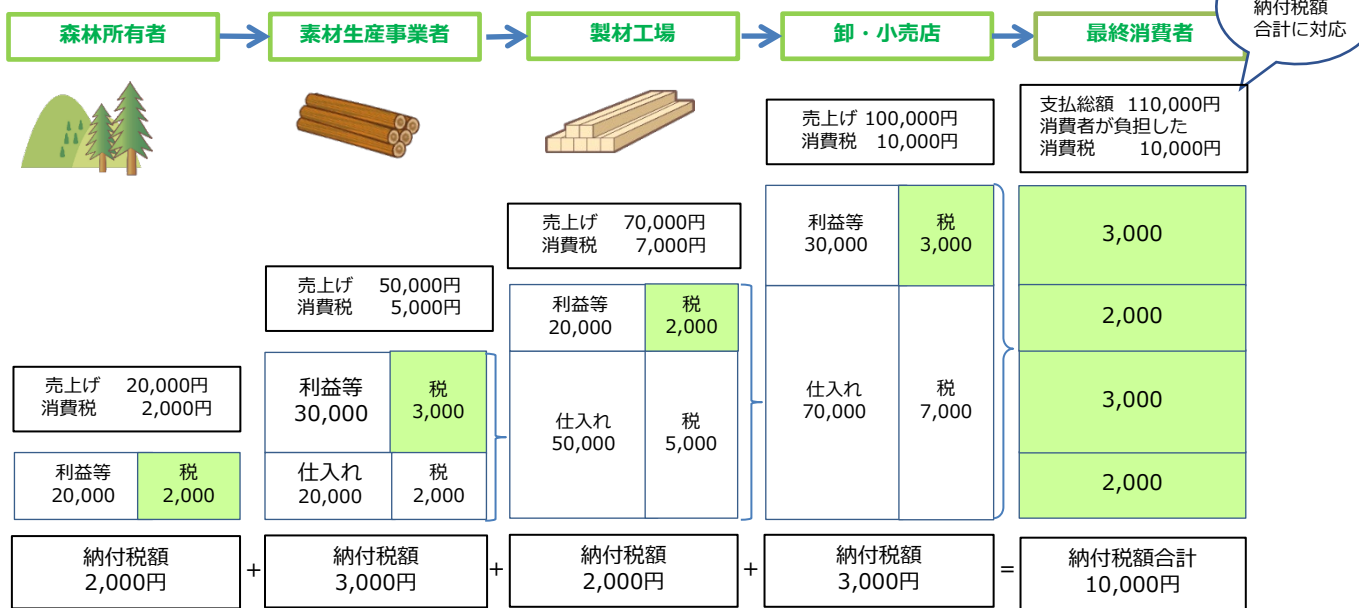
消費税のインボイス制度（適格請求書等保存方式）が令和5年10月1日から始まります！



○ 消費税とは

- 商品の販売やサービスの提供などの取引に対して広く公平に課される税です。
- 消費税は消費者が負担しますが、納税は事業者が行います。
- 消費税は、売上げに係る消費税額から、仕入れに係る消費税額を差し引いて計算した額を納税します。（仕入れに係る消費税額を差し引くことを「仕入税額控除」といいます）

消費税の仕組み（イメージ）



○ インボイス制度のポイント

- 令和5年10月1日から、事業者が仕入税額控除を行うためには、原則として、仕入先からインボイス（適格請求書）を発行してもらい、保存しておく必要があります。
- このインボイスは、税務署長の登録を受けたインボイス発行事業者（課税事業者）のみが発行できます。（免税事業者は、インボイス発行事業者の登録を受けられないためインボイスの発行ができません。）
- 登録を受けると、課税事業者として消費税の申告が必要となります。



納付する消費税額の計算方法

※ 消費税額は、税率ごとに区分して計算する必要があります

$$\text{売上げに係る消費税額 (売上税額)} \overset{\text{マイナス}}{-} \text{仕入れや経費に係る消費税額 (仕入税額)} = \text{納付する税額 (納付税額)}$$

仕入れに係る消費税額を差し引くこと = 仕入税額控除

仕入税額控除にはインボイスの保存が必要

インボイスがなければ仕入税額控除できない※

※ 一定期間、経過措置が設けられています

インボイス（適格請求書）とは？

- 丸太等を購入した買手に対し、正確な適用税率や消費税額等を伝えるために、登録番号※、適用税率、消費税額等を記載した請求書です。
(※ 登録番号は、登録後に税務署から通知される番号です)
- 「インボイス」という名称の書類を新たに作成する必要はなく、現在の請求書や領収書等に不足する項目を追加するイメージです。

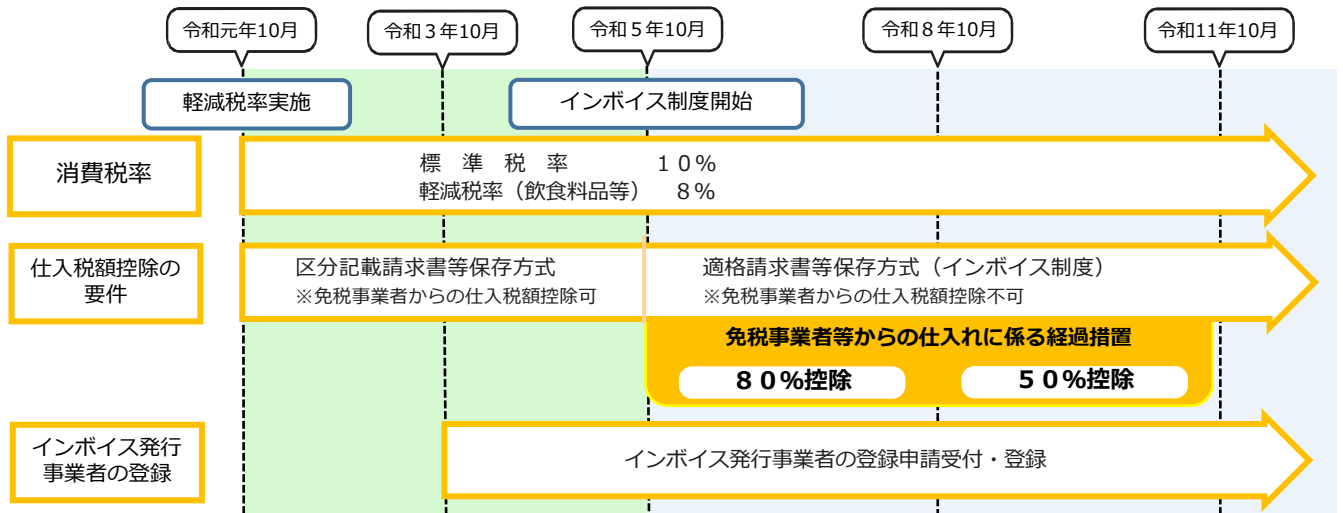
【インボイスのイメージ】

請求書		
●●(株)御中	登録番号	〇〇会社 (T1234...)
〇年〇月分	請求金額	115,400円
〇月〇日	丸太	110,000円
〇月〇日	乾しいたけ※	5,400円
	合計	115,400円
適用税率	10%対象	110,000円 内税 10,000円
	8%対象	5,400円 内税 400円
	※は軽減税率対象	消費税額等

赤字が従来の区分記載請求書との変更点 →

○ スケジュール及び免税事業者からの課税仕入れに係る経過措置

- インボイス発行事業者となるためには、令和5年9月30日までに登録申請書を提出することで、令和5年10月1日の制度開始時に登録が可能です。
(登録通知が届くまで一定期間を要するため、登録を受ける事をお決めの方は、お早めの申請をおすすめします)
- インボイス制度の開始後6年間（令和11年9月30日まで）は、免税事業者等が発行する従来の区分記載請求書等に基づき、一定の割合で仕入税額控除ができる経過措置が設けられています（下図）。



○ インボイスの保存を必要としない仕入税額控除の特例

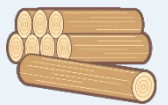
- 森林所有者や林業者等が森林組合や農協等に委託販売する場合（組員が、無条件委託方式かつ共同計算方式により販売委託するものに限る※1）は、インボイスの交付義務が免除され、購入事業者は、森林組合等が発行する書類に基づいて仕入税額控除をすることができます。（協同組合特例）

① 無条件委託方式

出荷した農林水産物について、売値、出荷時期、出荷先等の条件を付けずに、その販売を委託すること

② 共同計算方式

一定の期間における農林水産物の譲渡に係る対価の額をその農林水産物の種類、品質、等級その他の区分ごとに平均した価格をもって算出した金額を基礎として精算すること



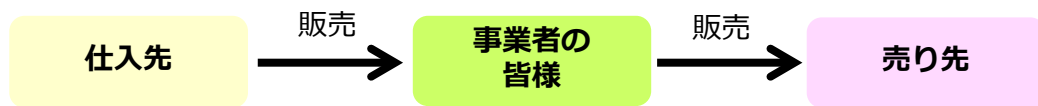
- 卸売市場※2を通じた生鮮食料品等の委託販売の場合（中央・地方卸売市場とそれらに準ずる市場に限る）についても、インボイスの交付義務が免除され、購入事業者は卸売市場等が発行する一定の書類の保存で、仕入税額控除が可能となります。（卸売市場特例）

※1 原木市場等では、一般的に、それぞれの桧に含まれる出荷者の材の数量が把握でき、出荷者ごとの材の数量と桧ごとの単価により精算されますが、このような精算方法は共同計算方式には当たりません。

※2 特例の対象となる卸売市場とは生鮮食料品等の卸売のために開設される市場であって、木材市場は対象となりません。

○ 消費税インボイス制度への対応

インボイス制度が開始されるに当たり、森林・林業・木材産業の事業者の皆様は、次のような対応や検討が必要になります。



課税事業者の場合

(基準期間における課税売上高が1,000万円を超える事業者等。消費税の納税義務があります。)

<売り先との関係>

- ① インボイス発行事業者となるためには、**税務署長の登録を受ける必要**があります。
- ② インボイスとして売り先に発行する請求書等に、現行の区分記載請求書の記載事項に加えて、登録番号、適用税率（8%、10%）、消費税額等を記載する必要があります。
- ③ **売り先の求めに応じて、インボイスを発行する必要**があります。



<仕入先との関係>

- ④ **仕入先がインボイス発行事業者であるか確認する必要**があります。
- ⑤ 仕入税額控除を適用するためには、原則として、仕入先からインボイスを発行してもらい、保存しておく必要があります。
- ⑥ **仕入先が免税事業者の場合は、インボイスを発行してもらえないため、仕入税額控除ができなくなることによる影響（※1・2）を踏まえて、仕入先や売り先と価格面を含め適正な取引条件等を話し合って決めておいて下さい。**その際、**一方的な取引価格の引下げや取引の打切りは、独占禁止法上の問題（優越的地位の濫用）となるおそれ**があります。また、消費税の性質上、免税事業者であっても自らの仕入れや諸経費に係る消費税を負担しているので、その分は免税事業者の取引価格に織り込まれる必要があります。

- ※ 1 仕入先が免税事業者等のインボイス発行事業者でない場合であっても、**制度開始後6年間は、一定割合の仕入税額控除ができる経過措置が設けられています**（P2）。
- ※ 2 課税売上高が1億円以下である事業者は、**制度開始後6年間は、税込1万円未満の課税仕入れについて、一定の事項を記載した帳簿のみの保存で仕入税額控除ができる措置が設けられています。**

簡易課税事業者の場合

(基準期間における課税売上高が5,000万円以下の事業者が選択できます。売上税額から消費税の納税額を計算します。)

<売り先との関係>

課税事業者の場合の①～③と同じ

<仕入先との関係>

特段の対応の必要はありません。

※ 売上税額と「みなし仕入率」によって消費税の納税額を計算するため、**仕入先からインボイスを発行してもらう必要がありません。**

簡易課税制度を選択した場合の計算方法

納付する税額 =

売上げの消費税額 \times $\frac{1}{1.1}$ \times **仕入れや経費の消費税額**

売上げの消費税額 \times みなし仕入率

インボイスは
保存不要

売上税額がわかれば
納付税額の計算が可能

業種ごとに
決められている

事業区分	該当する事業	みなし仕入率
第一種	卸売業	90%
第二種	小売業、農林漁業（飲食料品）	80%
第三種	製造業、農林漁業（飲食料品除く）等	70%
第四種	その他事業（飲食店業等）	60%
第五種	サービス業等	50%
第六種	不動産業	40%

消費税の申告に際して、**仕入れや経費の消費税額の実額計算、インボイスの保存が不要**となり、**事務負担の軽減**を図ることができます！

(注) 簡易課税制度の適用には、事前の届出書の提出と、基準期間の課税売上高が5,000万円以下であることが必要です。

<売り先との関係>

- ① インボイスを発行できません。
- ② 売り先が消費者、免税事業者、簡易課税事業者である場合、森林組合、農協、事業協同組合等への委託販売を行う場合（組合員が無条件委託方式かつ共同計算方式により販売委託するものに限り※1）、卸売市場を通じた生鮮食料品等の委託販売を行う場合（中央・地方卸売市場とそれらに準ずる市場に限り※1）は、インボイスの発行を求められないため、これまでの取引と何ら変わりません。
 - ※1 原木市場等では、一般的に、それぞれの極に含まれる出荷者の材の数量が把握でき、出荷者ごとの材の数量と極ごとの単価により精算されますが、このような精算方法は共同計算方式には当たりません。
- ③ 売り先が簡易課税制度を選択していない課税事業者である場合は、売り先が仕入税額控除をできなくなるため※2・3、**売り先と価格面を含め適正な取引条件等を話し合っておいて下さい。**なお、今後の経営発展等を考えて、課税事業者（簡易課税事業者を含む）へ転換することも選択肢の一つとして考えられます。
 - ※4・5
 - ※2 制度開始後6年間は、免税事業者の発行する従来の区分記載請求書等に基づき、一定割合の仕入税額控除ができる経過措置が設けられています（P2）。
 - ※3 売り先が課税売上高1億円以下の事業者である場合、制度開始後6年間は、税込1万円未満の少額な取引について、インボイスの保存がなくても仕入税額控除ができる措置が設けられているため、これまでの取引と変わりません。
 - ※4 インボイス発行事業者の登録を受けるかどうか（課税事業者等へ転換するかどうか）は**事業者の任意**です。
 - ※5 免税事業者からインボイス発行事業者となる場合、制度開始から3年間は、納税額を売上税額の2割に軽減する措置（2割特例）が設けられています。2割特例は確定申告時に選択することができ、当該事業者が簡易課税制度を選択していたとしても、確定申告時に2割特例を選択することができます。

<仕入先との関係>

特段の対応の必要はありません。



免税事業者の方や、取引先が免税事業者である場合の対応に関する考え方

仕入先である免税事業者との取引について、インボイス制度の実施を契機として取引条件を見直すことを検討する場合に、一方的な取引価格の引下げや取引の打ち切りなど、独占禁止法上の問題（優越的地位の濫用）等とならないように注意する必要があります。

関係省庁連名で、令和4年1月19日付「免税事業者及びその取引先のインボイス制度への対応に関するQ&A」（財務省・公正取引委員会・経済産業省・中小企業庁・国土交通省）が公表されていますので、制度への理解を深め、必要な対応をご検討いただく際に参考としてください。

免税事業者等
Q & A



○ インボイス制度に関するお問合せ

農林水産省（林野庁）の相談窓口

インボイス制度に関する相談ダイヤル（林業・木材産業関係）

林野庁企画課 **03-3502-8111**（内線**6064**）【受付時間】9:30～17:00（土日祝除く）

メールアドレス syouhizei_rinya@maff.go.jp

農林水産省サイト



国税庁ホームページ インボイス制度特設サイト

インボイス制度のより詳しい情報や、国税庁が行っているオンライン説明会の模様、申請手続きに関することや、Q&Aなどを掲載しています

国税庁特設サイト



財務省ホームページ「令和5年度改正におけるインボイス制度の改正について」

令和5年度税制改正における、インボイス制度の負担軽減措置に係る改正内容について掲載しています

税制改正特設サイト



インボイスコールセンター

インボイス制度に関する一般的なご質問やご相談は、以下で受け付けています
【専用ダイヤル】0120-205-553【受付時間】9:00～17:00（土日祝除く）

林業信用保証のご案内

公的機関が林業・木材産業に必要な資金の保証を行います

■ 一般資金への保証

林業・木材産業に必要な運転資金及び設備資金を幅広く対象にする保証です。
(原則80%保証。一被保証者当たりの保証限度額は財務状況に応じて6億円以下です。)

■ 林業・木材産業災害復旧対策保証

林野庁長官が指定した災害（新型コロナウイルス感染症、原油価格・物価高騰等による影響を含む。）による影響を受けた方の復旧、資金繰り安定化のための資金に対する保証です。
(最大5年間保証料免除。罹災証明書等をご準備いただくことが必要です。)

■ 制度資金への保証

林業・木材産業の経営改善のための新たな計画や事業を合理化する計画を作成して、都道府県知事の認定を受けた方が、計画に従って事業を行うための資金に対する保証です。
林業・木材産業改善資金、木材産業等高度化推進資金の保証も行っています。
(都道府県による貸付限度額の定めがあります。)

● 林業・木材産業改善資金

林業・木材産業の経営の改善を目的として、新たな取組を行うために必要な設備資金を無利子で融資する制度です。

● 木材産業等高度化推進資金

木材の生産及び流通を円滑にすることや効率的・安定的な林業経営を図るために必要な運転資金を低利で融資する制度です。

※保証のご利用には審査があります。審査の結果、ご希望に添えない場合があります。

【相談窓口】

独立行政法人農林漁業信用基金

電話：03-3434-7825（林業信用保証管理部：都道府県又は一般の方）
03-3434-7826、7827（林業信用保証業務部：融資機関の方）

制度の概要、活用事例などはこちら

<https://www.jaffic.go.jp/guide/rin/index.html>

お気軽にご相談ください。



ウッド・チェンジ ロゴマーク 活用のご案内

ウッド・チェンジ ロゴマークは、「ウッド・チェンジ (※)」の趣旨に賛同し、木材利用の取組を積極的に推進していることのPRにご使用いただけます！（例：ポスター、チラシ、webサイト等）

広くロゴマークをご使用いただくことで、「ウッド・チェンジ」の輪が大きくなり、「木づかい運動」を盛り上げ、木材利用の需要拡大につながります。多くの方の使用登録をお待ちしています！

(※) ウッド・チェンジとは、身の回りのものを木に変える、木を暮らしに取り入れる、建築物を木造・木質化するなど、木の利用を通じて持続可能な社会へチェンジする行動を指します。

【背景】

林野庁では、日本の森林の健全な維持やカーボンニュートラルにつながる「伐って、使って、植えて、育てる」という森林資源の循環利用を促進するため、建築物等の木造・木質化や身近なものの木製品化による木材利用拡大に取り組んでいます。

その一環で国民運動として「木づかい運動」を展開しており、「ウッド・チェンジ」を合言葉に様々な取組を行っています。



WOOD  CHANGE

WOOD  CHANGE



【ロゴマークの使用申請について】

1. ウッド・チェンジ ロゴマーク使用規程をご確認の上、内容にご了承いただける場合には、使用を開始する日の5日前（土、日、祝日の日数は算入しない）までに、登録フォームに必要事項を入力して申請してください。
2. 使用を認められないと判断される場合のみ、遅滞なく通知いたします。

(注) 使用が認められない場合の例として、営利を主たる目的とする場合が該当します。

例えば、販売して収益を上げる予定の布バッグやTシャツの柄としてロゴマークをプリントするなど、商品そのものへのマークの使用はお控えください。

なお、商品のチラシやパッケージ、イベントで着用するTシャツや配布者自ら製作する頒布品等に使用することは問題ありません。

ロゴマークの使用規程・ガイドライン、申請登録フォームなど、詳細はこちらから↓
<http://www.rinya.maff.go.jp/j/riyou/kidukai/wood-change-logo.html>

お問い合わせ先：林野庁木材利用課 消費対策班 (TEL : 03-6744-2298)





緑の募金

森林もりを守るまも
森林もりを活いかす

原画：根本由愛さん


ご協力を
お願いいたします

「緑の募金」は、身近な地域の森づくりをはじめ、国内外の森づくりや人づくりなどに大切に活用されています。



緑の募金
ご協力をお願いします

春の新緑シーズン(1月~5月)と秋の紅葉シーズン(9月~10月)の年2回
家庭募金、街頭募金、職場募金、企業募金、学校募金などによって行われています。

緑の募金に関するお問い合わせはこちらまで
公益社団法人 国土緑化推進機構  0120-110-381
ホームページ <https://www.green.or.jp> 電子メールアドレス bokin@green.or.jp

